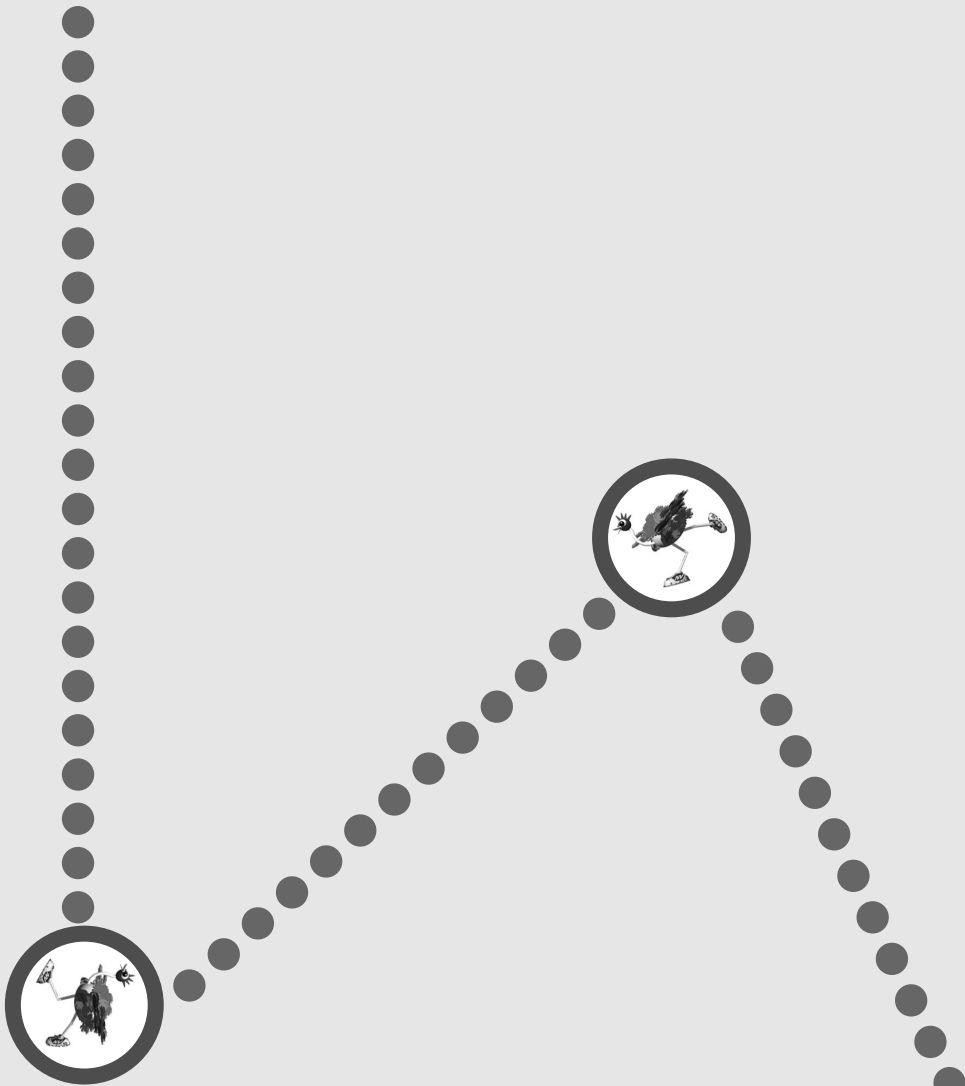


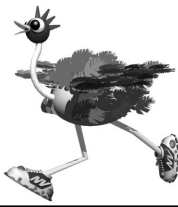
NetVehicle 取扱説明書



NetVehicle-S20

基本編





はじめに

このたびは、NetVehicle-S20 をお買い上げいただき、まことにありがとうございます。

NetVehicle-S20 (以降 NetVehicle と略します) は、INS ネット 64 などの ISDN 回線や OCN、DA64/128 などのデジタル専用線を使用して、インターネットサービスプロバイダやルータとの LAN-WAN 通信を行うための小型ルータです。

NetVehicle では WWW ブラウザを使用して、各種設定を簡単に行うことができます。また、設定画面は WWW のホームページと同じハイパーテキスト形式になっているので、設定方法や設定項目の説明をクリックひとつで参照できます。

インターネットや LAN をさらに活用するために、NetVehicle をご利用ください。

2002 年 8 月

回線料金に関するご注意

ISDN 回線に接続して NetVehicle をご利用になる場合には、下記のことを必ず守ってください。下記内容をご理解せずに本装置をご使用された場合、お客様のご利用環境によっては、予期しない高額な通信料金が請求される可能性があります。

本装置の B1 または B2 ランプが、緑色で点灯または点滅しているときは、通信料金が加算されています。本装置ご利用の際は、ランプ表示により、回線の接続状態を必ず確認してください。

本装置は、10BASE-T ポートに接続したパソコンからの要求により、自動的にダイヤル発信を行い回線を接続します。そのため、お客様がご使用になれる機器、ソフトウェア、または LAN の利用条件により、不要なダイヤル発信が行われ回線が接続されてしまう場合があります。ご使用の際は、本書の指示に従い定期的に (1 日最低一回) ログイン情報を採取し、不要なダイヤル発信が行われていないかどうかを確認してください。詳細は、「課金情報を確認する」(P.94) を参照してください。

何もしていないのに、一定周期にダイヤル発信が行われて回線が接続される、一度接続された回線が自動的に切断されないなど、異常な現象が見受けられた場合には、直ちに本装置から ISDN 回線ケーブルを引き抜き、本書の指示に従い原因の調査を行ってください。詳細は、「第 6 章 利用料金に関するご注意」(P.89) を参照してください。

本装置には通信に対し、上限金額 / 上限時間が設定でき、月々の回線料金がお客様の意図しない金額にならないよう、上限を超えた場合に新たなダイヤル発信を行わない / 着信は可能 / 設定がされています。お客様のご利用計画に沿って必要があれば累計金額の上限を変更することもできます。詳細は、応用編の「課金制御機能を設定する」(P.168) を参照してください。

目次

はじめに	1
コピーライトについて	9
安全上のご注意	11
警告表示について	11
電池に関するご注意	13
メンテナンスに関するご注意	14
使用上のご注意	14
ファームウェアの更新について	14
避雷対策について	14
セキュリティの確保について	14
電波障害自主規制について	14
ハイセイフティについて	14
説明書の構成と使いかた	15
本書の使いかた	16
マークについて	17
本書における商標の表記について	17
NetVehicle でできること	18

第1章 お使いになる前に

21

梱包内容 / 各部の名称と動きを確認する	22
NetVehicle 前面	23
NetVehicle 背面	24
NetVehicle 側面	25
NetVehicle 底面	27
NTT 回線加入契約の内容を確認する	28
「INS ネット 64」または「INS ネット 64・ライト」を新規に申し込む場合は	28
プロバイダとの契約内容を確認する	30
プロバイダと新規に契約する場合は	31

第2章 NetVehicle と回線をつなぐ

33

ISDN 回線をつなぐ	34
NetVehicle の接続手順	34
ISDN 回線をつなぐ	35
アナログ機器をつなぐ	36
アース線をつなぐ	37
電源をつなぐ	37
電話が利用できることを確認する	38
専用線をつなぐ	39
NetVehicle の接続手順	39
専用線をつなぐ	40
電源をつなぐ	40

第3章 パソコンを設定する 41

パソコンを LAN でつなぐ場合は.....	42
LAN カードを用意する	42
TCP/IP プロトコルを利用できるようにする.....	42
WWW ブラウザを用意する	47

第4章 NetVehicle とパソコンをつなぐ..... 49

新規に LAN を構築する	50
パソコンをつなぐ.....	50
ハブを使って LAN を構築する	51
既存の LAN を構築する	52
ネットワークの状況を確認する	52
IP アドレスを設定する	53
NetVehicle をつなぐ	54

第5章 NetVehicle を設定する..... 55

設定を始める	56
NetVehicle とパソコンの電源を入れる	56
WWW ブラウザを起動して NetVehicle のトップページを表示させる	56
時計を設定する	58
設定方法を選ぶ.....	60
「かんたん設定」で設定する場合.....	60
「詳細設定」で設定する場合	60
「かんたん設定」で設定する（インターネットへISDN 接続のとき）.....	61
「かんたん設定」で設定する（インターネットへフレッツ・ISDN 接続のとき）.....	66
「かんたん設定」で設定する（インターネットへ専用線接続のとき）.....	70
「かんたん設定」で設定する（オフィスへISDN 接続のとき）.....	74
「かんたん設定」で設定する（オフィスへ専用線接続のとき）.....	78
「かんたん設定」で設定する（アナログ設定）.....	81
電話機を使って設定する	82
時計を設定する	82
IP アドレスを設定する	83
アナログ機能を設定する	84
着信転送先の設定を行う	85
TEL メールの設定を行う	86
メールチェックを実行する	86
メール着信を消去する	87
留守状態の設定を行う	87
留守モードの設定を行う	88

第6章 利用料金に関するご注意..... 89

回線料金がおかしいと思ったら	90
超過課金の見分け方	90
超過課金が発生した原因を調べる	90
課金情報を確認する	94

第7章 困ったときには..... 97

通信ができない場合には 98
 起動時の動作に関するトラブル..... 98
 NetVehicle 設定時のトラブル 99
 回線への接続に関するトラブル..... 100
 データ通信に関するトラブル..... 103
 アナログ機器に関するトラブル..... 105
 その他のトラブル..... 105
ご購入時の状態に戻すには 106

付 録 109

バックアップ用電池について 110
 電池に関するご注意 110
 電池をセットする 111
 停電時の動作について 112
スイッチ設定例 113
 NetVehicle の DSU を使用して他の ISDN 機器をつなぐ 113
 NetVehicle を既設の DSU に接続する 115
ダイヤル操作早見表 117
NTT との契約が必要な機能 119
添付 CD-ROM の内容について 120
仕 様 121
 ハードウェア仕様 121
 ソフトウェア仕様 122
コンソールポート仕様 124
設定内容をメモする 125
索 引 126

応用編

応用編は
付属の
CD-ROM
の中にあ
ります

はじめに	1
説明書の構成と使いかた	10
マークについて	11
本書における商標の表記について	12

第1章 設定リファレンス 13

「詳細設定」で設定する	14
詳細設定メニューを表示する	15
回線情報設定	16
LAN 情報設定	18
ルーティング情報設定 (LAN 情報)	20
相手情報設定	21
ネットワーク情報設定	22
接続先情報設定	25
ポートルーティング情報設定	28
ルーティング情報設定 (ネットワーク情報)	29
IP フィルタリング情報	30
静的 NAT 情報設定	31
不特定相手情報設定	32
PPP 受諾認証情報	34
装置情報設定	35
パスワード情報設定	37
E メールエージェント情報設定	38
メールチェック情報設定	40
宛先メールアドレス設定	42
条件設定	43
TEL メール情報設定	44
ProxyDNS 情報	46
ProxyDNS 情報設定 (順引き)	47
ProxyDNS 情報設定 (逆引き)	48
ホストデータベース情報	49
ホストデータベース情報設定	50
スケジュール情報	51
月間 / 週間予約設定	52
電話番号変更予約設定	53
マルチ TA 情報	54
アナログ共通情報	55
アナログポート 1 / 2 情報	57
発信規制情報設定 (発信抑止)	60
発信規制情報設定 (発信許可)	61
送出着信番号情報	62
識別着信情報	63
識別着信情報設定 (デフォルト定義)	64
識別着信情報設定 (公衆電話着信)	65
識別着信情報設定 (発信者番号非通知着信)	66
識別着信情報設定	67

第2章 NetVehicle をいろいろな接続形態で使う 69

複数プロバイダと端末型接続する	70
事業所 LAN どうしを ISDN で接続する	73
事業所 A の NetVehicle を設定する	74

応用編は
付属の
CD-ROM
の中に
あります。

事業所 B の NetVehicle を設定する	78
インターネットと LAN に同時接続する	79
外部のパソコンと接続する (TA&PHS)	83
事業所 LAN どうしを専用線で接続する	88
本社の NetVehicle を設定する	89
支店の NetVehicle を設定する	91
OCN エコノミーと接続する	92

第 3 章 NetVehicle の便利な機能を活用する 97

マルチ NAT 機能 (アドレス変換機能) を使う	98
NAT 機能の選択基準	100
端末型接続でインターネットゲームをする	101
ネットワーク型接続でサーバを公開する	103
IP フィルタリング機能を使う	106
接続形態に応じたセキュリティ方針を決める	107
IP フィルタリングの条件	107
外部の特定サービスへのアクセスのみ許可する	110
外部から特定サーバへのアクセスのみ許可する	113
利用者が意図しない発信を防ぐ	117
特定アドレスへのアクセスを禁止する	119
回線が接続している時だけ許可する	121
マルチルーティングを利用する	123
パソコンごとに別々のプロバイダを利用する (ソースアドレスルーティング機能)	123
目的ごとに別々のプロバイダに接続する (ポートルーティング機能)	123
課金単位でプロバイダを切り替える	125
DNS サーバを使いこなす (ProxyDNS)	127
DNS サーバの自動切り替え機能	127
DNS サーバアドレスの自動取得機能	130
DNS 問い合わせタイプフィルタ機能	131
DNS サーバ機能	132
DHCP サーバ機能を使う	133
DHCP サーバ機能を使う	134
DHCP スタティック機能を使う	135
外部のパソコンから着信接続する (アクセスサーバ機能)	136
認証 ID による接続相手の識別	140
外出先や自宅から会社のパソコンを起動させる (リモートパワーオン機能)	143
コールバック機能を利用する	145
CBCP 方式でコールバック要求する	146
CBCP 方式でコールバック応答する	148
無課金コールバックでコールバック要求する	150
無課金コールバックでコールバック応答する	151
マルチ TA 機能を使う	153
特定の URL へのアクセスを禁止する (URL フィルタ機能)	164
通信料金を節約する (課金制御機能)	166
E メールエージェント機能を使う	169
メールチェック機能	170
リモートメールチェック機能	172
メール転送機能	174
メール一覽送信機能	177
TEL メール機能	180
メール着信通知機能	183
スケジュール機能を使う	184
留守モードの動作を設定する	187

応用編は
付属の
CD-ROM
の中に
あります。

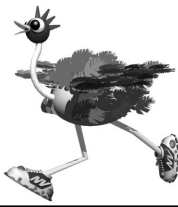
第4章 NetVehicleのアナログ機能を利用する	189
スタンバイモードで使用する	190
アナログ機器を利用するにあたって	191
内線通話・内線転送機能を使う	192
内線通話をする	192
外からかかってきた電話をもう一方のアナログポートに転送する	192
登録した番号への発信を規制する	194
識別着信機能を使う	195
相手電話番号識別機能を使う(優先着信機能)	196
着信電話番号識別機能を使う	198
疑似迷惑電話お断りを使う	200
疑似キャッチホンを使う	202
疑似着信転送を使う	204
疑似三者通話を使う	206
疑似通信中転送を使う	208
フレックスホンを使う	210
フレックスホンのいろいろな機能を使う	211
フレックスホン自動切り替え機能を使う	215
INSボイスワープを利用する	216
発信者番号表示(ナンバー・ディスプレイ)を使う	219
発信者番号表示(キャッチホン・ディスプレイ)を使う	221
発信者番号通知の設定を変更する	223
発信者電話番号を選択する	224
無鳴動FAX受信機能を使う	225
i・ナンバー着信機能を使う	226
サブアドレスを設定する	227
ダイヤルイン/グローバル着信機能を使う	228
ダイヤルイン/グローバル着信機能を設定する	228
モデムダイヤルイン機能を使う	230
モデムダイヤルイン機能を設定する(その1:自局電話番号を送出する)	230
モデムダイヤルイン機能を設定する(その2:任意の番号を送出する)	233
アナログダイヤルイン機能を使う	236
アナログダイヤルイン機能を設定する(その1:自局電話番号を送出する)	236
アナログダイヤルイン機能を設定する(その2:任意の番号を送出する)	238
リバースパルス送出機能を使う	240
電話機を利用して設定を変更する	241
時計を設定する	241
IPアドレスを設定する	242
アナログ機能を設定する	243
着信転送先の設定を行う	244
TELメールの設定を行う	245
メールチェックを実行する	245
メール着信を消去する	245
留守状態の設定を行う	246
留守モードの設定を行う	246
外線から設定を変更する(無課金)	247
設定変更用暗証番号を設定する	247
外線からアナログ機能の設定を変更する	248
外線から着信転送先の設定を行う	249
外線からTELメールの設定を行う	250
外線から留守状態の設定を行う	250
留守状態を確認する(無課金)	251

第5章 運用管理とメンテナンス 253

操作メニューを使う	254
操作メニューを表示する	254
手動で回線を接続する / 切断する	254
手動でチャンネルを増やす / 減らす	255
ネットワークの接続を確認する	256
時計を設定する	256
テレホーダイ機能を使う	257
留守モードの ON/OFF を設定する	258
表示メニューを使う	259
表示メニューを表示する	259
回線接続状況を確認する	260
課金情報で運用状況を確認する	260
IP 統計情報を見る	262
電子メール着信通知を見る	263
チャンネル統計情報を見る	264
回線ログ情報で運用状況を確認する	264
システムログを見る	265
ルーティング情報を見る	265
現在時刻を見る	265
経過時間情報を見る	265
メンテナンスメニューを使う	266
メンテナンスメニューを表示する	266
バージョン情報	267
PPP フレームトレース情報を見る	267
エラーログ情報	268
NetVehicle のファームウェアを更新する	268
オンラインサポート機能	269
構成定義情報を退避する / 復元する	271
電話番号を変更する	272
FTP サーバ機能を使ってメンテナンスする	273
FTP サーバ機能による構成定義情報の退避	274
FTP サーバ機能による構成定義情報の復元	275
FTP サーバ機能によるファームウェアの更新	276

付 録 277

PPP フレームトレース情報詳細	278
ISDN 理由表示番号一覧	280
システムログ情報一覧	282
システムのメッセージ	282
デジタル通信のメッセージ	282
アナログ通信のメッセージ	285
オンラインサポートのメッセージ	288
ProxyDNS のメッセージ	289
ftpd のメッセージ	290
スケジュールのメッセージ	291
メールチェックのメッセージ	292
メール着信通知のメッセージ	293
マルチ TA のメッセージ	294
その他のメッセージ	294
用語集	296
Q&A	300
「詳細設定」で設定できる項目	318
索引	321



コピーライトについて

本製品には、カリフォルニア大学およびそのコントリビュータによって開発され、下記の使用条件とともに配付されている FreeBSD の一部が含まれています。

@(#)COPYRIGHT 8.2 (Berkeley) 3/21/94

All of the documentation and software included in the 4.4BSD and 4.4BSD-Lite Releases is copyrighted by The Regents of the University of California.

Copyright 1979, 1980, 1983, 1986, 1988, 1989, 1991, 1992, 1993, 1994 The Regents of the University of California. All rights reserved.

Redistribution and use in source and binary forms, with or without modification, are permitted provided that the following conditions are met:

1. Redistributions of source code must retain the above copyright notice, this list of conditions and the following disclaimer.
2. Redistributions in binary form must reproduce the above copyright notice, this list of conditions and the following disclaimer in the documentation and/or other materials provided with the distribution.
3. All advertising materials mentioning features or use of this software must display the following acknowledgement: This product includes software developed by the University of California, Berkeley and its contributors.
4. Neither the name of the University nor the names of its contributors may be used to endorse or promote products derived from this software without specific prior written permission.

THIS SOFTWARE IS PROVIDED BY THE REGENTS AND CONTRIBUTORS "AS IS" AND ANY EXPRESS OR IMPLIED WARRANTIES, INCLUDING, BUT NOT LIMITED TO, THE IMPLIED WARRANTIES OF MERCHANTABILITY AND FITNESS FOR A PARTICULAR PURPOSE ARE DISCLAIMED. IN NO EVENT SHALL THE REGENTS OR CONTRIBUTORS BE LIABLE FOR ANY DIRECT, INDIRECT, INCIDENTAL, SPECIAL, EXEMPLARY, OR CONSEQUENTIAL DAMAGES (INCLUDING, BUT NOT LIMITED TO, PROCUREMENT OF SUBSTITUTE GOODS OR SERVICES; LOSS OF USE, DATA, OR PROFITS; OR BUSINESS INTERRUPTION) HOWEVER CAUSED AND ON ANY THEORY OF LIABILITY, WHETHER IN CONTRACT, STRICT LIABILITY, OR TORT (INCLUDING NEGLIGENCE OR OTHERWISE) ARISING IN ANY WAY OUT OF THE USE OF THIS SOFTWARE, EVEN IF ADVISED OF THE POSSIBILITY OF SUCH DAMAGE.

The Institute of Electrical and Electronics Engineers and the American National Standards Committee X3, on Information Processing Systems have given us permission to reprint portions of their documentation.

In the following statement, the phrase "this text" refers to portions of the system documentation.

Portions of this text are reprinted and reproduced in electronic form in the second BSD Networking Software Release, from IEEE Std 1003.1-1988, IEEE Standard Portable Operating System Interface for Computer Environments (POSIX), copyright C 1988 by the Institute of Electrical and Electronics Engineers, Inc. In the event of any discrepancy between these versions and the original IEEE Standard, the original IEEE Standard is the referee document.

In the following statement, the phrase "This material" refers to portions of the system documentation.

This material is reproduced with permission from American National Standards Committee X3, on Information Processing Systems. Computer and Business Equipment Manufacturers Association (CBEMA), 311 First St., NW, Suite 500, Washington, DC 20001-2178. The developmental work of Programming Lan-

guage C was completed by the X3J11 Technical Committee.

The views and conclusions contained in the software and documentation are those of the authors and should not be interpreted as representing official policies, either expressed or implied, of the Regents of the University of California.

Copyright © 1989 Regents of the University of California. All rights reserved.

Redistribution and use in source and binary forms are permitted provided that the above copyright notice and this paragraph are duplicated in all such forms and that any documentation, advertising materials, and other materials related to such distribution and use acknowledge that the software was developed by the University of California, Berkeley. The name of the University may not be used to endorse or promote products derived from this software without specific prior written permission.

THIS SOFTWARE IS PROVIDED "AS IS" AND WITHOUT ANY EXPRESS OR IMPLIED WARRANTIES, INCLUDING, WITHOUT LIMITATION, THE IMPLIED WARRANTIES OF MERCHANTABILITY AND FITNESS FOR A PARTICULAR PURPOSE.

本製品には、WIDEのKAMEプロジェクトによって開発され、下記の使用条件とともに配付されているソフトウェアが含まれています。

Copyright © 1995,1996,1997,and 1998 WIDE Project.
All rights reserved.

Redistribution and use in source and binary forms, with or without modification, are permitted provided that the following conditions are met:

1. Redistributions of source code must retain the above copyright notice, this list of conditions and the following disclaimer.
2. Redistributions in binary form must reproduce the above copyright notice, this list of conditions and the following disclaimer in the documentation and/or other materials provided with the distribution.
3. Neither the name of the project nor the names of its contributors may be used to endorse or promote products derived from this software without specific prior written permission.

THIS SOFTWARE IS PROVIDED BY THE REGENTS AND CONTRIBUTORS "AS IS" AND ANY EXPRESS OR IMPLIED WARRANTIES, INCLUDING, BUT NOT LIMITED TO, THE IMPLIED WARRANTIES OF MERCHANTABILITY AND FITNESS FOR A PARTICULAR PURPOSE ARE DISCLAIMED. IN NO EVENT SHALL THE REGENTS OR CONTRIBUTORS BE LIABLE FOR ANY DIRECT, INDIRECT, INCIDENTAL, SPECIAL, EXEMPLARY, OR CONSEQUENTIAL DAMAGES (INCLUDING, BUT NOT LIMITED TO, PROCUREMENT OF SUBSTITUTE GOODS OR SERVICES; LOSS OF USE, DATA, OR PROFITS; OR BUSINESS INTERRUPTION) HOWEVER CAUSED AND ON ANY THEORY OF LIABILITY, WHETHER IN CONTRACT, STRICT LIABILITY, OR TORT (INCLUDING NEGLIGENCE OR OTHERWISE) ARISING IN ANY WAY OUT OF THE USE OF THIS SOFTWARE, EVEN IF ADVISED OF THE POSSIBILITY OF SUCH DAMAGE.



安全上のご注意

警告表示について

取扱説明書では、使用者および周囲の方々や財産に損害を与えないための警告表示をしています。警告表示は、警告レベルの記号と警告文の組み合わせになっています。

⚠警告 正しく使用しない場合、死亡または重傷のおそれがあることを示します。

⚠注意 正しく使用しない場合、軽傷または中程度の傷害を負うおそれがあることを示します。
また、当該製品自体もしくは他の使用者の財産に対して損害を与えるおそれがあることを示します。

⚠警告 本装置を安全にお使いいただくために、必ずお守りください。正しく使用しない場合、死亡または重傷のおそれがあることを示します。

作業区分	警告事項
感電・火災について	本装置の分解・解体・改造・再生を行わないでください。 また、本装置の上には絶対に物をのせないでください。感電・火災・故障の原因となります。
	直射日光の当たる場所や暖房機の近く、湿気、ホコリの多い場所には置かないでください。 感電や火災のおそれがあります。
	装置内部が高温になるため通気孔をふさがないでください。火災のおそれがあります。
	万一装置から発熱・発煙・異臭が発生したときは、「 / ⏻」スイッチ(電源スイッチ)を「⏻」側へ押して、電源を切断してください。 電源を切断したら、富士通の技術員に連絡してください。そのまま使用すると、感電や火災のおそれがあります。なお、この場合、通信中のデータは保証されません。
	異常発生時には、直ちに電源プラグをコンセントから抜いてください。
	アース線は、ガス管や水道管にはつながないでください。感電や火災のおそれがあります。
	電源ケーブルを傷つけたり、加工したりしないでください。 電源ケーブルの上に物をのせたり、絡みつけたり、足を引っかけたりしないようにしてください。 感電や火災のおそれがあります。その他のケーブル類も同様です。
	本装置の電源ケーブルは、タコ足配線にしないでください。 コンセントが過熱し、火災の原因となることがあります。
	電源プラグの金属部分、およびその周辺にほこりが付着している場合は、乾いた布でよく拭き取ってください。 そのまま使用すると、火災の原因になります。
	電源ケーブルは、プラグ部分をもってコンセントから抜いてください。 プラグが傷んで感電や火災のおそれがあります。
	電源プラグは、電源コンセントに確実に奥まで差し込んでください。 差し込みが不十分な場合、感電・発煙・火災の原因となります。
	ぬれた手で電源プラグを抜き差ししないでください。感電のおそれがあります。
	電源ケーブルや電源プラグが傷んだり、コンセントの差し込み口がゆるいときは使用しないでください。 そのまま使用すると、感電・火災の原因となります。
	使用中の装置を布でおおったり、包んだりしないでください。熱がこもり、火災の原因となることがあります。
	電源ケーブルを束ねて使用しないでください。発熱して、火災の原因となることがあります。
	雷が鳴りだしたら、電源ケーブルやケーブル類に触れないでください。感電の原因となります。
コーヒーなどの液体やクリップなどの金属片が装置内部に入らないように気をつけてください。また、装置内部に異物が入るのを防ぐため、装置の上には物を置かないでください。感電や火災のおそれがあります。	
モジュラージャックには指などを入れしないでください。感電の原因となります。	

作業区分	警告事項
破損・負傷について	本装置を多段積みで使用しないでください。 装置が破損したり、作業者が負傷したりするおそれがあります。
	振動の激しい場所や傾いた場所など、不安定な場所に置かないでください。 落下したりして、けがの原因となることがあります。
	装置の上に物を置いたり、装置の上で作業したりしないでください。 装置が破損したり、作業者が負傷したりするおそれがあります。
	梱包に使用しているビニール袋は、お子様が口に入れたり、かぶって遊んだりしないよう、ご注意ください。 窒息の原因となります。
	本装置を廃棄するときは、他のゴミと一緒に捨てないでください。火中に投げると破裂するおそれがあります。

⚠️注意 正しく使用しない場合、軽傷または中程度の傷害を負うおそれがあることを示します。また、当該製品自体もしくは他の使用者の財産に対して損害を与えるおそれがあることを示します。

作業区分	注意事項
故障について	本装置は、屋内に設置してください。屋外で使用すると故障の原因となります。
	極端な高温、あるいは低温状態や温度変化の激しい場所で使用しないでください。故障の原因となります。
	塩害地域では使用しないでください。故障の原因となります。
	衝撃や振動の加わる場所で使用しないでください。故障の原因となります。
	薬品の噴霧気中や、薬品にふれる場所で使用しないでください。故障の原因となります。
	電子レンジなど、強い磁界を発生する装置のそばで使用しないでください。故障の原因となります。
	本装置を並べて使用する場合、側面に3cm以上の間隔をあけてください。故障の原因となります。
	国内でのみ使用してください。本装置は国内仕様になっているので、海外ではご使用になれません。
	内部に液体や金属類などの異物が入った状態で使用しないでください。故障の原因となります。
	本装置を移動するときは、必ず電源ケーブルを抜いてください。故障の原因となります。
電波障害について	ラジオやテレビジョン受信機のそばで使用しないでください。 ラジオやテレビジョン受信機に雑音が入る場合があります。
感電について	感電するおそれがありますのでサービスマン以外はカバーを開けないでください。 また、保守時には必ず電源ケーブルを抜いてください。

電池に関するご注意

下記のことを必ず守ってください。電池の使い方を間違えますと、液もれや装置の破損、破壊がおこり、装置の故障やけがの原因となります。

⚠警告


- ・電池の⊕・⊖を正しく入れてください。⊕・⊖を間違えると電池が破損および破裂、液もれするおそれがあります。
- ・電池は、幼児の手の届かないところに置いてください。万一飲み込んだ場合には、直ちに医師に相談してください。
- ・電池をショートさせたり、分解、加熱、火に入れるなどしないでください。アルカリ性溶液がもれて目に入ったり、発熱、破裂の原因となります。
- ・アルカリ性溶液が衣服に付着した場合は、きれいな水で洗い流してください。万一目に入ったり、皮膚に付着した場合は、きれいな水で洗ったあと、医師に相談してください。
- ・電池がもれを起こした場合、もれた液を絶対にさわったり、なめたりしないでください。

⚠注意

電池について

- ・本装置に使用する乾電池には、必ず単3のアルカリ乾電池（LR6）をご使用ください。
- ・古い電池、種類の違う電池、異なるメーカーの電池を新しい電池と混ぜて使わないでください。
- ・電池に直接ハンダ付けをしないでください。
- ・使い切った電池はすぐに装置から取り外してください。
- ・電池を保管する場合は、直射日光、高温、多湿の場所を避けてください。
- ・落下などによって変形した電池を使用しないでください。

電池交換について

- ・電池を交換する場合は、必ず電源スイッチを「」側にして、ケーブル類（電源ケーブル、10BASE-Tケーブル、ISDN回線ケーブル、モジュラケーブル）をすべて取り外してから作業を行ってください。
- ・電池を交換する場合は、装置底面を上にして、机の上など安定した場所に置いて作業してください。装置を立てたり持ち上げて作業すると、電池が飛び出したり、装置が落下するなどして、破損やけがの原因になります。
- ・必ずすべての電池を新しいものと交換してください。
- ・電池を装置に装着したまま停電がない場合でも、1年に1度の割合で新しい電池と交換してください。
- ・停電発生後は、新しい乾電池と交換することをお勧めします。

メンテナンスに関するご注意

- 決してご自身では修理を行わないでください。故障の際は、富士通の技術員または富士通が認定した技術員によるメンテナンスを受けてください。
- 本装置をご自身で分解したり改造したりしないでください。本装置の内部には、高電圧の部分および高温の部分があり危険です。

使用上のご注意

- 本製品として提供される取扱説明書、装置本体およびファームウェアは、お客様の責任においてご使用ください。
- 本製品の使用によって発生する損失やデータの損失については、富士通株式会社では一切責任を負いかねます。また、本製品の障害の保証範囲はいかなる場合も、本製品の代金としてお支払いいただいた金額を超えることはありません。あらかじめご了承ください。
- 本製品にて提供されるファームウェアおよび本製品用として富士通株式会社より提供される更新用ファームウェアを、本製品に組み込んで使用する以外の方法で使用する、また、改変や分解を行うことは一切許可しておりません。

ファームウェアの更新について

NetVehicle本体で使用するファームウェアは定期的に更新されます。最新の機能をご利用になる場合は、WWWブラウザを使ってインターネット経由でご利用のファームウェアを更新することができます。更新方法については応用編の「メンテナンスメニューを使う(P.266)」を参照してください。

なお、ファームウェアを更新した場合、操作方法などが本書の内容と一部異なる場合があります。このような場合は、富士通のNetVehicleのサポートページで最新の情報を確認してください。

<http://telecom.fujitsu.com/jp/products/telcom/nv/>

避雷対策について

本装置には避雷対策回路が内蔵されております。また、アース処理を行うことにより効果を高めることができます。

セキュリティの確保について

- 管理者パスワードを設定しない場合、ネットワーク上の誰からでもNetVehicleの設定を行うことができます。セキュリティの面からは非常に危険なため、管理者パスワードを設定することを強く推奨します。
- ご購入時の状態では、オンラインサポートを受け付ける設定になります。この場合、オンラインサポート機能の暗証番号としてMACアドレスを使用します。MACアドレスは容易に知ることができるため、オンラインサポート機能を使用しない場合は、設定を変更してください。

電波障害自主規制について

この装置は、情報処理装置等電波障害自主規制協議会(VCCI)の基準に基づくクラスB情報技術装置です。この装置は、家庭環境で使用することを目的としていますが、この装置がラジオやテレビジョン受信機に近接して使用されると、受信障害を引き起こすことがあります。

取扱説明書に従って正しい取り扱いをしてください。

ハイセイフティについて

本製品は、一般事務用、パーソナル用、家庭用、通常の産業用等の一般的な用途を想定して設計・製造されているものであり、原子力施設における核反応制御、航空機自動飛行制御、航空交通管制、大量輸送システムにおける運行制御、生命維持のための医療用機器、兵器システムにおけるミサイル発射制御など、極めて高度な安全性が要求され、仮に当該安全性が確保されない場合、直接生命・身体に対する重大な危険性を伴う用途(以下「ハイセイフティ用途という」)に使用されるよう設計・製造されたものではありません。お客様は、当該ハイセイフティ用途に要する安全性を確保する措置を施すことなく、本製品を使用しないでください。ハイセイフティ用途に使用される場合は、NetVehicleサポートセンターまでご相談ください。



説明書の構成と使いかた

本書では、NetVehicle をお使いになる前に知っておいていただきたいこと、接続する方法、インターネットやLANへ接続するための設定など、基本的な導入方法について説明しています。

NetVehicleの機能をもっと知りたい場合、NetVehicleを使って複雑な運用をする場合は、取扱説明書の応用編を参照してください。

NetVehicleを理解していただくために、取扱説明書は以下の2種類をご用意しています。

- ・基本編（本書）：NetVehicleの基本的な使い方を載せています。NetVehicleを接続して設定を行い、通信ができるようになるまでを説明しています。また、本書を読みながら作業を進めることができるようになっていきます。詳細な機能に関する情報は応用編にありますので、必要に応じて参照してください。
- ・応用編（PDF）：付属のCD-ROMに添付されています。NetVehicleの多様な機能の詳細を載せています。NetVehicleの機能を活用していただくためにお読みください。

NetVehicleのトップページと取扱説明書の記載内容とが異なる場合は、各ページの指示に従って設定を行ってください。NetVehicleのトップページから富士通のNetVehicleのサポートページをワンタッチで参照できます。より高度な使い方や、本書に掲載されている以外の各種設定例、機能追加などは、NetVehicleのサポートページを参照してください。NetVehicleに関する最新の情報を入手できます。

また、CD-ROMの中のREADMEファイルには大切な情報が記載されていますので、合わせてお読みください。

本書の構成

基本編（本書）の構成と各章の内容を示します。

章タイトル	内 容	主な項目
第1章 お使いになる前に	NetVehicleを使う前に必要な準備などを説明しています。	・梱包物 / 各部名称の確認
第2章 NetVehicleと回線をつなぐ	NetVehicleとISDN回線、および専用線をつなぐ方法を説明しています。	・回線をつなぐ ・電話をかける
第3章 パソコンを設定する	利用するパソコンの準備を説明しています。	・LANでつなぐ
第4章 NetVehicleとパソコンをつなぐ	NetVehicleとパソコンをつなぐ方法を説明しています。	・IPアドレスの設定 ・LAN接続方法
第5章 NetVehicleを設定する	NetVehicleでの基本的な設定方法を説明しています。	・かんたん設定 ・アナログ機器設定 ・操作パネル設定
第6章 利用料金に関するご注意	NetVehicleを使用して、利用料金が正常かどうかを確認する方法、および異常が発生した場合の対処方法を説明しています。	・回線状況の確認 ・課金状況の確認
第7章 困ったときには	トラブル発生時の対処方法を説明しています。	・トラブルシューティング ・ご購入時の状態に戻す
付 録	補足情報を載せています。	・電池の入れ方 ・ダイヤル操作早見表 ・設定内容メモ

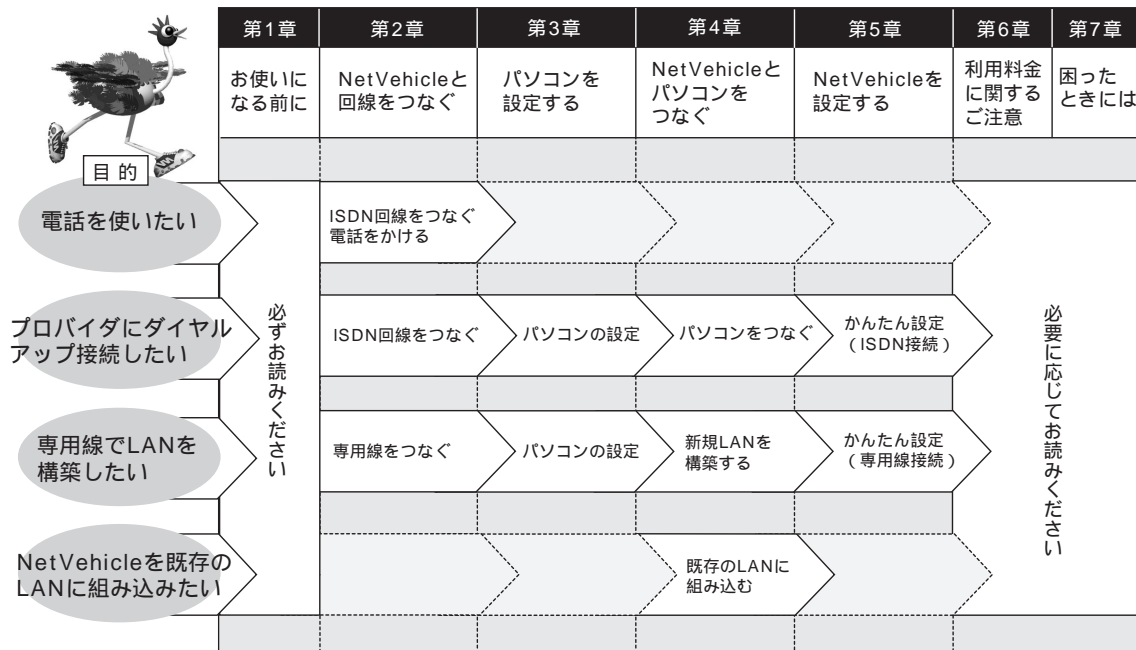
応用編の構成

応用編の構成と各章の内容を示します。

章タイトル	内 容	主な項目
第1章 設定リファレンス	詳細設定メニューの各ページで設定する情報を項目ごとに説明しています。	・ 詳細設定メニュー
第2章 NetVehicleをいろいろな接続形態で使う	NetVehicleの代表的な接続形態のいくつかを紹介しています。	・ 端末型接続 ・ LANをISDN接続 ・ LANを専用線接続
第3章 NetVehicleの便利な機能を使う	NetVehicleの便利な機能の活用方法について説明しています。	・ マルチNAT ・ IPフィルタリング ・ DHCPサーバ機能
第4章 NetVehicleのアナログ機能を使う	NetVehicleにつないだアナログ機器を利用する方法を説明しています。	・ スタンバイモード ・ 内線通話、転送機能 ・ サブアドレス
第5章 運用管理とメンテナンス	NetVehicleで、ISDN回線の運用状況などの管理や確認を行う方法を説明しています。	・ 操作メニュー ・ 表示メニュー ・ メンテナンスメニュー
付 録	本書で使われている用語や、FAQなどを説明しています。	・ 用語集 ・ Q & A

本書の使いかた

目的に応じて以下の箇所をお読みください。



マークについて

本書で使用しているマーク類は、以下のような内容をあらわしています。



NetVehicleをお使いになるうえで役に立つ知識を、コラム形式で説明しています。



こんな事に気をつけて

NetVehicleをご使用になる際に、注意していただきたいことを説明します。



操作手順で説明しているものの他に、補足情報を説明しています。



操作方法など関連事項を説明している箇所を示します。



警告

製造物責任法(PL)関連の警告事項をあらわしています。NetVehicleをお使いの際は必ず守ってください。



注意

製造物責任法(PL)関連の注意事項をあらわしています。NetVehicleをお使いの際は必ず守ってください。

本書における商標の表記について

Microsoft、WindowsおよびWindowsNTは、米国 Microsoft Corporation の米国およびその他の国における登録商標です。

Macintoshは、アップルコンピュータ社の商標です。

Adobe、Adobe ロゴ、Adobe Acrobat、Adobe Acrobat ロゴは、Adobe Systems Incorporated (アドビシステムズ社) の商標です。

Netscape Communications、Netscape Communications logo、Netscape Navigator、Netscapeは、米国 Netscape Communications Corporation の商標です。

AMD、AMD 社ロゴマーク、ならびにその組み合わせは、Advanced Micro Devices, Inc. の登録商標です。

Magic Packet、PCnetは Advanced Micro Devices, Inc. の商標です。

AMD and the AMD Logo are registered trademarks and Magic Packet and PCnet are trademarks of Advanced Micro Devices, Inc.

本書に記載されているその他の会社名および製品名は、各社の商標または登録商標です。

Windows® Me の正式名称は、Microsoft® Windows® Millennium Edition operating system です。

Windows® 98 の正式名称は、Microsoft® Windows® 98 operating system です。

Windows® 95 の正式名称は、Microsoft® Windows® 95 operating system です。

Windows® 2000 の正式名称は、Microsoft® Windows® 2000 operating system です。

WindowsNT® 4.0 の正式名称は、Microsoft® WindowsNT® Server network operating system Version 4.0、または Microsoft® WindowsNT® Workstation operating system Version 4.0 です。

WindowsNT® 3.51 の正式名称は、Microsoft® WindowsNT® Server network operating system Version 3.51、または Microsoft® WindowsNT® Workstation operating system Version 3.51 です。



NetVehicle できること

NetVehicle は「かんたん」「便利」「経済的」を実現するルータです。

インターネットへ「かんたん」「高速」「経済的」にアクセス

デジタル回線を利用するので高速でアクセスできます。各種プロバイダのダイヤルアップ接続サービス、OCN エコノミーや DION スタンダードなどの専用線接続サービスにも対応しています。

また、「アドレス変換機能 (マルチ NAT)」をサポートしているので、端末型ダイヤルアップ接続の契約をしている場合でも、複数のパソコンからインターネットへアクセスできます。

ISDN の B チャンネル 2 本を束ねて回線の帯域幅を広げる「マルチリンク PPP 機能」もサポートしています。

ブラウザを使って簡単に設定

設定はすべて WWW ブラウザを使ってメニュー形式で行います。このため、コマンド入力などの難しい操作は一切必要ありません。また、パソコンの機種や OS が違っていても設定手順は同じです。

簡単に LAN を構築できる

これまで LAN を構築しようと思ったら、アドレス割り当ての設定など、めんどろな設定が必要でした。NetVehicle は「アドレス自動割り当て機能 (DHCP サーバ機能)」をサポートしているので、LAN 構築も簡単です。

「イントラネット」「スモールオフィス」「モバイルネットワーク」を支援

会社の LAN どうしを接続したり、スモールオフィスや出張先など遠隔地のパソコンから NetVehicle 経由で会社などの LAN にアクセスできます。また、PHS につないだモバイルパソコンからのアクセスも可能です。

利用状況のチェックが簡単

ISDN 回線の課金情報をはじめとする各種情報を、WWW ブラウザの画面でチェックできます。通信エラーの原因や、回線使用料などの管理も簡単です。

便利なメール機能を搭載

指定した時間にメールを確認したり、PHS などメール端末を使って、離れた所からメールを確認したり、受け取ったりできます。また、電話の着信履歴もメールで受け取ることができます。

メール着信通知サービス

プロバイダが提供するメール着信通知サービスを利用できます。NetVehicle の表示ランプが点滅して、メールが着信したことを知らせます。WWW ブラウザでメールの送信者と題名を確認することもできます。

ファームウェアの更新が簡単

ご利用のファームウェアはインターネット経由で更新できます。WWW ブラウザを使うので、操作が簡単です。

オールインワンだからすぐに使えて経済的

「10BASE-Tハブ」「DSU」を内蔵。別途購入する必要がないので、回線を用意するだけですぐに使えます。また、DSUの切り離しが可能なので、お使いのDSUに接続することもできます。

アナログ機器が使える

電話機、FAX、モデムなどのアナログ機器を利用できます。また、アナログ機器どうして内線通話や内線転送もできます。

NTTのINS ネット64の便利なサービスを利用できる

「i・ナンバー」、「フレックスホン」、「INSボイスワープ」や「INSナンバー・ディスプレイ」をはじめ、NTTが提供している各種サービスを利用できます。

ISDN機器をつなげられる

G4 FAXやTA、デジタル電話などのISDN機器をつなぐためのISDN S/Tポートを備えています。

停電時にも電話を利用できる

バックアップ用電池を使用すると、停電時でもアナログ機器が使えます。また、デジタル電話での通話も可能です。

消費電力を抑える「スタンバイモード」

データ通信を行わない場合は、必要最小限の部分だけを動作させ、NetVehicleの消費電力を抑えることができます。「スタンバイモード」では、アナログ機器だけが利用できます。

「ワンタイムパスワード」を利用できる

「回線手動接続」では「ワンタイムパスワード」を利用できます。「ワンタイムパスワード」は一度しか利用できないパスワードで、接続するたびに毎回異なるため、安全性が高いパスワードです。「イントラネット」や「スモールオフィス」などセキュリティを重視される場合に用いられます。

マルチTAを利用できる

LAN上にあるパソコンからNetVehicleを擬似的なTAとしてISDN回線先のシステムと直接接続できます。同時にルータ機能も利用できるので、LAN接続されたパソコンのうち、1台はマルチTA機能を使って接続し、その他のパソコンはルータとして1チャンネルを共同利用といった使い方もできます。



お使いになる前に

この章では、
NetVehicle を使う前に必要な準備などを説明します。

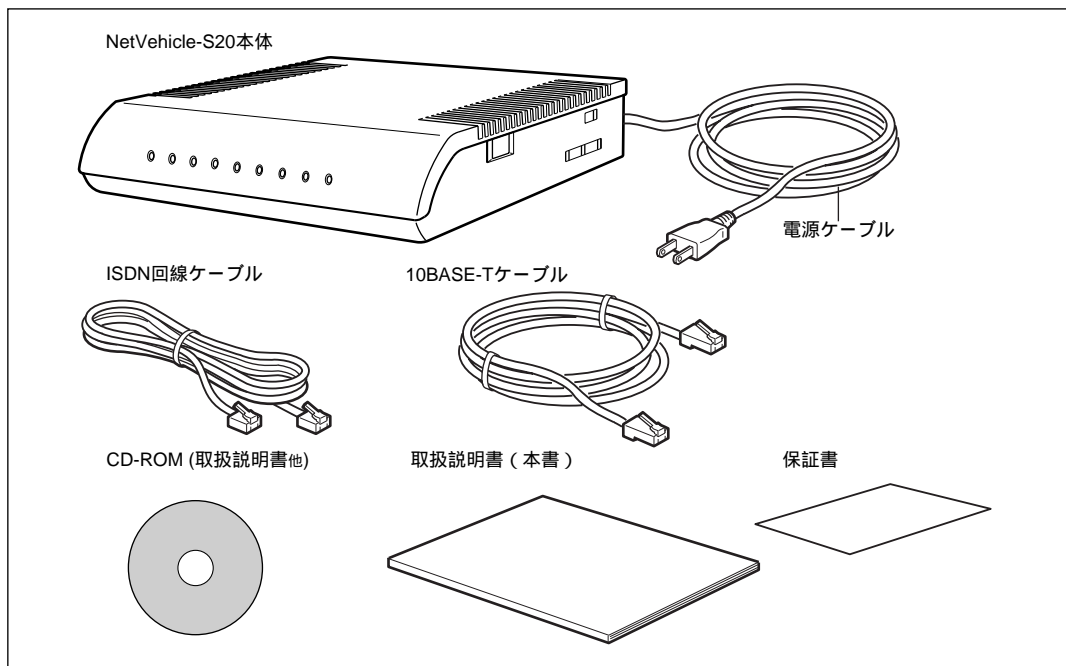
梱包内容 / 各部の名称と働きを確認する	22
NetVehicle 前面	23
NetVehicle 背面	24
NetVehicle 側面	25
NetVehicle 底面	27
NTT 回線加入契約の内容を確認する	28
「INS ネット 64」または「INS ネット 64・ライト」を新規に申し込む場合は ..	28
プロバイダとの契約内容を確認する	30
プロバイダと新規に契約する場合は	31



梱包内容 / 各部の名称と働きを確認する

NetVehicleをお使いになる前に、梱包内容を確認してください。NetVehicleのパッケージには、以下のものが同梱されています。すべてそろっていることを確認してください。

もし、足りないものがあったり、取扱説明書に乱丁、落丁などがありましたらお買い求めになった販売店へご連絡ください。



- 電源ケーブル NetVehicleとコンセントをつなぎます。
- ISDN回線ケーブル NetVehicleをISDN回線またはデジタル専用線につなぐためのケーブルです。両端に6ピンのモジュラプラグがついています。
- 10BASE-Tケーブル NetVehicleをパソコンまたはハブにつなぐためのケーブルです。両端に8ピンのモジュラプラグがついています。

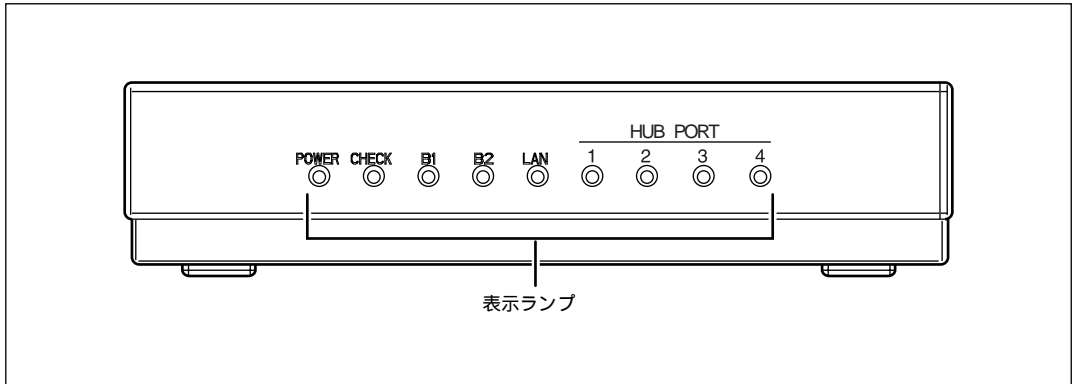
⚠注意

10BASE-Tケーブルは、ISDN S/Tポートに他のISDN機器を接続するためにはご使用になれません。

- CD-ROM CD-ROMの中には、取扱説明書がPDF形式で入っています。



CD-ROMの内容 「添付CD-ROMの内容について」(P.120)



- 表示ランプ 表示ランプの動作を以下に示します。

正常に動作しているときの表示ランプ

- POWER ランプ： 電源の状態を示します。電源を入れると緑色で点灯し、切断すると消灯します。バックアップ用電池で動作しているとき（「停電モード」）および「スタンバイモード」で動作しているときは、緑色で点滅します。



停電モード 「停電時の動作について」(P.112)



スタンバイモード 応用編 「スタンバイモードで使用する」(P.190)

- CHECK ランプ Eメールエージェント機能をご利用の場合、メールが到達すると緑色で点滅します。
- B1/B2 ランプ ISDN 回線の状態を表示します。

[データ通信を行う場合]

相手側との接続が完了して通信可能な状態になったとき、緑色で点灯します。通信が行われている間は緑色で点滅します。

[アナログ機器を使用する場合]

接続中および通話中は緑色で点滅します。ただし、2つのアナログポートで内線通話を行っている場合は、アナログポートの通信状況は表示されません。

⚠注意

B1/B2 ランプが緑色で点灯または点滅している場合、通信料金が加算されています。

- LAN ランプ LANの状態を表示します。通信可能な状態で緑色で点灯し、通信が行われている（データがやり取りされている）間は緑色で点滅します。
- HUB PORT ランプ： 10BASE-T ポート（1～4）の状態を表示します。ポートにパソコンを接続しているとき、緑色で点灯します。データを受信している間は緑色で点滅します。

動作が異常なときの表示ランプ

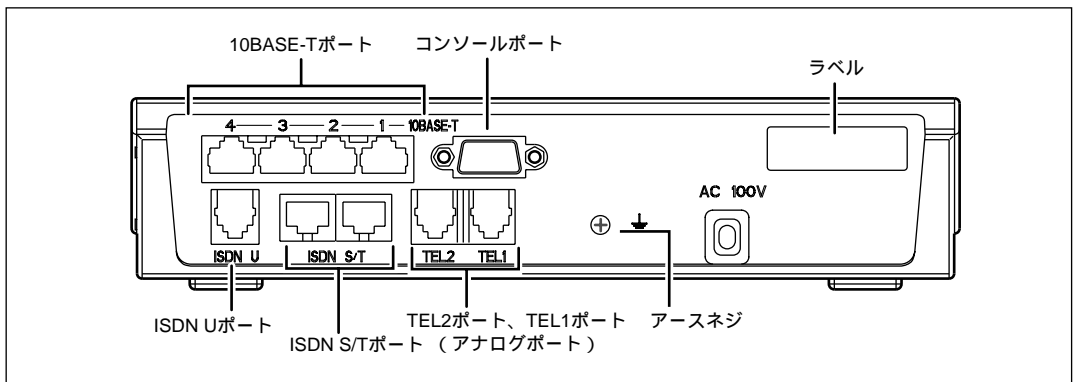
- CHECK ランプ エラー発生時に、橙色で点灯します。
- B1/B2 ランプ ISDNポートでの通信が不可能な場合に、橙色で点滅します。ケーブルが正しく接続されていない、または極性が反転している可能性があります。
- HUB PORT ランプ： 状態が異常な場合、ランプは点灯しません。



動作が異常な場合 「起動時の動作に関するトラブル」(P.98)

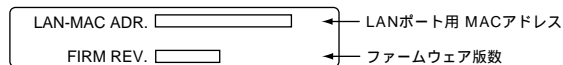
- すべてのランプが消灯 NetVehicle 本体の電源異常を検出したときは、すべてのランプが消灯し、電源が切れます。このような場合には、すぐに電源スイッチを「 $\text{\textcircled{I}}$ 」側へ押してください。また、添付の「修理・サービス網一覧表」をご覧くださいの上、富士通の技術員へご連絡ください。NetVehicle 本体の交換が必要です。

NetVehicle 背面

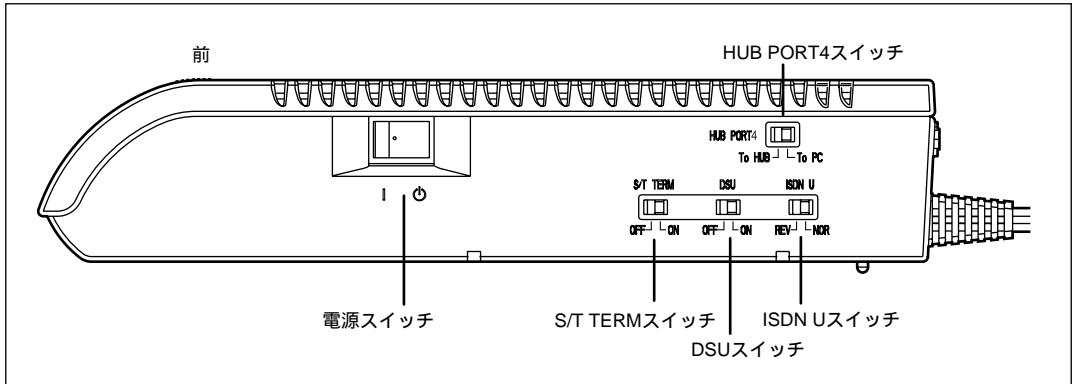


- ISDN U ポート ISDN回線またはデジタル専用線に接続するときに使います。本装置に内蔵されたDSUを使用する場合は、付属のISDN回線ケーブルをここに差し込みます。
- ISDN S/T ポート NetVehicleにデジタル電話機、デジタル回線用ファックスなどのISDN機器やTA(ターミナルアダプタ)をつなぐときに使います。ISDN機器などにつないだモジュラケーブルをここに差し込みます。
- アナログポート (TEL1、TEL2) NetVehicleに電話機やFAX、モデムなどのアナログ機器をつなぐときに使います。アナログ機器につないだモジュラケーブルをここに差し込みます。
- 10BASE-T ポート (1 ~ 4) NetVehicle をパソコンやワークステーションとつなぐときに使います。
- コンソールポート コンソールポートです。D-SUB9 ピンのクロスケーブルで、パソコンと接続します。
- アースネジ アース線を接続します。アース線はお客様でご用意ください。

- ラベル



ご購入時の状態では、オンラインサポートの暗証番号に LAN ポート用の MAC アドレスが設定されています。



- 電源スイッチ 「I」側へ押しすと、電源が入ります。
「O」側へ押しすと、電源が切れます。
- HUB PORT4 スイッチ 10BASE-Tポート4の接続先を、パソコンまたはHUBに切り替える設定を行います。
- S/T TERM スイッチ 終端抵抗の使用有無の設定を行います。
- DSU スイッチ 内蔵DSUの使用有無の設定を行います。
- ISDN U スイッチ ISDN回線の極性切り替えを行います。

⚠注意

外付けのDSUを使用する場合は、「内蔵DSUを使用しない」ように、DSUスイッチの設定を「OFF」に必ず変更してください。

- Ⓜ 補足 外付けのDSUを使用する場合：ISDN S/Tポートのどちらか一方を外付けのDSUにつなぎます。他方のポートにISDN機器をつなぎます。市販の8ピンISDN回線ケーブルをお使いください。



ISDN回線の極性

NTTの局線には極性があります。通常はストレートタイプのISDN回線ケーブルを差し込めば、通信ができるようになっていますが、まれにこの極性が反転している場合があり、ストレートタイプのISDN回線ケーブルではISDN機器がまったく動作しないことがあります。このような場合は、NetVehicleのISDN Uスイッチの設定を変更して、極性を反転させることができます。

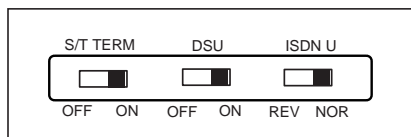
スイッチの設定

[HUB PORT4 スイッチ]

10BASE-Tポート4の接続先に合わせてスイッチを切り替えます。

10BASE-Tポート4に接続する機器	スイッチの設定
パソコン	HUB PORT4スイッチを「To PC」にします。
HUB	HUB PORT4スイッチを「To HUB」にします。

[S/T TERM スイッチ、DSU スイッチ、ISDN U スイッチ]



出荷時には、イラストのように設定されています。この場合、通信条件は以下のようになります。

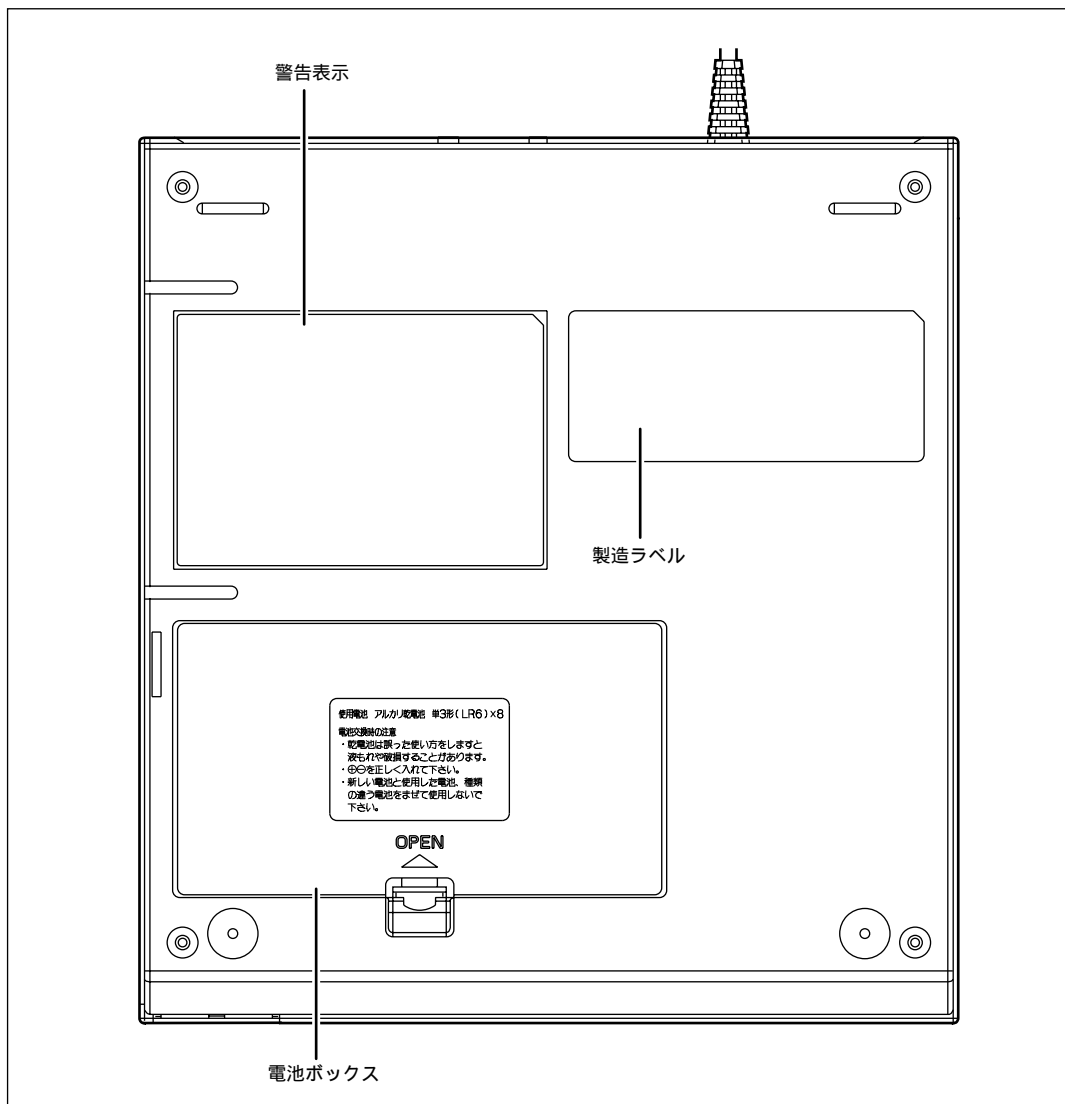
- 内蔵の終端抵抗を使用する
- 内蔵のDSUを使用する
- 回線の極性を反転させない



上記以外の条件で通信する場合 「スイッチ設定例」(P.113)

スイッチは以下のように設定します。


通信条件	スイッチの設定
S/Tポート内蔵の終端抵抗を使用する場合	S/T TERMスイッチを「ON」にします。
S/Tポート内蔵の終端抵抗を使用しない場合	S/T TERMスイッチを「OFF」にします。
NetVehicleの内蔵DSUを使用する場合	DSUスイッチを「ON」にしてから、両端が6ピンモジュラの形状のISDN回線ケーブル(本体に添付されています)をISDN Uポートに接続します。
外付けのDSUを使用する場合 (NetVehicleの内蔵DSUを使用しない)	DSUスイッチを「OFF」にしてから、両端が8ピンモジュラの形状のISDN回線ケーブル(本体に添付されていません)をISDN S/Tポートに接続します。
回線の極性が正しくなかった場合	ISDN Uスイッチを「REV」にします。



- 製造ラベル 型名、製造号機、製造日などが記載されています。
- 電池ボックス 停電時バックアップ用の電池をここに入れます。
- 警告表示 NetVehicle の取扱い上、注意していただきたいことが記載されています。

NTTの担当者が記載する項目

太枠外の項目は、INS ネット 64 または INS ネット 64 ・ライトのお申し込みの際に NTT の担当者がお尋ねして記入します。以下のようにお答えください。

 申込書の内容が下記と異なっている場合は、NTT の窓口にご相談ください。

「ご確認項目（必須項目）」

- インタフェース形態およびレイヤ起動種別 : 「P-MP 呼毎」または「P-MP 常時」を選びます。「P-MP 呼毎」を推奨します。「P-P」では動作しないので注意してください。
- 発信者番号通知サービス : 接続先に自分の電話番号を通知するかを選択します。NetVehicle どうしてコールバック機能（無課金コールバック機能）を利用する場合や、アナログの発信者番号通知機能を利用する場合は、「通常通知」を選びます。
- ユーザ間情報通知サービス : NetVehicle でメール着信通知サービスやオンラインサポート機能を利用する場合は、「着信許可」を選びます。



こんな事に気をつけて

- すでにINS ネットに加入済みで発信者通知サービスを「常時通知拒否」とされている場合、正常にデータ通信を行えないことがあります。
-

「ご確認項目（付加機能項目）」

- 通信中着信通知サービス : NetVehicle の BOD 機能を使用してアナログ着信時にチャネル縮退する場合や、フレックスホン、メール着信通知サービスを利用する場合に選びます。

「通信機器」

- 通信機器の名称 : NetVehicle の機種名（NetVehicle-S20）
- メーカー名 : 他社を選びます。
- 認定番号 : NetVehicle 本体底面のラベルに記載されている「認証番号」（例 CD99-1041JP）

 お申し込み票によっては、認定番号の欄がない場合があります。

「配線工事等」

- 「回線接続装置 DSU」および「機器配線」 : お客様工事



NetVehicle の BOD 機能とは？

NetVehicle では MultilinkPPP（MP 機能）を利用して 2 つの B チャネルを束ねて 128Kbps でデータ通信することができます。BOD 機能を使うと MP で通信中にも通信量に応じて B チャネルを増減させたり、アナログ機器を使用してダイヤル発信したり、着信する場合も B チャネルを減らすことができます。



プロバイダとの契約内容を確認する

NetVehicleでインターネットに接続する場合、インターネットサービスプロバイダ(以降プロバイダと略します)との契約が必要です。この場合、「端末型ダイヤルアップ接続」「ネットワーク型ダイヤルアップ接続」「専用線IP接続」から、利用のしかたに応じて接続形態を選びます。すでにプロバイダと契約している場合は、以下の各項目を確認してください。

「端末型ダイヤルアップ接続」(フレッツ・ISDN接続を含む)の場合

- ユーザ認証ID
- ユーザ認証パスワード
- アクセスポイントの電話番号

「ネットワーク型ダイヤルアップ接続」の場合

- DNSサーバのIPアドレス
- ユーザ認証ID
- ユーザ認証パスワード
- ネットワークアドレス
- アクセスポイントの電話番号
- ドメイン名

「専用線IP接続」の場合

- DNSサーバのIPアドレス
- ネットワークアドレス
- 通信速度



ユーザ認証ID / パスワード

端末型ダイヤルアップ接続の場合、プロバイダとの接続には一般の公衆回線を使います。当然、パソコンとモデム(またはTA)さえあれば、誰でも接続できてしまいます。これでは困るのでプロバイダ側では、正規契約者からの接続要求とそうでない要求とを識別するために、ユーザ認証IDとパスワードを発行するのです。このIDとパスワードが一致して初めて、インターネットへの接続が許可されるわけです。

ユーザ認証IDという呼び名は、「PPPユーザーアカウント」とか「アカウント」などと呼ばれることがあり、プロバイダによってまちまちです(このマニュアルでは「ユーザ認証ID」「ユーザ認証パスワード」と呼びます)。

フレッツ・ISDN接続の場合は、ユーザ認証IDに「xxx@xxx.ne.jp」や「xxx@xxx.com」などの形式を使用しています。詳しくは、契約しているプロバイダに確認してください。

プロバイダと新規に契約する場合は

まず、プロバイダを選びます。インターネット関連の雑誌などに掲載された情報を参考に、以下のような基準でプロバイダを選んでください。

- ・会社や自宅と同じ局番の地域にアクセスポイントがある
- ・上位プロバイダと高速な回線で接続されている



こんな事に気をつけて

プロバイダによっては、NAT (Network Address Translation) を禁止しているところがあるので、あらかじめ確認しておく必要があります。その際は、プロバイダの指示に従ってください。



プロバイダとの接続形態

プロバイダとの接続形態は、一般的に「端末型ダイヤルアップ接続」「ネットワーク型ダイヤルアップ接続」「専用線IP接続」の3つがあります。

- ・端末型ダイヤルアップ接続 (フレッツ・ISDN 接続含む)
1台のパソコンからインターネットに接続するときには、端末型ダイヤルアップ接続を選択します。この場合は、接続するたびに異なるIPアドレスが1つ割り当てられます。

ただしNetVehicleのマルチNAT機能を使用すると、端末型ダイヤルアップ接続で契約していても、NetVehicleにつながったパソコンの設定を変更せずに複数台のパソコンからインターネットに接続できます。

- ・ネットワーク型ダイヤルアップ接続
ネットワーク上の複数台のパソコンからインターネットに接続するときには、ネットワーク型ダイヤルアップ接続を選択します。申し込み台数に応じてIPアドレスが割り当てられます。

- ・専用線IP接続
プロバイダとの間を専用回線でつないでインターネットに常時接続するときには、専用線IP接続を選択します。通常プロバイダが専用回線の手配を行います。インターネットを常時接続で利用する場合は、以下の2つのパターンが一般的です。用途に合ったものを選択してください。

- ・プロバイダと専用線IP接続契約を結ぶ：利用回線はDA64/DA128またはHSD

- ・各通信会社が提供している専用線接続サービスを利用する

NTTコミュニケーションズ：OCNエコノミー

日本テレコム (ODN)：ODNエコノミー

KDDI：DION (NEWEB)



NetVehicle と 回線をつなぐ

ISDN 回線をつなぐ	34
NetVehicle の接続手順	34
ISDN 回線をつなぐ	35
アナログ機器をつなぐ	36
アース線をつなぐ	37
電源をつなぐ	37
電話が利用できることを確認する	38
専用線をつなぐ	39
NetVehicle の接続手順	39
専用線をつなぐ	40
電源をつなぐ	40



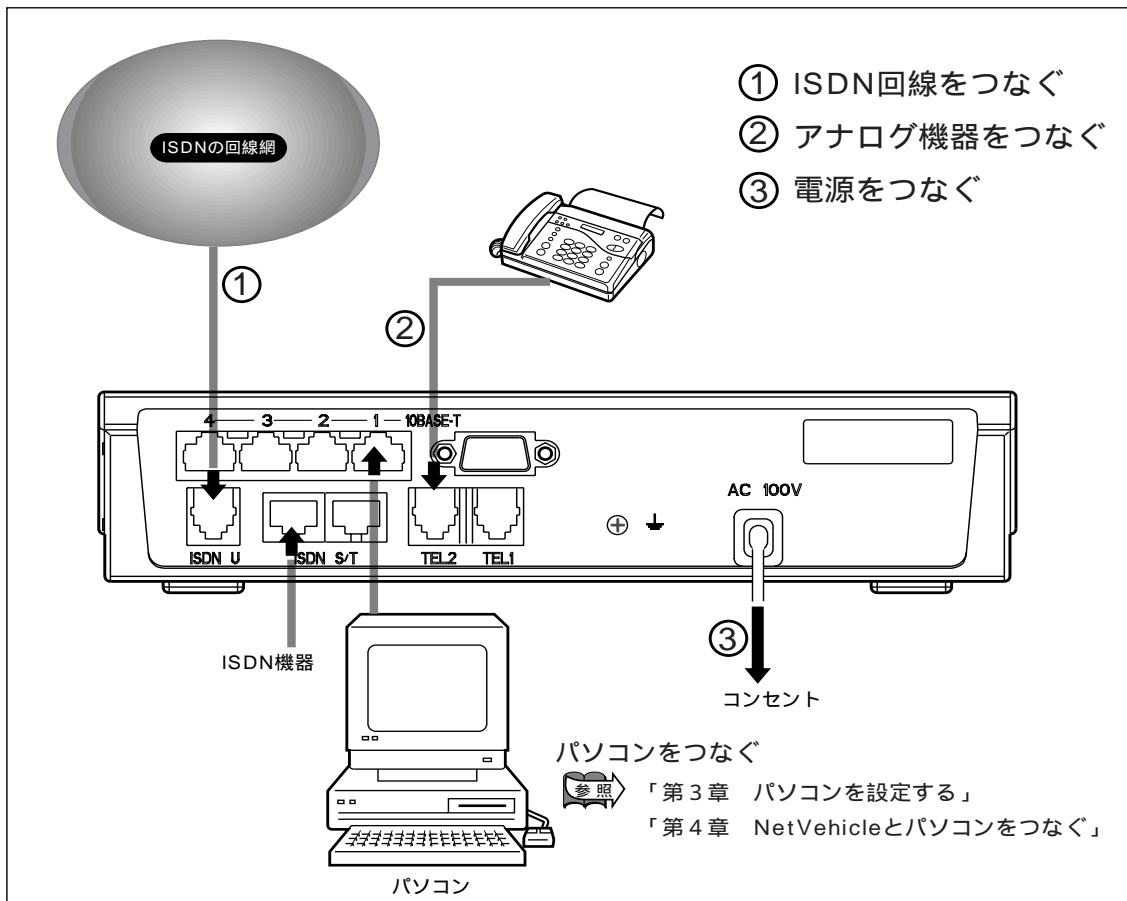
ISDN 回線をつなぐ

NetVehicle の接続手順

NetVehicle を接続するときは、以下に示す手順で作業を行います。

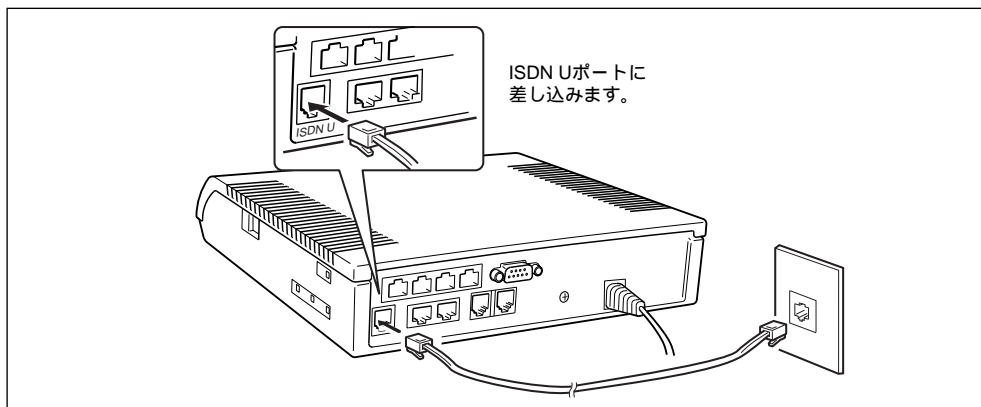
⚠ 警告

NetVehicle および接続する機器の電源を切ってから、つないでください。

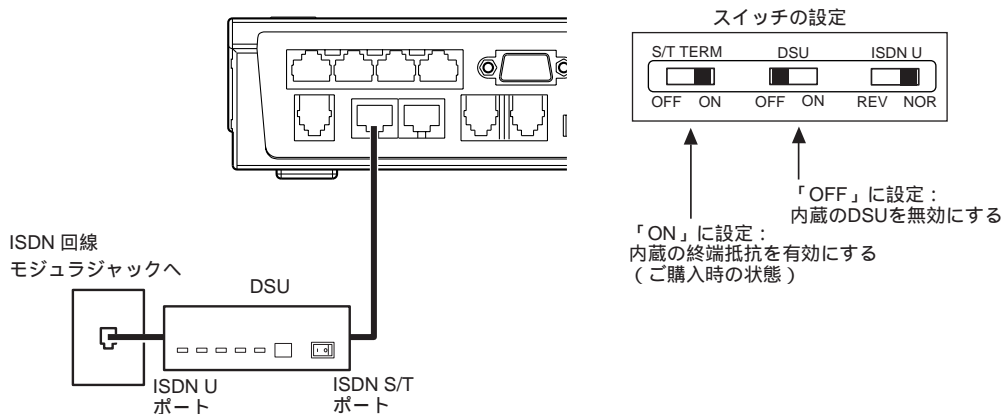


ISDN 回線をつなく

1. ISDN 回線ケーブルの一方を NetVehicle の ISDN U ポートに差し込みます。
2. ケーブルのもう一方を ISDN 回線のモジュラジャックに差し込みます。



補足 内蔵 DSU を使用しない場合は、下図のように NetVehicle の ISDN S/T ポートと既設 DSU の ISDN S/T ポートをつなぎます。スイッチの設定を右下の図のように変更してください。




■ アナログ機器をつなぐ

アナログポート (TEL1, TEL2) にアナログ機器のモジュラを差し込むだけでアナログ機器が使えます。NetVehicle でアナログ機能の設定を行うと、さらに便利な使い方ができます。停電時にも、NetVehicle にバックアップ用電池が入っている場合、TEL1 ポートに接続された電話機はご使用になれます。

 停電時の動作 「停電時の動作について」(P.112)

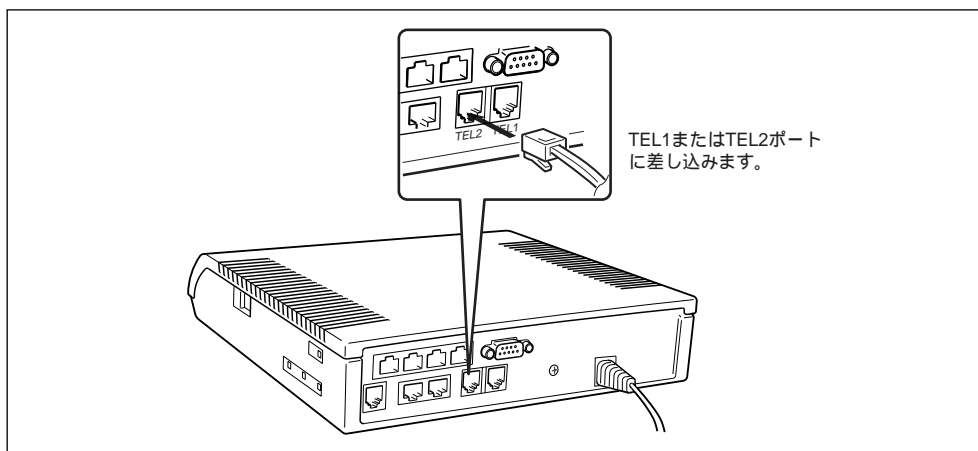
!! こんな事に気をつけて

- アナログポート 1 つにつきアナログ機器 1 台だけをつないでください。2 分岐モジュラコネクタなどを使って 1 つのポートに複数の機器をつなぐと、誤動作の原因になります。
- アナログポートにつなぐことができるのは、プッシュ式のアナログ回線用の電話機、FAX、モデムなどです。パルス式の機器やデジタル電話機、デジタル回線用の FAX はこのポートにつなぐことができません。

 ・受話器を取ってダイヤルボタンを押したときに、受話器からピッポッパという音 (PB 音といいます) がする電話機が使えます。PB 音が聞こえない場合でも、電話機にトーン / パルス切替スイッチがついているのであれば、スイッチを切り替えれば使えるようになります (トーン / パルス切替スイッチについては電話機の取扱説明書をご覧ください)。

・PB 音を発信できる電話機でも、機種によっては使用できない場合があります。

1. モジュラケーブルの一方の端をアナログ機器に差し込みます。
2. モジュラケーブルのもう一方の端を NetVehicle の TEL1 または TEL2 ポートに差し込みます。

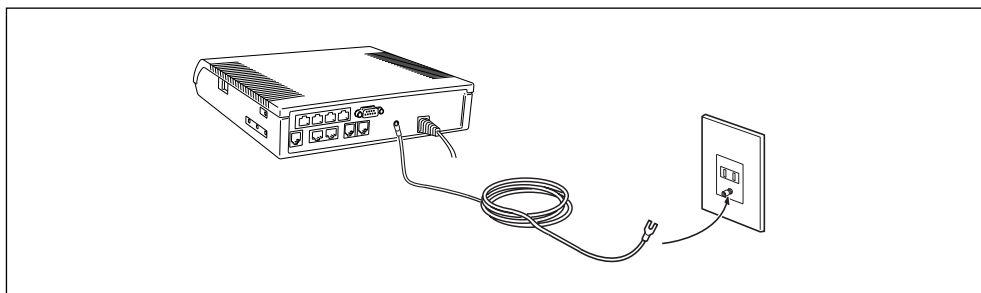
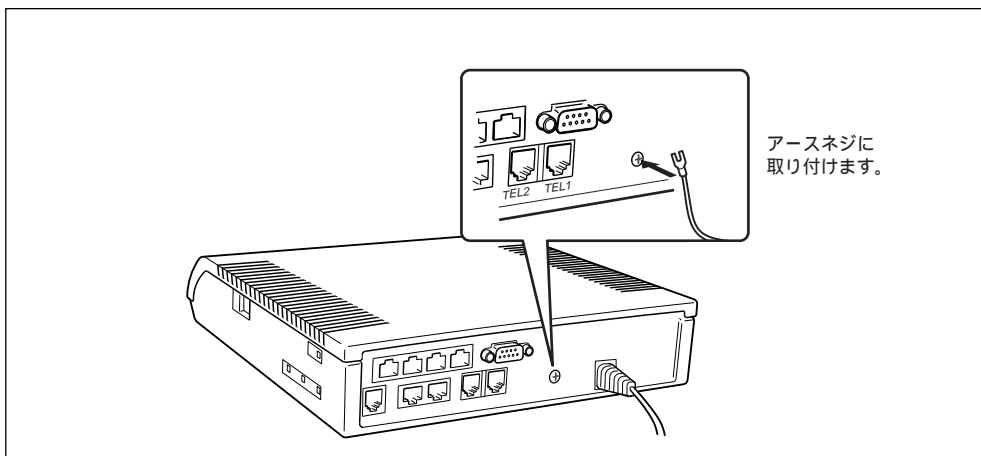


ISDN 機器をつなぐ場合は、アナログ機器をつなぐ手順を参考にして、ISDN S/T ポートに ISDN 機器のケーブルを差し込んでください。

■ アース線をつなぐ

電源をつなぐ前にアースを接続してください。

1. アース線をアースネジに取り付けます。



■ 電源をつなぐ

電源ケーブルの先は、2ピンになっています。通常の電源コンセント（2穴式）にそのまま差し込みます。

1. 電源ケーブルを、電源コンセントに差し込みます。

⚠警告

NetVehicleの電源スイッチが「**⏻**」側へ押されていることを確認してから、電源コンセントに差し込んでください。

2. NetVehicleの電源を入れます。

3. NetVehicleが起動したことを確認します。

ⓧ**補足** 電源が入ると、NetVehicleは自動的に装置の状態を診断します。このとき、CHECK/B1/B2/LANランプが点滅します。次にHUB以外のランプが同時に緑色で約2秒間点灯します。装置に異常がない場合は、CHECKランプが消灯して、起動が完了します。

電話が利用できることを確認する

NetVehicleのアナログポートにつないだ電話機は、通常の回線につないだ時と同じように利用できます。NetVehicleに接続された電話をかけてみて、ISDN回線が正常に接続されていることを確認してください。

1. 受話器を上げ、ツーツという音が聞こえることを確認します。
2. 相手先の電話番号をダイヤルすると、呼び出し音が鳴ります。
3. 通話が終わったら、受話器を置きます。



こんな事に気をつけて

受話器を置いてから、すぐに受話器を上げてしまうと、通話が切れません。続けて他に電話をかける場合は、2秒以上置いてから受話器を上げてください。

.....



リダイヤルするときには

最後に電話をかけた番号にもう一度電話をかける場合は、リダイヤル機能を使うと便利です。上の操作と同様な操作で、手順 2. で **☎** を押します。

すぐに発信するには

ご購入時の設定では、番号をダイヤルして **#** を 1 回押すと、すぐに発信するようになっています。



電話機のダイヤルで操作する手順の一覧 「ダイヤル操作早見表」(P.117)



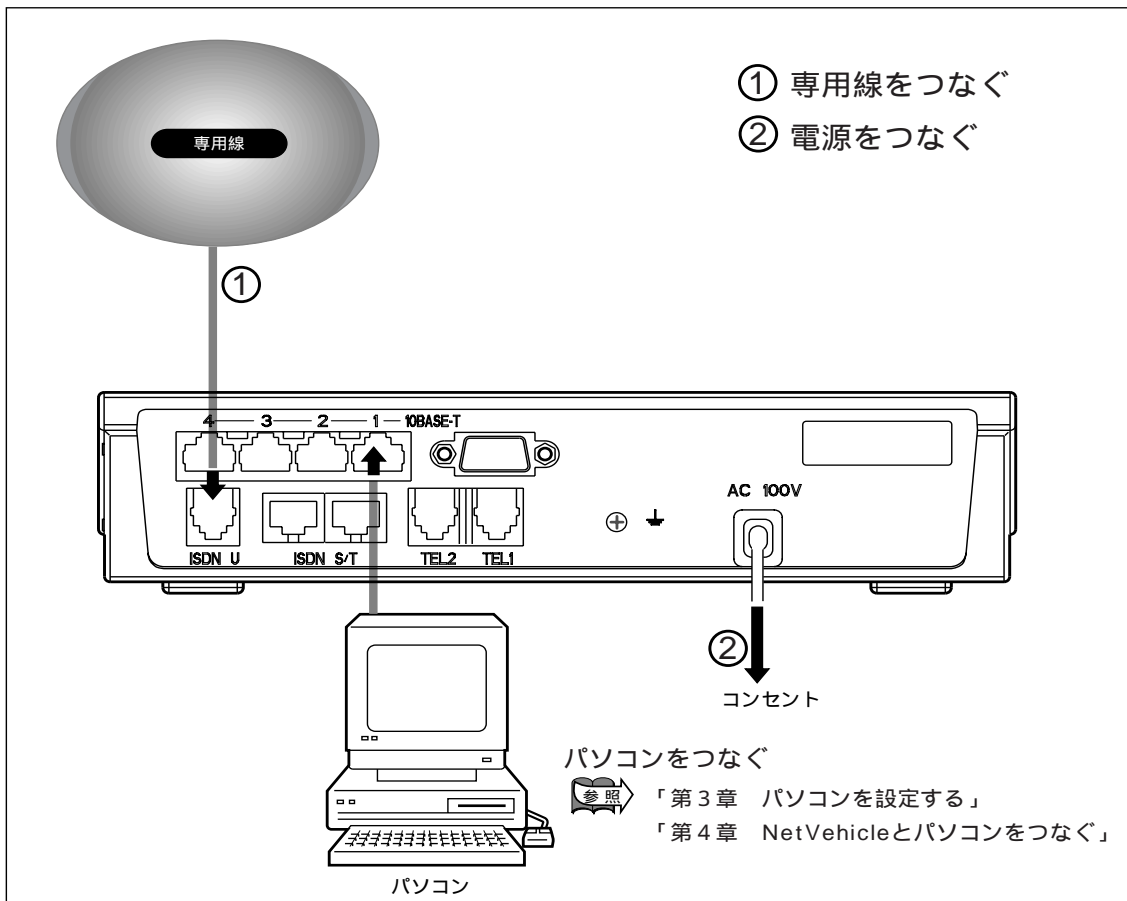
専用線をつなぐ

NetVehicle の接続手順

NetVehicle を接続するときは、以下に示す手順で作業を行います。

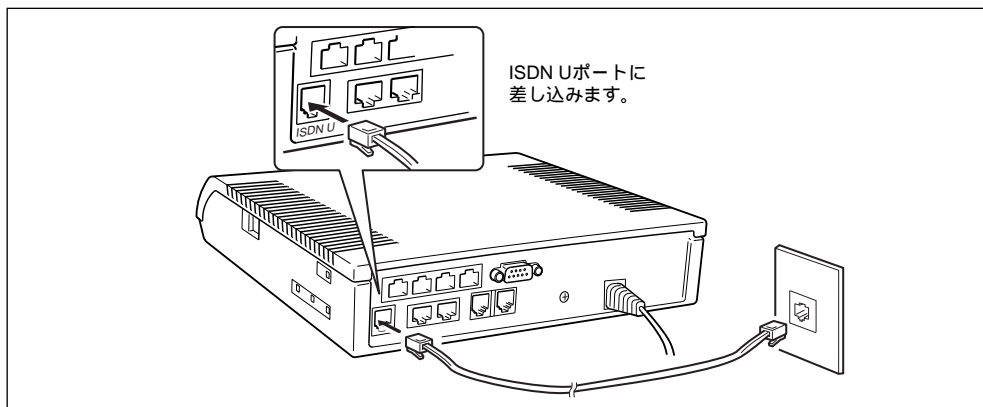
⚠ 警告

NetVehicle および接続する機器の電源を切ってから、つないでください。



専用線をつなぐ

1. ISDN 回線ケーブルの一方を NetVehicle の ISDN U ポートに差し込みます。
2. ケーブルのもう一方を専用線のモジュラジャックに差し込みます。

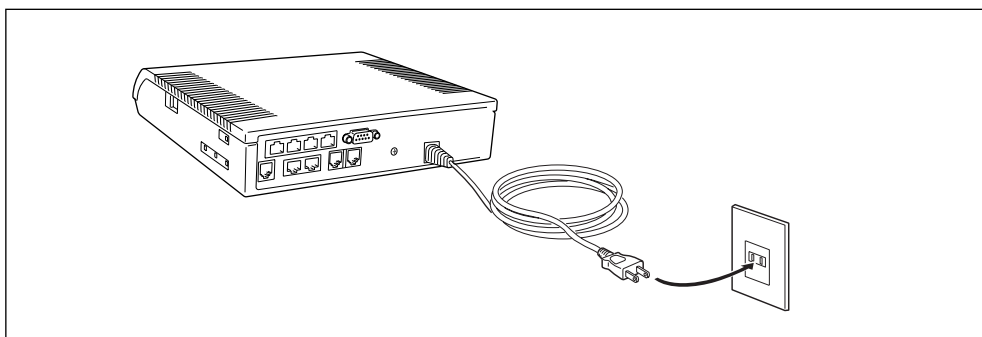


電源をつなぐ


電源をつなぐ前にアースを接続してください。

電源ケーブルの先は、2ピンになっています。通常の電源コンセント(2穴式)にそのまま差し込みます。

1. 電源ケーブルを、電源コンセントに差し込みます。



⚠ 警告

NetVehicleの電源スイッチが「」側へ押されていることを確認してから、電源コンセントに差し込んでください。



パソコンを設定する

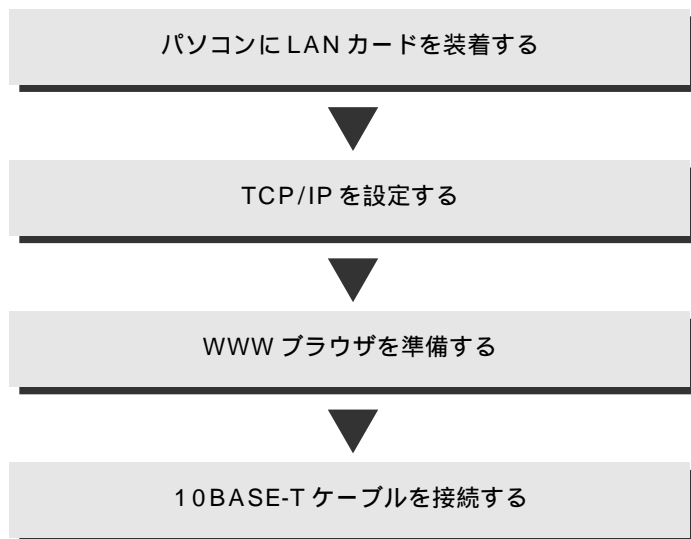
この章では、
利用するパソコンを設定する方法を説明します。

パソコンを LAN でつなぐ場合は	42
LAN カードを用意する	42
TCP/IP プロトコルを利用できるようにする	42
WWW ブラウザを用意する	47



パソコンをLANでつなぐ場合は

NetVehicleの10BASE-Tポートにパソコンを接続して使用する場合の準備について説明します。



LANカードを用意する

お使いのパソコンにLANポートがあることを確認してください。

LANポートがないパソコンの場合は、LANカードを取り付ける必要があります。パソコンやLANカードに添付のマニュアルに従って正しく設定をしてください。

TCP/IP プロトコルを利用できるようにする

NetVehicleを使うには、パソコンに「TCP/IP」というネットワークプロトコルモジュールをインストールしておく必要があります。

また、実際に通信するためには、パソコン側で以下の設定が必要です。

- IPアドレス
- ネットマスク
- DNSサーバアドレス
- デフォルトゲートウェイ
- ドメイン名

なお、NetVehicleにこれらの設定を自動的に行わせることもできます。



「TCP/IP」って何？

インターネットで利用されている標準の通信規約（プロトコル）をまとめて、TCP/IPと呼びます。

Windowsデスクトップの設定で「Webスタイル」を指定してある場合は、「ダブルクリック」と記載してあるところは「シングルクリック」で操作できます。ここでは、Windows® 98/Me、Mac OS 9を例に説明します。この他のOSお使いの場合は、各OSのマニュアルを参照してください。

パソコンの設定 (Windows® Me)

1. デスクトップの[マイネットワーク]アイコンを右クリックし、プロパティを選択します。
2. [ネットワーク]ダイアログボックスで[ネットワークの設定]タブをクリックして選択します。

「現在のネットワークコンポーネント」一覧に「TCP/IP」または「TCP/IP (すでにダイヤルアップの設定を行っている場合は 内にお使いの LAN カードの名称が表示されます)」があることを確認します。

⑧⑨ 一覧に TCP/IP が見つからない場合は、TCP/IP のインストールが必要です。Windows® Me のマニュアルを参照して、インストールしてください。

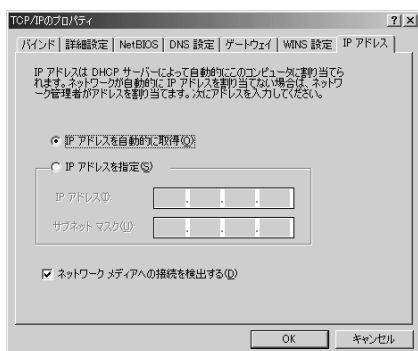
3. 一覧から「TCP/IP」または「TCP/IP (内はお使いの LAN カードの名称)」をクリックして選択します。



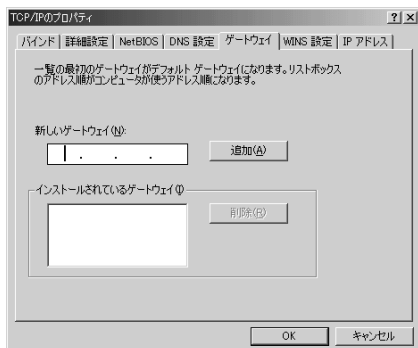
!! こんな事に気をつけて.....
「TCP/IP ダイヤルアップアダプタ」を選択しないでください。
.....

4. [プロパティ]ボタンをクリックすると、[TCP/IPのプロパティ]ダイアログボックスが表示されます。

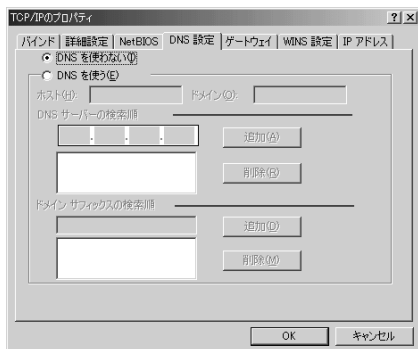
5. [IP アドレス] 画面で「IP アドレスを自動的に取得」を選択します。



6. [ゲートウェイ] 画面で何も設定されていないことを確認します。



7. [DNS] 画面で「DNS を使わない」を選択します。



8. [OK] ボタンをクリックします。 [ネットワーク] ダイアログボックスに戻ります。

9. [OK] ボタンをクリックします。
パソコンを再起動するかを確認するメッセージが表示されます。
10. [はい] ボタンをクリックし、パソコンを再起動します。
設定した内容は、再起動後に有効になります。

パソコンの設定 (Windows® 98)

1. [コントロールパネル] ウィンドウを開き、[ネットワーク] アイコンをダブルクリックします。
2. [ネットワーク] ダイアログボックスで [ネットワークの設定] タブをクリックして選択します。

「現在のネットワークコンポーネント」一覧に「TCP/IP」または「TCP/IP (すでにダイヤルアップの設定を行っている場合は 内にお使いの LAN カードの名称が表示されます)」があることを確認します。

補足 一覧に TCP/IP が見つからない場合は、TCP/IP のインストールが必要です。Windows® 98 のマニュアルを参照して、インストールしてください。

3. 一覧から「TCP/IP」または「TCP/IP (内はお使いの LAN カードの名称)」をクリックして選択します。



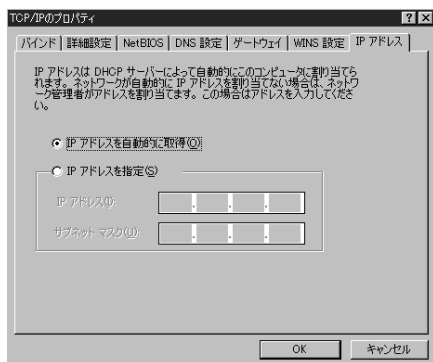
! こんな事に気をつけて

- 「TCP/IP ダイヤルアップアダプタ」を選択しないでください。

.....

4. [プロパティ] ボタンをクリックします。
[TCP/IP のプロパティ] ダイアログボックスが表示されます。

- 5.** [IP アドレス] 画面で「 IP アドレスを自動的に取得 」を選択します。

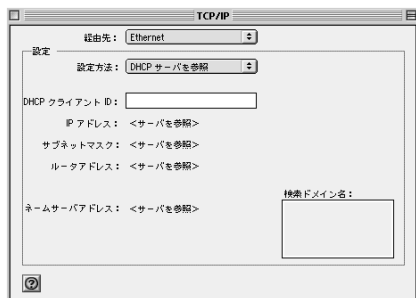


- 6.** [OK] ボタンをクリックします。
[ネットワーク] ダイアログボックスに戻ります。
- 7.** [OK] ボタンをクリックします。
パソコンを再起動するかを確認するメッセージが表示されます。
- 8.** [はい] ボタンをクリックし、パソコンを再起動します。
設定した内容は、再起動後に有効になります。

パソコンの設定 (Mac OS 9)

Macintosh で TCP/IP を有効にする方法を説明します。

- 1.** アップルメニューから [コントロールパネル] を選択します。
- 2.** サブメニューから [TCP/IP] を選択します。
[TCP/IP] ウィンドウが開きます。



- 3.** 「経路先」のプルダウンメニューから「Ethernet」を選択します。
- 4.** 「設定方法」で「DHCPサーバを参照」を選択します。
必要に応じて、「検索ドメイン名」も入力します。
- 5.** [TCP/IP] ウィンドウを閉じます。
- 6.** [保存の確認] ダイアログで [はい] ボタンをクリックします。
設定した内容が保存され、有効になります。

WWW ブラウザを用意する

NetVehicleを利用するには、Microsoft Internet Explorer4.0以降または Netscape Navigator3.0以降(ただし Netscape 6 を除く)が必要です。ブラウザの設定が、「Proxy(プロキシ)サーバ機能」を利用しないようになっていることを確認してください。

!! こんな事に気をつけて

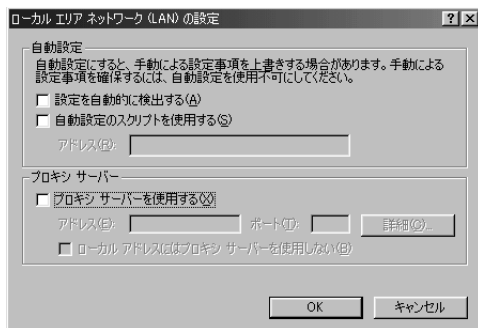
すでに Windows® 95/98/Me の「ダイヤルアップネットワーク」でモデムやTAをお使いの場合は、ブラウザ起動時の設定を以下のように変更してください。

1. [コントロールパネル]-[インターネットオプション]-[インターネットのプロパティ]-[接続]タブの順に選択して、「接続タブ」を表示する。
 2. ダイヤルアップの設定で「ダイヤルしない」を選択する。
 3. [OK] ボタンをクリックする。
-

Microsoft Internet Explorer 5.5

Microsoft Internet Explorer 5.5 の場合は、以下のように確認します。

1. [ツール]メニューから「インターネットオプション」を選択します。
2. インターネットオプション画面の「接続」タブで、LANの設定の[LANの設定]ボタンをクリックします。
3. 「プロキシサーバを使用する」が選択されていないことを確認します。

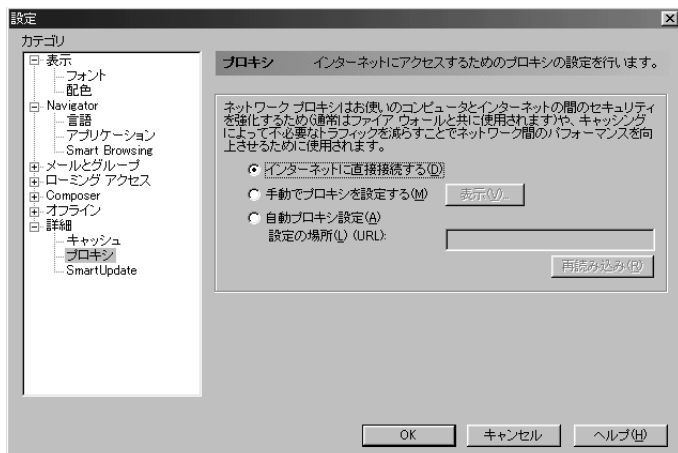


Netscape Communicator 4.7

Netscape Communicator 4.7 の場合は、以下のように確認します。

1. [編集]メニューから「設定」を選択します。
2. 設定画面の「カテゴリ」で「詳細 - プロキシ」を選択します。

3. 「インターネットに直接接続する」が選択されていることを確認します。



補足 Proxy サーバを使用する場合は、下記を参考にして NetVehicle だけを Proxy の対象外にしてください。

Microsoft Internet Explorer 5.5 の場合は、以下のように設定します。

1. [ツール] メニューから「インターネットオプション」を選択します。
2. インターネットオプション画面の「接続」タブで、LAN の設定の [LAN の設定] ボタンをクリックします。
3. プロキシサーバーの「プロキシサーバーを使用する」が選択されていることを確認し、[詳細] ボタンをクリックします。
4. 「HTTP」にプロバイダの Proxy サーバを指定します。
5. 例外の「次で始まるアドレスにはプロキシを使用しない」に NetVehicle の IP アドレス (192.168.1.1) を指定します。

Netscape Communicator 4.7 の場合は、次のように設定します。

1. [編集] メニューから「設定」を選択します。
2. 設定画面の「カテゴリ」で「詳細 - プロキシ」を選択します。
3. 「手動でプロキシを設定する」を選択し、[表示] ボタンをクリックします。
4. 「HTTP」にプロバイダの Proxy サーバを指定します。
5. 例外の「次ではじまるドメインにはプロキシサーバを使用しない」に NetVehicle の IP アドレス (192.168.1.1) を指定します。



NetVehicle と パソコンをつなぐ

この章では、

NetVehicle で LAN を構築する方法を説明します。

構築する LAN の形態に応じて以下の箇所をお読みください。

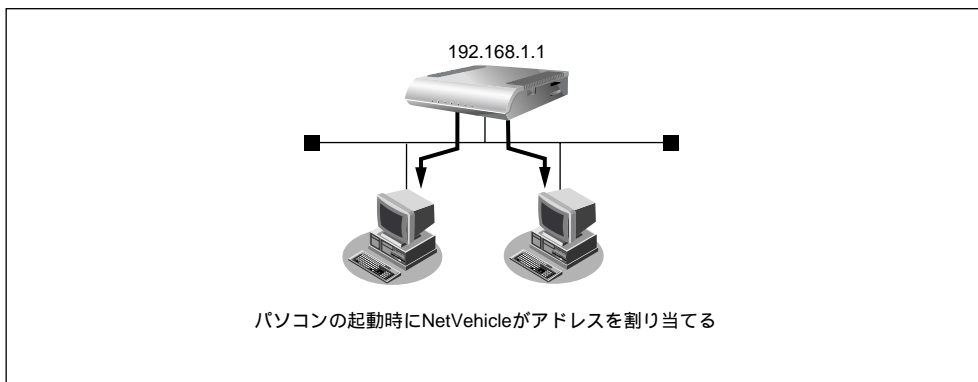
- | | |
|-----------------|-----------------|
| 新規に LAN を構築する場合 | 「新規に LAN を構築する」 |
| 既存の LAN に組み込む場合 | 「既存の LAN を構築する」 |

新規に LAN を構築する	50
パソコンをつなぐ	50
ハブを使って LAN を構築する	51
既存の LAN を構築する	52
ネットワークの状況を確認する	52
IP アドレスを設定する	53
NetVehicle をつなぐ	54



新規にLANを構築する

新規にLANを構築する場合は、NetVehicleのDHCPサーバ機能を利用してIPアドレスを割り当てることをお勧めします。



パソコンをつなぐ

NetVehicle とパソコンを 10BASE-T ケーブルでつなぎます。

警告

NetVehicle および接続する機器の電源を切ってから、つないでください。



こんな事に気をつけて

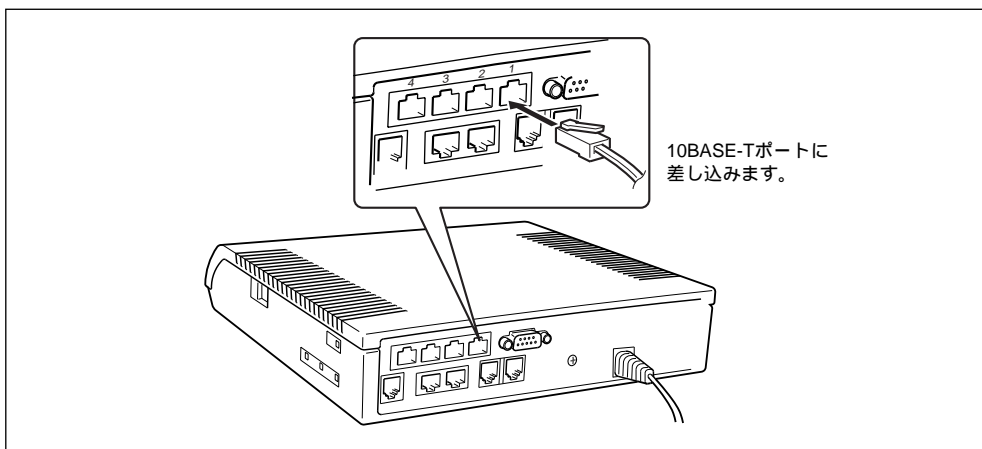
本製品のLAN (HUB) ポートに 10/100BASE-TX 機器 (PC、ワークステーション、HUB など) を接続してお使いになる場合は、接続機器を通信速度 (10M/100M) および通信方式 (全二重 / 半二重 ; Full-Duplex / Half-Duplex) 自動検出モードでお使いになると、正しく接続できないことがあります。

万が一、速度自動検出モードで正しく接続できない場合は、一度LANケーブルを抜き、機器の設定を速度は10M または 100M のどちらかに、通信方式は全二重 (Full-Duplex) または半二重 (Half-Duplex) のどちらかの固定の値に変更後、再接続を行ってください。

NetVehicle にパソコンを 1 台だけつなぐ方法を説明します。NetVehicle をネットワーク上の複数のパソコンで利用する場合も、1 台のパソコンを一時的にネットワークから切り離し、NetVehicle につないでから設定します。

1. パソコンの 10BASE-T ポートに 10BASE-T ケーブルの一方の端を差し込みます。

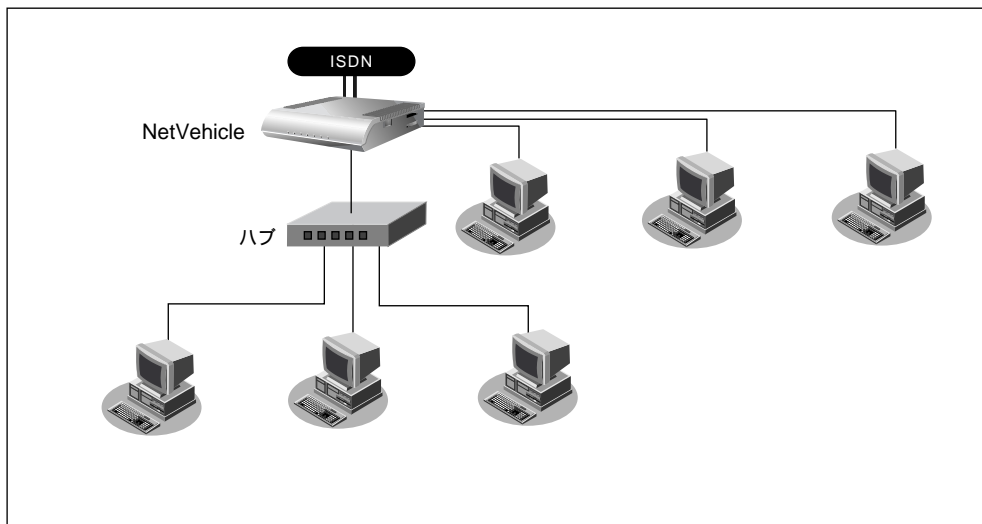
- 2.** NetVehicleの10BASE-Tポートに10BASE-Tケーブルのもう一方の端を差し込みます。



ハブを使ってLANを構築する

利用するパソコンが4台以下の場合、10BASE-Tポート4に10BASE-Tケーブルの端を差し込んでパソコンとつなぎます。

ハブを使ってLANにつなぐ場合は、以下のようにつなぎます。



⚠警告

NetVehicleおよび接続する機器の電源を切ってから、つないでください。

- 1.** 10BASE-Tケーブルで10BASE-Tポート4とハブのポートをつなぎます。
- 2.** NetVehicle側面のHUB PORT4スイッチを「To HUB」に切り替えます。
- 3.** パソコンとハブを10BASE-Tケーブルでつなぎます。



既存のLANを構築する

既存のLANにNetVehicleを組み込む場合は、LAN内のIPアドレス割り当て方法に従って、NetVehicleのIPアドレスを割り当てる必要があります。

既存のネットワークでDHCPサーバを利用している場合は、NetVehicleのDHCPサーバ機能を利用しないように設定を変更します。



DHCPサーバ機能の設定 応用編「DHCPサーバ機能を使う」(P.133)

ネットワークの状況を確認する

すでにネットワークを構築している場合は、以下の点に注意してください。

ネットワーク上のホストのIPアドレス

TCP/IPでは、ネットワーク上の各コンピュータ(慣例的にホストといいます)のIPアドレスとNetVehicleのIPアドレス(ご購入時には192.168.1.1が設定)が重複すると、ホストとNetVehicle間の通信ができなくなります。また、ネットワーク全体にも影響を与える場合がありますので、ご注意ください。ネットワーク上に「192.168.1.1」というIPアドレスを持つホストが存在する場合は、NetVehicleのIPアドレスを変更する必要があります。

各ホストのIPアドレスなどを静的に割り当てる場合は、この重複が発生しないように注意してください。動的割り当てを行っている場合でも、DHCPサーバが割り当てるIPアドレスとNetVehicleのIPアドレスが重複しないように設定を変更する必要があります。また、ブロードキャストアドレスは設定できません。



使ってはいけないIPアドレス、ブロードキャストアドレス 応用編「Q&A Q37」(P.306)



TCP/IPによるネットワークでは、各ホストを識別するため、「IPアドレス」などの割り当てが必要です。

インターネットなどでたびたび出てくる「IPアドレス」実は「ネットワーク部」と「ホスト部」の2つの要素から成り立っています。例えば「192.168.1.10」というIPアドレスの場合なら、最初の「192.168.1.」までを「ネットワーク部」といい、最後の「10」を「ホスト部」といいます(クラスCの場合)。


ネットワーク部が同じIPアドレスを持つホストは、同じネットワーク上にあると認識されます。さらに、ホスト部によって同一ネットワーク上の各ホストが識別されます。

これらから、「IPアドレス」を各ホストに割り当てるときは、以下のことを考慮しなければなりません。

- ・同一ネットワークに含めるホストに対して、同じネットワーク部を与えなければならない。
- ・ネットワーク部内では、ホスト部を重複させてはいけません。

IP アドレスを設定する

NetVehicle のアナログポート (ポート 1、ポート 2) に接続したアナログ機器から IP アドレスの設定を行います。

 アナログ機器の接続 「アナログ機器をつなぐ」(P.36)

ここでは、電話機を使って IP アドレスを設定する操作方法を説明します。

1. NetVehicle の電源を入れます。
2. 受話器を上げ、ツーという音が聞こえることを確認します。
3. ***0******810*** + ***** IPアドレス + ネットマスク + ブロードキャストアドレスをダイヤルします。


IP アドレス、ネットマスク、ブロードキャストアドレスの数字の区切りに ***** を使います。
ブロードキャストアドレスは、指定するブロードキャストアドレスに対応する数値を以下の表から選択します。

選択値	ブロードキャストアドレスの設定
0	0.0.0.0
1	255.255.255.255
2	IPアドレス / ネットマスクから求められるネットワークアドレス + オール0
3	IPアドレス / ネットマスクから求められるネットワークアドレス + オール1

例) IP アドレスを「192.168.2.1」、ネットマスクを「24」、ブロードキャストアドレスを「3(ネットワークアドレス + オール1)」に設定する場合

0***810******192******168******2******1******24******3*** をダイヤルします。

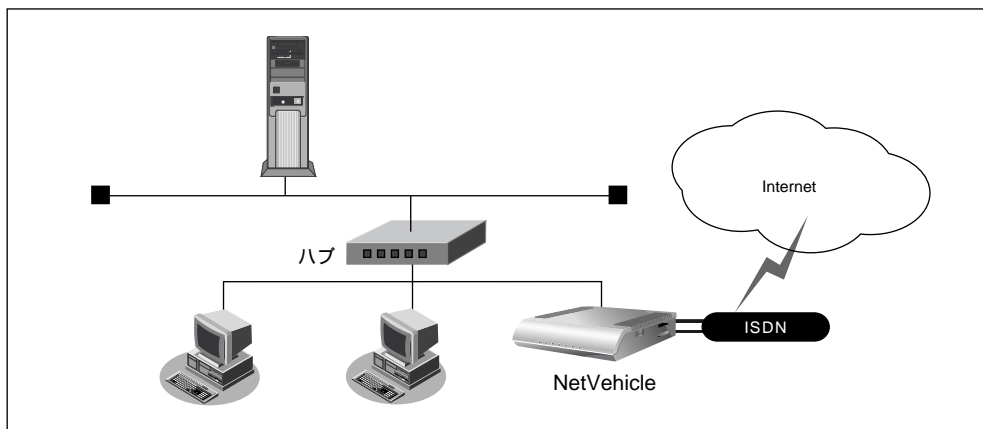
4. ピピッという音が 2 回とビジートーン (プープープーという話中の音) が聞こえます。

 正常に設定できなかった場合は、ビジートーン (プープープーという話中の音) だけが聞こえます。

5. 受話器を置きます。

NetVehicleをつなぐ

既存の LAN に NetVehicle を組み込みます。NetVehicle とハブを 10BASE-T ケーブルでつなぎます。



警告

NetVehicle および接続する機器の電源を切ってから、つないでください。

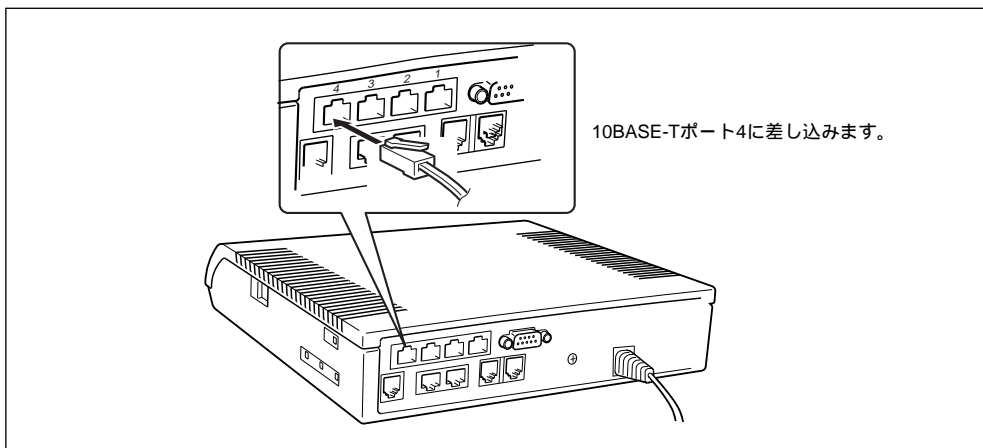


こんな事に気をつけて

本製品の LAN (HUB) ポートに 10/100BASE-TX 機器 (PC、ワークステーション、HUB など) を接続してお使いになる場合は、接続機器を通信速度 (10M/100M) および通信方式 (全二重 / 半二重 ; Full-Duplex / Half-Duplex) 自動検出モードでお使いになると、正しく接続できないことがあります。

万が一、速度自動検出モードで正しく接続できない場合は、一度 LAN ケーブルを抜き、機器の設定を速度は 10M または 100M のどちらかに、通信方式は全二重 (Full-Duplex) または半二重 (Half-Duplex) のどちらかの固定の値に変更後、再接続を行ってください。

1. 10BASE-T ケーブルで NetVehicle の 10BASE-T ポート 4 とハブのポートをつなぎます。



2. NetVehicle 側面の HUB PORT4 スイッチを「To HUB」に切り替えます。

5

NetVehicle を設定する

この章では、
NetVehicle での基本的な設定方法を説明します。


設定を始める	56
NetVehicle とパソコンの電源を入れる	56
WWW ブラウザを起動して NetVehicle のトップページを表示させる ..	56
時計を設定する	58
設定方法を選ぶ	60
「かんたん設定」で設定する場合	60
「詳細設定」で設定する場合	60
「かんたん設定」で設定する（インターネットへ ISDN 接続のとき）.....	61
「かんたん設定」で設定する（インターネットへフレッツ・ISDN 接続のとき）...	66
「かんたん設定」で設定する（インターネットへ専用線接続のとき）.....	70
「かんたん設定」で設定する（オフィスへ ISDN 接続のとき）.....	74
「かんたん設定」で設定する（オフィスへ専用線接続のとき）.....	78
「かんたん設定」で設定する（アナログ設定）.....	81
電話機を使って設定する	82
時計を設定する	82
IP アドレスを設定する	83
アナログ機能を設定する	84
着信転送先の設定を行う	85
TEL メールの設定を行う	86
メールチェックを実行する	86
メール着信を消去する	87
留守状態の設定を行う	87
留守モードの設定を行う	88




設定を始める

NetVehicle とパソコンの電源を入れる

1. NetVehicle の電源を入れます。
2. NetVehicle が起動したことを確認します。

 電源が入ると、NetVehicleは自動的に装置の状態を診断します。このとき、CHECK/B1/B2/LANランプが点滅します。次にHUB以外のランプが同時に緑色で約2秒間点灯します。装置に異常がない場合は、CHECKランプが消灯して、起動が完了します。

3. パソコンの電源を入れます。
4. IP通信の状態を確認します。

 Windows® 95/98/Meには、IPアドレスやアダプタアドレス（MACアドレス）など現在のIP設定情報を確認できるコマンドがあります。以下のように操作します。

1. [スタート]-[ファイル名を指定して実行]を選択する。
2. 「winipcfg.exe」を指定する。


WindowsNT®、Windows® 2000の場合には「ipconfig.exe」で確認できます。

注意

本装置は、10BASE-Tポートに接続したパソコンからの要求によって、自動的にダイヤル発信を行い回線を接続します。そのため、お客様がご使用になられる機器、ソフトウェア、またはLANの利用条件により、不要なダイヤル発信が行われ回線が接続されてしまう場合があります。

すでに設定されている内容から、NetVehicleが関係するネットワークの一部、またはすべてが変更になった場合は、NetVehicleをいったんご購入時の状態に戻してから、設定し直してください。以前の設定が残っていると、お客様の意図しないダイヤル発信が行われたり、回線が接続できなかったりすることがあります。

WWWブラウザを起動してNetVehicleのトップページを表示させる

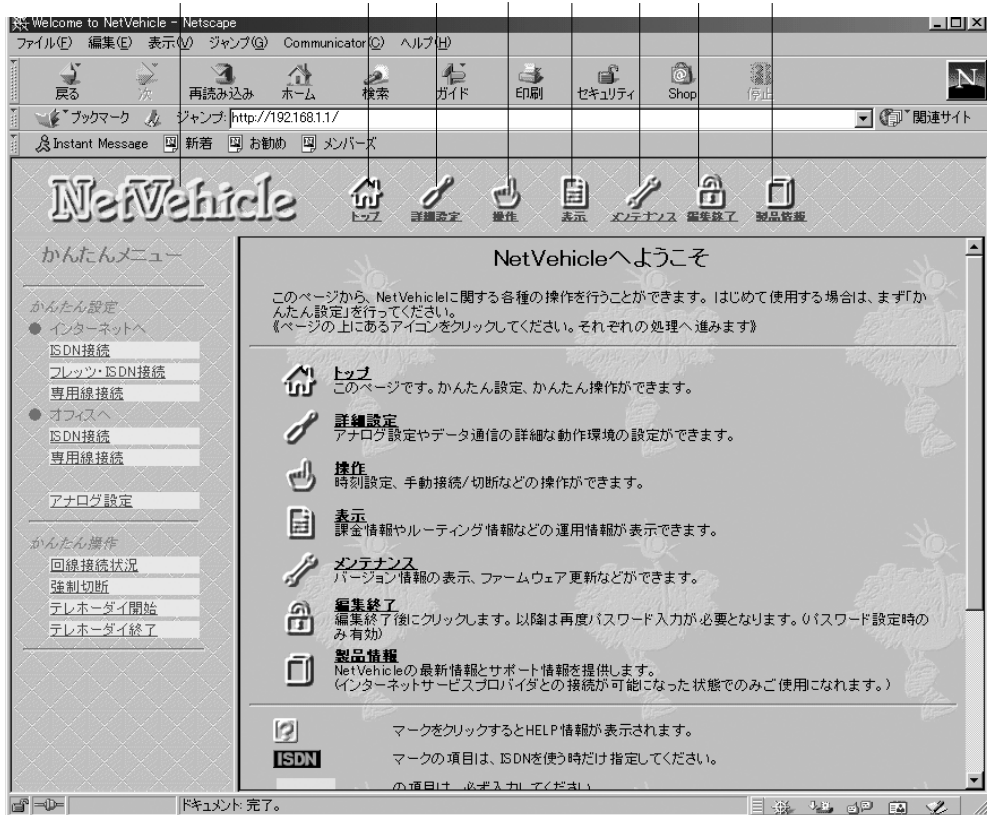
 WWWブラウザの設定 「WWWブラウザを用意する」(P.47)

1. WWWブラウザを起動します。








2. NetVehicleのURL「http://192.168.1.1/」を指定します。 NetVehicleのトップページが表示されます。

補足 ProxyDNSをご利用の場合は「http://nvmenu/」でも表示されます。

(1) (2) (3) (4) (5) (6) (7) (8)



画面上部のフレームに表示されるアイコンをクリックすると、ブラウザの表示が変わります。

- (1) NetVehicle ロゴ クリックすると、かんたんメニューが表示されます。
-  (2) [トップ] アイコン クリックすると、かんたんメニューが表示されます。
かんたんメニューには「かんたん設定」と「かんたん操作」があります。
「かんたん設定」では、インターネットに接続するための基本設定が行えます。
「かんたん操作」では、テレホーダイの開始 / 停止などが行えます。
-  (3) [詳細設定] アイコン クリックすると、詳細設定メニューが表示されます。
詳細設定メニューには「ルータ設定」と「アナログ設定」があります。
「詳細設定」では、「かんたん設定」より詳細な情報を設定できます。
「アナログ設定」では、NetVehicleに接続したアナログ機器の設定が行えます。
-  (4) [操作] アイコン クリックすると、操作メニューが表示されます。
-  (5) [表示] アイコン クリックすると、表示メニューが表示されます。
-  (6) [メンテナンス] アイコン クリックすると、メンテナンスメニューが表示されます。
-  (7) [編集終了] アイコン クリックすると、すぐに設定操作を終了できます (ログインパスワードが設定されている場合のみ有効)。
-  (8) [製品情報] アイコン クリックすると、インターネットに接続します。富士通のNetVehicleのサポートページが表示されます。



時計を設定する

NetVehicle の設定を行う前に、必ず時計の設定を行ってください。時計を設定する方法は、以下の2種類があります。

- ・WWW ブラウザで設定する
- ・電話機を使って設定する (P.82)

ここでは、WWW ブラウザで設定する方法を説明します。操作メニューを使って、NetVehicle の内部時計の時刻を設定します。



こんな事に気をつけて

- 電源を切ると時刻情報が失われます。
 - スケジュール機能とメールチェックを使用する場合は、NetVehicle の時刻を正しく設定してください。
-


1. NetVehicle のトップページで、画面上部の [操作] アイコンをクリックします。操作メニューが表示されます。



2. 操作メニューで「時刻設定」をクリックします。

「時刻情報設定」ページが表示されます。

時刻情報設定

 電源を切断了すると時刻は初期化されます。

【時刻の設定】

パソコンから時刻を取得	パソコンの現在時刻 2002年 3月 15日 10時 48分 25秒	設定
タイムサーバから時刻を取得	サーバアドレス 設定されていません。	-
任意の時刻を設定	1970年 01月 01日 00時 00分 00秒	設定

3. 時計を設定する方法を以下の3つの中から選択します。

- パソコンから時刻を取得 WWW ブラウザを利用しているパソコンの時刻を取得する
- タイムサーバから時刻を取得 ネットワーク上のTIMEサーバまたはNTPサーバから時刻を取得する
- 任意の時刻を設定 現在の日時を入力する

4. 指定する時刻の設定方法の [設定] ボタンをクリックします。

「時刻を に設定しました。」というメッセージが表示されます。



「かんたん設定」で設定する (インターネットへISDN接続のとき)

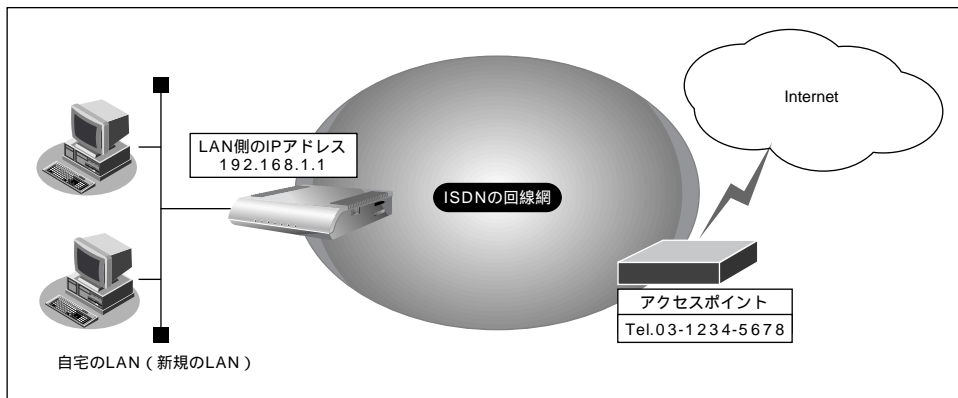
インターネットへISDN接続するときは、「かんたん設定」で[必須設定]の情報を設定するだけで接続できます。また、[オプション設定]の情報を設定すると、以下のことができます。

- ・ NetVehicle の IP アドレスと LAN 側のネットマスクを変更する
- ・ DNS サーバを設定する
- ・ 同一プロバイダのアクセスポイントを複数指定する (マルチダイヤル)
- ・ ISDN 回線を自動切断するまでの時間を変更する (無通信監視タイマ)
- ・ 回線の切断タイミングを調整する (課金単位時間)
- ・ 接続ネットワーク名と接続先名を設定する
- ・ データの転送速度を早くする (MP-Multilink PPP)
- ・ テレホーダイを手動で設定する
- ・ 無駄な通信料金を抑止する (かんたんフィルタ)



応用編 「用語集」(P.296)

ここでは、以下の条件を例に説明します。



通信条件

- 端末型ダイヤルアップ接続を行う
- 新規に LAN を構築する
- 接続先の電話番号 : 03-1234-5678
- ユーザ認証 ID : userid
- ユーザ認証パスワード : userpass



こんな事に気をつけて

文字入力フィールドには半角文字(0~9、A~Z、a~z、および記号)だけを使用してください。ただし、空白文字、「%」、「<」、「>」、「&」、「%」は入力しないでください。入力した場合、ブラウザでの設定が不可能となります。

1. **かんたん設定**でインターネットへの「ISDN 接続」をクリックします。
「かんたん設定 (インターネットへISDN 接続)」ページが表示されます。

補足 かんたんメニューは、NetVehicleのトップページで画面上部の[トップ]アイコンをクリックして表示させることができます。

2. [必須設定] で以下の項目を指定します。

- 接続先の電話番号 03-1234-5678 (プロバイダから提示された内容)
- ユーザ認証ID userid (プロバイダから提示された内容)
- ユーザ認証パスワード userpass (プロバイダから提示された内容)

[必須設定] ISDN	
接続先の電話番号	03-1234-5678
ユーザ認証ID	userid
ユーザ認証パスワード	*****

3. 必要に応じて、[オプション設定] で以下の項目を指定します。

- NetVehicle の IP アドレス 192.168.1.1 (既存の LAN につなぐときは適宜変更)
- ネットマスク 24 (既存の LAN につなぐときは適宜変更)
- DNS サーバ DNS サーバの IP アドレスが公開されていない場合、または DNS サーバアドレスの自動取得機能を利用する場合は「自動取得」を選択します。ただし、「自動取得」はプロバイダが DNS 自動取得に対応している場合のみ使用できます。
- 接続先の電話番号 2 プロバイダの他のアクセスポイントの電話番号 2
- 接続先の電話番号 3 プロバイダの他のアクセスポイントの電話番号 3

補足 「接続先の電話番号 2」、「接続先の電話番号 3」は、マルチダイヤル機能を利用する場合に設定します。

- 無通信監視タイマ 初期設定値は 60 秒。必要に応じて変更します (0 ~ 3600 秒)。

補足 0 を指定した場合、回線の自動切断は行いません。

- 課金単位時間 初期設定値は 0 秒。必要に応じて変更します (0 ~ 3600 秒)。

補足 接続先までの課金単位に合わせて指定します。なお、0 を設定した場合、課金単位の調整は行いません。例えば、接続先までの電話料金が 3 分 10 円の場合、180 秒をお勧めします。

- 接続ネットワーク名 internet (接続するネットワークの名称を半角英数字 8 文字以内で入力します。接続先を区別するための任意の名称を指定します。)
- 接続先名 ISP-1 (プロバイダの名称を半角英数字 8 文字以内で入力します。接続先を区別するための任意の名称を指定します。)
- MP 初期設定は「使用しない」。プロバイダが MP をサポートしていて、MP を使用する場合は「使用する」を選択します。
使用する (手動): 操作メニューで「手動チャネル増加」を選択した場合に MP を使用
使用する (自動): 通信量が多くなった場合に自動的に MP を使用

! **こんな事に気をつけて**
接続先のプロバイダが MP に対応していない場合は、MP では通信できません。
.....

- テレホーダイ
 初期設定は「使用しない」。テレホーダイを契約していて、テレホーダイを使用する場合は「使用する」を選択します。
 使用する(手動): 操作メニューで「テレホーダイの設定」「テレホーダイ終了」で設定した時間帯にテレホーダイを使用
 使用する(自動): 毎日夜 11:00 ~ 翌朝 8:00 の時間帯に自動的にテレホーダイを使用

補足 使用する(自動)を指定した場合、必ず装置の時刻を正しく設定してください。

- かんたんフィルタ
 初期設定は「使用する」。

補足 Windows®環境でネットワークを構成している場合は、無駄な課金が発生する可能性があるため、「かんたんフィルタ」で「使用する」を選択することをお勧めします。

[オプション設定] ISDN	
NetVehicleのIPアドレス	192 . 168 . 1 . 1
ネットマスク	24 (255.255.255.0)
DNSサーバ	<input checked="" type="checkbox"/> 自動取得
接続先の電話番号2	
接続先の電話番号3	
無通信監視タイム	60 秒
課金単位時間	0 秒
接続ネットワーク名	Internet
接続先名	ISP-1
MP	<input type="radio"/> 使用する(手動) <input type="radio"/> 使用する(自動) <input checked="" type="radio"/> 使用しない
テレホーダイ	<input type="radio"/> 使用する(手動) <input type="radio"/> 使用する(自動) <input checked="" type="radio"/> 使用しない
かんたんフィルタ	<input checked="" type="radio"/> 使用する <input type="radio"/> 使用しない

4. 設定が終了したら、[設定終了] ボタンをクリックします。 再起動後に、通信できる状態になります。

!! こんな事に気をつけて

- NetVehicleのIPアドレスを変更した場合、再起動後にNetVehicleにアクセスするためには、パソコンのIPアドレスの変更(再起動)およびURLを変更する必要があります。
- NetVehicleを接続しているLAN上に「192.168.1.1」というIPアドレスを持つパソコンがある場合は、[オプション設定]のNetVehicleのIPアドレスとして他の適切なIPアドレスを設定する必要があります。その場合は、LAN上の他のホストとIPアドレスが重複しないように注意してください。

.....

補足 設定した内容を巻末の設定メモに転記しておく、あとで確認が必要になったとき便利です。

⚠ 注意

本装置は、10BASE-Tポートに接続したパソコンからの要求によって、自動的にダイヤル発信を行い回線を接続します。そのため、お客様がご使用になられる機器、ソフトウェア、またはLANの利用条件により、不要なダイヤル発信が行われ回線が接続されてしまう場合があります。

インターネットに接続できることを確認する

設定が終わったら、インターネットに接続できるかどうかを確認します。

1. ブラウザ画面上部の [製品情報] アイコンをクリックします。



インターネットに接続できた場合は、富士通の NetVehicle のサポートページが表示されます。

補足 WWW ブラウザで以下の URL を入力して確認することもできます。
<http://telecom.fujitsu.com/jp/products/nv/>

インターネットへの接続を確認したら、NetVehicle で LAN を構築して、運用できる状態にします。

省略値について

かんたん設定時に適用される主な省略値を示します。

○ : 変更可能、× : 変更不可

項目	適用される省略値	かんたん設定での設定変更
自動ダイヤル	使用する	×
すべてのデータ通信の着信	許可しない	×
無通信監視タイマ	60秒	
課金単位時間	なし	
接続ネットワーク名	internet	
接続先名	ISP-1	
接続先のサブアドレス	なし	×
DHCPサーバ機能	使用する	
・割り当て先頭IPアドレス	NetVehicleのIPアドレス、ネットマスクから求めたネットワークアドレス+2	×
・割り当てアドレス数	32	
・DNSサーバのIPアドレス	「自動取得 (1)」指定時は、NetVehicleのIPアドレス	
NAT機能	マルチNATを使用 アドレス割り当てタイマ:5分	×
MP機能 (2)	使用しない	
テレホーダイ	使用しない	
かんたんフィルタ (3)	使用する	
ダイナミックルーティング		
・RIP送信 (LAN側)	送信しない	
・RIP受信 (LAN側)	受信しない	×
・RIP送信 (WAN側)	送信しない	
・RIP受信 (WAN側)	受信しない	
スタティックルーティング		
・LAN側	なし	×
・WAN側	デフォルトルートを設定する (メトリック値:1)	
データ圧縮	VJ-Compression : 使用する	×
課金制御	上限 3,000円	×
スケジュール	毎週金曜日 00:00 に課金情報クリア	×

1) DNS サーバの IP アドレスを「自動取得」にした場合には、ProxyDNS 情報を以下のように設定します。

[順引き情報一覧]

優先順位	ドメイン名	動 作	ネットワーク名
	タイプ 送信元IPアドレス/ マスク		
1	*	接続先のDNSサーバへ問い合わせる	internet
	すべて		
	any		

[逆引き情報一覧]

優先順位	ネットワーク アドレス	動 作	ネットワーク名
1	any	接続先のDNSサーバへ問い合わせる	internet

2) MP 機能を「使用する (自動)」にした場合には、以下のように設定します。

- ・アナログ使用時縮退 : する
- ・トラフィックによる増減 : する
- ・回線増加条件 : 回線使用率 (90%)、猶予時間 (10 秒)
- ・回線削除条件 : 回線使用率 (40%)、猶予時間 (60 秒)

3) かんたんフィルタを「使用する」にした場合には、以下のように設定します。

- ・Windows® 95/98/Me/2000、Windows NT® で Microsoft Network を使用する場合に、NetBIOS over TCP が使用する TCP および UDP のサービスポート 137 から 139 を遮断するフィルタを設定します。
- ・ping (ICMP echo) や syslog、time、SNTP で使用するプロトコルを抑止するフィルタを設定します。なお、回線が接続状態の場合にはそれぞれのパケットを通過させます。
- ・Windows® 2000 から NetVehicle を経由してインターネットへ接続する場合、Windows® 2000 が送信する予期せぬ DNS パケットにより自動発信してしまう場合があります。この問題を回避するために、ProxyDNS 情報に問い合わせタイプが SOA (6)、SRV (33) の DNS パケットを破棄するフィルタ、およびホストデータベース情報に IP アドレス「127.0.0.1」でホスト名「localhost」の情報を設定します。



「かんたん設定」で設定する（インターネットへフレッツ・ISDN 接続のとき）

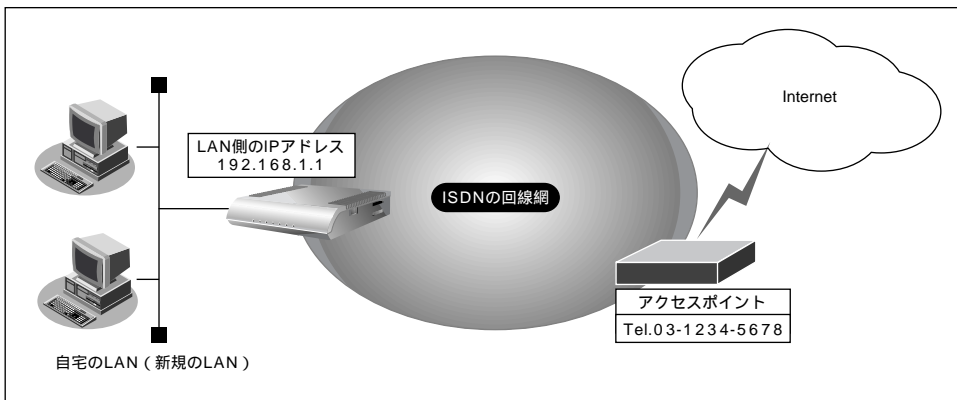
インターネットへフレッツ・ISDN 接続するときは、「かんたん設定」で[必須設定]の情報を設定するだけで接続できます。また、[オプション設定]の情報を設定すると、以下のことができます。

- ・ NetVehicle の IP アドレスと LAN 側のネットマスクを変更する
- ・ DNS サーバを設定する
- ・ ISDN 回線を自動切断するまでの時間を変更する（無通信監視タイマ）
- ・ 接続ネットワーク名と接続先名を設定する
- ・ 無駄な通信料金を抑止する（かんたんフィルタ）



参照 応用編 「用語集」(P.296)

ここでは、以下の条件を例に説明します。



通信条件

- 端末型ダイヤルアップ接続を行う
- 新規に LAN を構築する
- 接続先の電話番号 : 03-1234-5678
- ユーザ認証 ID : userid@nifty.com
- ユーザ認証パスワード : userpass



こんな事に気をつけて


- フレッツ・ISDN とは、NTT が提供するサービスです。定額料金でインターネットが使えます。フレッツ・ISDN を使用する場合は、NTT との契約とフレッツ・ISDN に対応しているプロバイダとの契約が必要です。フレッツ・ISDN では、プロバイダのアクセスポイントに接続するのではなく、お申し込み後に NTT から通知された電話番号に接続します。またユーザ認証 ID は「xxx@xxx.ne.jp」や「xxx@xxx.com」などの形式を使用しています。詳しくは、契約しているプロバイダに確認してください。
- 文字入力フィールドには半角文字（0～9、A～Z、a～z、および記号）だけを使用してください。ただし、空白文字、「」、「<」、「>」、「&」、「%」は入力しないでください。入力した場合、ブラウザでの設定が不可能となります。

1. **かんたん設定**でインターネットへの「フレッツ・ISDN 接続」をクリックします。
「かんたん設定 (インターネットへフレッツ・ISDN 接続)」ページが表示されます。

補足 かんたんメニューは、NetVehicleのトップページで画面上部の[トップ]アイコンをクリックして表示させることができます。

2. [必須設定] で以下の項目を指定します。

- 接続先の電話番号 03-1234-5678 (NTT から通知された電話番号)
- ユーザ認証ID userid@nifty.com (プロバイダから提示された内容)
- ユーザ認証パスワード userpass (プロバイダから提示された内容)

[必須設定] ISDN 

接続先の電話番号	03-1234-5678
ユーザ認証ID	userid@nifty.com
ユーザ認証パスワード	*****


3. 必要に応じて、[オプション設定] で以下の項目を指定します。

- NetVehicle の IP アドレス 192.168.1.1 (既存の LAN につなぐときは適宜変更)
- ネットマスク 24 (既存の LAN につなぐときは適宜変更)
- DNS サーバ DNS サーバの IP アドレスが公開されていない場合、または DNS サーバアドレスの自動取得機能を利用する場合は「自動取得」を選択します。ただし、「自動取得」はプロバイダが DNS 自動取得に対応している場合のみ使用できます。
- 無通信監視タイマ 初期設定値は「使用する」、時間は 300 秒。必要に応じて変更します (0 ~ 3600 秒)。

補足 0 を指定した場合、回線の自動切断は行いません。

- 接続ネットワーク名 internet (接続するネットワークの名称を半角英数字 8 文字以内で入力します。接続先を区別するための任意の名称を指定します。)
- 接続先名 ISP-1 (プロバイダの名称を半角英数字 8 文字以内で入力します。接続先を区別するための任意の名称を指定します。)
- かんたんフィルタ 初期設定は「使用する」。

補足 Windows®環境でネットワークを構成している場合は、無駄な課金が発生する可能性があるため、「かんたんフィルタ」で「使用する」を選択することをお勧めします。

[オプション設定] ISDN 

NetVehicleのIPアドレス	192 . 168 . 1 . 1
ネットマスク	24 (255.255.255.0)
DNSサーバ	<input checked="" type="checkbox"/> 自動取得 <input type="text"/> . <input type="text"/> . <input type="text"/> . <input type="text"/>
無通信監視タイマ	<input type="radio"/> 使用しない <input checked="" type="radio"/> 使用する 300 秒
接続ネットワーク名	internet
接続先名	ISP-1
かんたんフィルタ	<input checked="" type="radio"/> 使用する <input type="radio"/> 使用しない

4. 設定が終了したら、[設定終了] ボタンをクリックします。
再起動後に、通信できる状態になります。



こんな事に気をつけて

- NetVehicle の IP アドレスを変更した場合、再起動後に NetVehicle にアクセスするためには、パソコンの IP アドレスの変更（再起動）および URL を変更する必要があります。
- NetVehicle を接続している LAN 上に「192.168.1.1」という IP アドレスを持つパソコンがある場合は、[オプション設定]の NetVehicle の IP アドレスとして他の適切な IP アドレスを設定する必要があります。その場合は、LAN 上の他のホストと IP アドレスが重複しないように注意してください。



設定した内容を巻末の設定メモに転記しておく、あとで確認が必要になったとき便利です。

注意

本装置は、10BASE-Tポートに接続したパソコンからの要求によって、自動的にダイヤル発信を行い回線を接続します。そのため、お客様がご使用になられる機器、ソフトウェア、または LAN の利用条件により、不要なダイヤル発信が行われ回線が接続されてしまう場合があります。

インターネットに接続できることを確認する

設定が終わったら、インターネットに接続できるかどうかを確認します。

1. ブラウザ画面上部の [製品情報] アイコンをクリックします。



インターネットに接続できた場合は、富士通の NetVehicle のサポートページが表示されます。



WWW ブラウザで以下の URL を入力して確認することもできます。
<http://telecom.fujitsu.com/jp/products/nv/>

インターネットへの接続を確認したら、NetVehicle で LAN を構築して、運用できる状態にします。

省略値について

かんたん設定時に適用される主な省略値を示します。

：変更可能、×：変更不可

項目	適用される省略値	かんたん設定での設定変更
自動ダイヤル	使用する	×
すべてのデータ通信の着信	許可しない	×
無通信監視タイマ	300秒	
接続ネットワーク名	internet	
接続先名	ISP-1	
接続先のサブアドレス	なし	×
DHCPサーバ機能	使用する	×
・割り当て先頭IPアドレス	NetVehicleのIPアドレス、ネットマスクから求めたネットワークアドレス+2	
・割り当てアドレス数	32	
・DNSサーバのIPアドレス	「自動取得（ 1）」指定時は、NetVehicleのIPアドレス	
NAT機能	マルチNATを使用 アドレス割り当てタイマ：5分	×
かんたんフィルタ（ 2）	使用する	
ダイナミックルーティング		×
・RIP送信（LAN側）	送信しない	
・RIP受信（LAN側）	受信しない	
・RIP送信（WAN側）	送信しない	
・RIP受信（WAN側）	受信しない	
スタティックルーティング		×
・LAN側	なし	
・WAN側	デフォルトルートを設定する（メトリック値：1）	
データ圧縮	VJ-Compression：使用する	×
課金制御	なし	×
スケジュール	毎週金曜日 00:00 に課金情報クリア	×

1) DNSサーバのIPアドレスを「自動取得」にした場合には、ProxyDNS情報を以下のように設定します。

[順引き情報一覧]

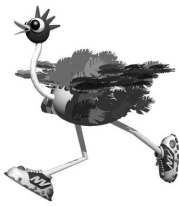
優先順位	ドメイン名	動作	ネットワーク名
	タイプ 送信元IPアドレス/ マスク		
1	*	接続先のDNSサーバへ問い合わせる	internet
	すべて		
	any		

[逆引き情報一覧]

優先順位	ネットワーク アドレス	動作	ネットワーク名
1	any	接続先のDNSサーバへ問い合わせる	internet

2) かんたんフィルタを「使用する」にした場合には、以下のように設定します。

- Windows® 95/98/Me/2000、Windows NT®でMicrosoft Networkを使用する場合に、NetBIOS over TCPが使用するTCPおよびUDPのサービスポート137から139を遮断するフィルタを設定します。
- ping (ICMP echo) や syslog、time、SNTPで使用するプロトコルを抑止するフィルタを設定します。なお、回線が接続状態の場合にはそれぞれのパケットを通過させます。
- Windows® 2000からNetVehicleを経由してインターネットへ接続する場合、Windows® 2000が送信する予期せぬDNSパケットにより自動発信してしまう場合があります。この問題を回避するために、ProxyDNS情報に問い合わせタイプがSOA(6)、SRV(33)のDNSパケットを破棄するフィルタ、およびホストデータベース情報にIPアドレス「127.0.0.1」でホスト名「localhost」の情報を設定します。

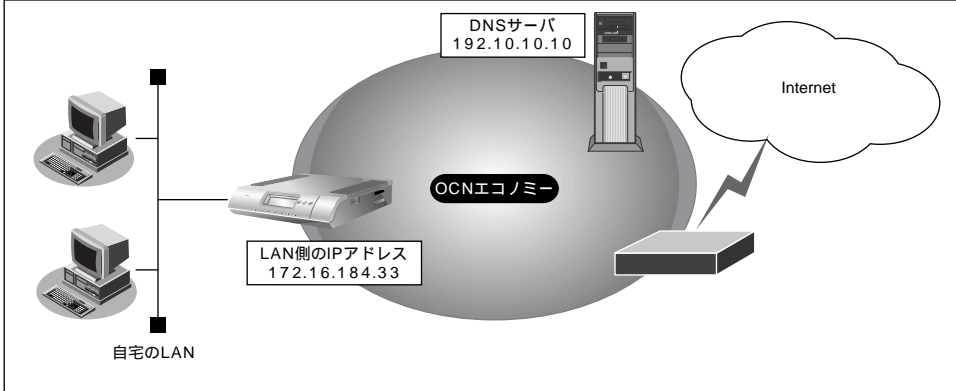


「かんたん設定」で設定する (インターネットへ専用線接続のとき)

インターネットへ専用線接続するときは、「かんたん設定」で[必須設定]の情報を設定するだけで接続できます。また、[オプション設定]の情報を設定すると、以下のことができます。

- ・接続ネットワーク名を設定する
- ・契約時に指示されたドメイン名を設定する
- ・アドレス変換を設定する

ここでは、以下の通信条件で OCN エコノミーを利用する場合を例に説明します。



通信条件

- OCN エコノミー専用線 (128Kbps) を使用する
- OCN 側の DNS サーバを使用する : 192.10.10.10
- OCN より提示されたドメイン名 : domain.ocn.ne.jp
- 新規に LAN を構築する

ネットワーク条件

- 接続するパソコンの台数は OCN より割り当てられた IP アドレスよりも少ない
- 割り当て IP アドレス
 - ネットワークアドレス : 172.16.184.32/29
 - ホストアドレス : 172.16.184.33 ~ 172.16.184.38
 - ブロードキャストアドレス : 172.16.184.39



!! こんな事に気をつけて

文字入力フィールドには半角文字 (0 ~ 9、A ~ Z、a ~ z、および記号) だけを使用してください。ただし、空白文字、「”」<」>」&」%」は入力しないでください。入力した場合、ブラウザでの設定が不可能となります。

.....

1. **かんたん設定**でインターネットへの「専用線接続」をクリックします。
「かんたん設定 (インターネットへ専用線接続)」ページが表示されます。

2. [必須設定] で以下の項目を指定します。

!! こんな事に気をつけて

NetVehicleのIPアドレスにネットワークアドレス、またはブロードキャストアドレスを指定しないでください。

- NetVehicle の IP アドレス 172.16.184.33 (割り当てられたホストアドレスの先頭)
- ネットマスク 29 (ネットマスクのビット数)
- 使用する回線速度 128Kbps
- DNS サーバ 192.10.10.10 (OCN から提示された IP アドレス)

【必須設定】			
NetVehicleのIPアドレス	172	.16	.184 .33
ネットマスク	29 (255.255.255.248)		
使用する回線速度	<input type="radio"/> 64Kbps <input checked="" type="radio"/> 128Kbps		
DNSサーバ	192	.10	.10 .10

3. 必要に応じて、[オプション設定] で以下の項目を指定します。

- 接続ネットワーク名 internet (接続するネットワークの名称を半角英数字 8 文字以内で入力します。接続先を区別するため任意の名称を指定します。)
- ドメイン名 domain.ocn.ne.jp (OCN より提示されたドメイン名)
- アドレス変換 初期値は「使用しない」。
- アドレス個数 アドレス変換で「マルチ NAT」を指定した場合は、グローバルアドレスの個数を指定します。

補足 この例のように割り当てられたIPアドレスよりも接続するパソコンの台数が同数または少ない場合、「使用しない」を選択します。割り当てられたIPアドレスより接続するパソコンの台数が多い場合は、「マルチ NAT」を選択すると、すべてのパソコンがインターネットを利用できます。その際には、「グローバルアドレス」と「アドレス個数」を設定します。

【オプション設定】	
接続ネットワーク名	internet
ドメイン名	domain.ocn.ne.jp
アドレス変換	<input checked="" type="radio"/> 使用しない
	<input type="radio"/> マルチ NAT
	グローバルアドレス <input type="text"/> . <input type="text"/> . <input type="text"/> . <input type="text"/>
アドレス個数	<input type="text"/> 個

4. 設定が終了したら、[設定終了] ボタンをクリックします。
再起動後に、通信できる状態になります。

!! こんな事に気をつけて

NetVehicleのIPアドレスを変更した場合、再起動後にNetVehicleにアクセスするためには、パソコンのIPアドレスの変更 (再起動) および URL を変更する必要があります。

補足 設定した内容を巻末の設定メモに転記しておく、あとで確認が必要になったときに便利です。



OCN エコノミーなら「マルチ NAT」機能が便利

OCN エコノミーの契約時に割り当てられた IP アドレスの個数より、パソコンの台数が多い場合は、NetVehicle の「マルチ NAT 機能」が便利です。「マルチ NAT 機能」によって、実際に割り当てられた IP アドレスの数を上回る台数の LAN 上のパソコンでインターネットを利用できるようになります。

マルチ NAT

NetVehicle では、インターネットを利用する際に、プロバイダより割り当てられた IP アドレス（グローバルアドレス）を、ネットワーク上で設定していた IP アドレス（プライベートアドレス）と対応付けることによって、従来のネットワークの設定を変更することなくインターネット接続を可能にするアドレス変換（NAT）機能をサポートしています。

NAT 機能は、プライベートアドレスとグローバルアドレスを 1 対 1 に対応付けるもので、NAT 機能を介して通信できるパソコンの台数は割り当てられる IP アドレスと同じになります。このため、プロバイダと端末型ダイヤルアップ契約の場合、一つしか IP アドレスが割り当てられないので、同時接続台数が 1 台に制限されます。

マルチ NAT は、この問題を解決するために 1 対 1 の対応付けから、多数対 1 の対応付けを実現した機能です。IP アドレスとポート番号を組み合わせた IP 情報の割り当てを行うことによって、プライベートアドレスとグローバルアドレスとを多数対 1 に対応付け、同時に複数のパソコンからの利用が可能となります。



マルチ NAT 機能の設定 応用編 「マルチ NAT 機能（アドレス変換機能）を使う」（P.98）

インターネットに接続できることを確認する

設定が終わったら、インターネットに接続できるかどうかを確認します。

1. ブラウザ画面上部の [製品情報] アイコンをクリックします。



インターネットに接続できた場合は、富士通の NetVehicle のサポートページが表示されます。



WWW ブラウザで以下の URL を入力して確認することもできます。
<http://telecom.fujitsu.com/jp/products/nv/>

インターネットへの接続を確認したら、NetVehicle で LAN を構築して、運用できる状態にします。

省略値について

かんたん設定時に適用される主な省略値を示します。

: 変更可能、x : 変更不可

項目	適用される省略値	かんたん設定での設定変更
ブロードキャストアドレス	ネットワークアドレス + オール1	x
接続ネットワーク名	internet	
DHCPサーバ機能	使用する	x
・割り当て先頭IPアドレス	NetVehicleのIPアドレス、ネットマスクから求めたネットワークアドレス+2	
・割り当てアドレス数	32	
NAT機能	使用しない (1)	
かんたんフィルタ	使用しない	x
ダイナミックルーティング		
・RIP送信 (LAN側)	送信しない	
・RIP受信 (LAN側)	受信しない	x
・RIP送信 (WAN側)	送信しない	
・RIP受信 (WAN側)	受信しない	
スタティックルーティング		
・LAN側	なし	x
・WAN側	デフォルトルートを設定する (メトリック値 : 1)	
データ圧縮	VJ-Compression : 使用する	x

- 1) マルチ NAT 使用時のアドレス割り当てタイマは 5 分を設定します。



「かんたん設定」で設定する (オフィスへISDN接続のとき)

事業所 LAN どうしを ISDN で接続するときは、「かんたん設定」で [必須設定] の情報を設定するだけで接続できます。また、[オプション設定] の情報を設定すると、以下のことができます。

- ・ DHCP サーバ機能を設定する
- ・ ISDN 回線を自動切断するまでの時間を変更する (無通信監視タイマ)
- ・ 回線の切断タイミングを調整する (課金単位時間)
- ・ 接続ネットワーク名と接続先名を設定する
- ・ データの転送速度を早くする (MP-Multilink PPP)
- ・ 送受信するデータの圧縮を行う

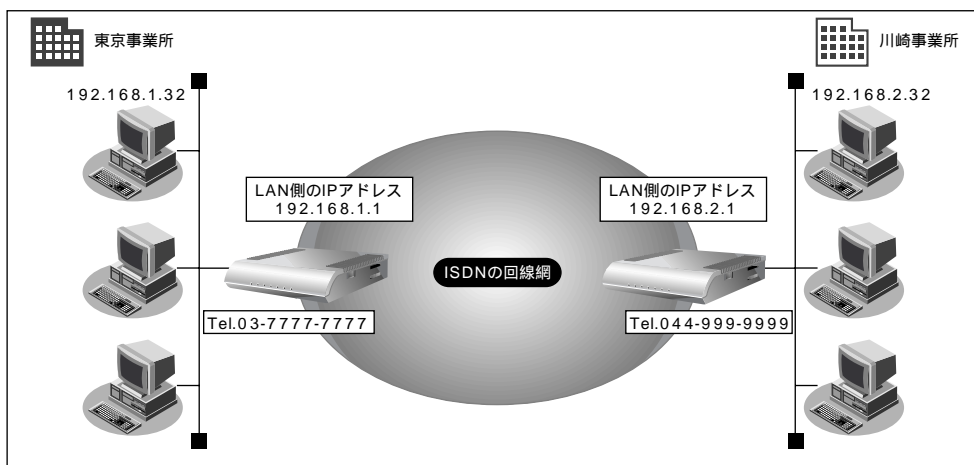


応用編 「用語集」(P.296)

ここでは、ISDN 回線を介して 2 つの事業所 (事業所 A : 東京、事業所 B : 川崎) のネットワークを接続する場合を例に説明します。



「詳細設定」で設定する場合や基幹ネットワーク (大規模ネットワーク) に接続する場合は、応用編の「事業所 LAN どうしを ISDN で接続する」(P.74) を参照してください。



通信条件

■ ユーザ認証 ID とユーザ認証パスワード

- (東京事業所) 発信 tokyo、tokyopass
着信 kawasaki、kawapass
- (川崎事業所) 発信 kawasaki、kawapass
着信 tokyo、tokyopass

■ 電話番号

- 東京事業所 : 03-7777-7777
- 川崎事業所 : 044-999-9999

■ NetVehicle の LAN 側のネットワークアドレス / ネットマスク

- 東京事業所 : 192.168.1.0/24 (NetVehicle の IP アドレス : 192.168.1.1)
- 川崎事業所 : 192.168.2.0/24 (NetVehicle の IP アドレス : 192.168.2.1)

■ DHCP サーバ機能は使用しない

3. [オプション設定] で以下の項目を指定します。

- DHCP サーバ機能 使用しない
- 接続ネットワーク名 kaisya(接続するネットワークの名称を半角英数字8文字以内で入力します。接続先を区別するため任意の名称を指定します。)
- 接続先名 kawasaki(接続先の名称を半角英数字 8 文字以内で入力します。接続先を区別するための任意の名称を指定します。)

[オプション設定] ISDN	
DHCPサーバ機能	<input checked="" type="radio"/> 使用しない <input type="radio"/> 使用する DNSサーバ広報 <input type="text"/> <input type="text"/> <input type="text"/> <input type="text"/>
無通信監視タイム	<input type="text"/> 60 秒
課金単位時間	<input type="text"/> 0 秒
接続ネットワーク名	<input type="text"/> kaisya
接続先名	<input type="text"/> kawasaki
MP	<input type="radio"/> 使用する(手動) <input type="radio"/> 使用する(自動) <input checked="" type="radio"/> 使用しない
データ圧縮	<input checked="" type="checkbox"/> VJ

4. 設定が終了したら、[設定終了] ボタンをクリックします。

再起動後に、通信できる状態になります。

事業所 B の NetVehicle を設定する

「事業所 A の NetVehicle を設定する」を参考に、事業所 B の NetVehicle を設定します。その際、特に指定のないものは、事業所 A と同じ設定にします。

補足 設定が終わったら、[設定終了] ボタンをクリックします。

[必須設定]

- 接続先の電話番号 03-7777-7777
- ユーザ認証 ID (発信) kawasaki
- ユーザ認証パスワード (発信) kawapass
- ユーザ認証 ID (着信) tokyo
- ユーザ認証パスワード (着信) tokyopass
- NetVehicle の IP アドレス 192.168.2.1 (NetVehicle の LAN 側の IP アドレス)
- NetVehicle のネットマスク 24
- 相手ルータの IP アドレス 192.168.1.1(接続先となる NetVehicle のネットワークアドレス)
- 相手ルータのネットマスク 24 (接続先となる NetVehicle のネットマスク)

[オプション設定]

- 接続ネットワーク名 kaisya (接続するネットワークの名称)
- 接続先名 tokyo

補足 設定した内容を巻末の設定メモに転記しておく、あとで確認が必要になったときに便利です。

通信する

WWWブラウザや電子メールソフトなどの通信用アプリケーションを起動しておきます。通信が必要な状態になると、NetVehicleが自動的に回線を接続します。

⚠注意

本装置は、10BASE-Tポートに接続したパソコンからの要求によって、自動的にダイヤル発信を行い回線を接続します。そのため、お客様がご使用になられる機器、ソフトウェア、またはLANの利用条件により、不要なダイヤル発信が行われ回線が接続されてしまう場合があります。NetVehicleの表示メニューで、課金情報を定期的にチェックしてください。

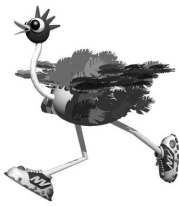
ⓧ補足 「かんたん設定」で設定した初期設定の状態では、約60秒間データの送受信が行われない場合、自動的に回線を切断します。

省略値について

かんたん設定時に適用される主な省略値を示します。

: 変更可能、x : 変更不可

項目	適用される省略値	かんたん設定での設定変更
自動ダイヤル	使用する	x
サブアドレス	なし	x
不特定相手着信	許可しない	x
無通信監視タイマ	60秒	
課金単位時間	なし	
接続ネットワーク名	localnet	
接続先名	OFFICE-1	
該当接続先への着信許可	許可する	x
DHCPサーバ機能	使用する	
・割り当て先頭IPアドレス	NetVehicleのIPアドレス、ネットマスクから求めたネットワークアドレス+2	
・割り当てアドレス数	32	
NAT機能	使用しない	x
MP機能	使用しない	
かんたんフィルタ	使用しない	x
ダイナミックルーティング		
・RIP送(LAN側)	送信しない	
・RIP受(LAN側)	受信しない	
・RIP送(WAN側)	送信しない	
・RIP受(WAN側)	受信しない	x
スタティックルーティング		
・LAN側	なし	x
・WAN側	相手ルータのIPアドレス、ネットマスクを元にスタティックルートを設定する	
データ圧縮	VJ-Compression : 使用する	
課金制御	上限 3,000円	x
スケジュール	毎週金曜日 00:00 に課金情報クリア	x



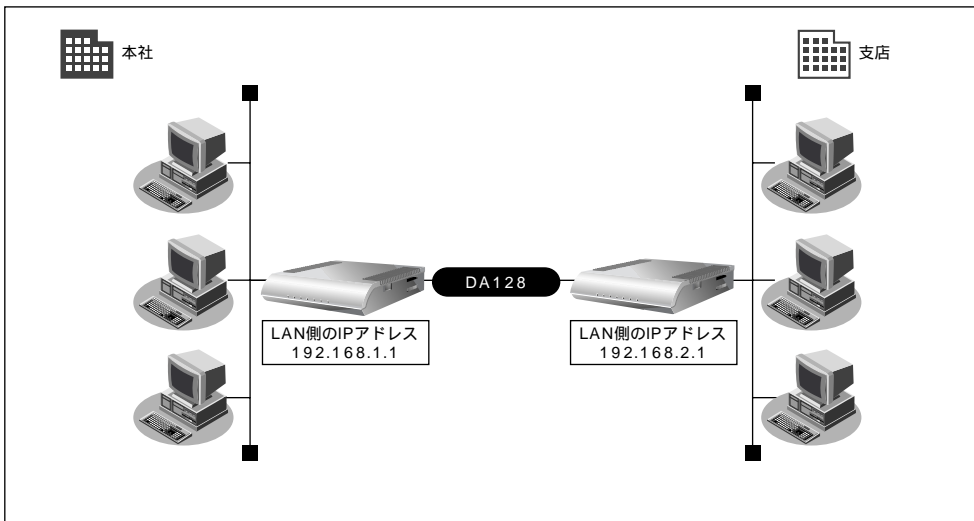
「かんたん設定」で設定する (オフィスへ専用線接続のとき)

事業所 LAN どうしを専用線で接続するときは、「かんたん設定」で[必須設定]の情報を設定するだけで接続できます。また、[オプション設定]の情報を設定すると、以下のことができます。

- ・接続ネットワーク名を設定する
- ・DHCP サーバ機能を設定する
- ・送受信するデータの圧縮を行う

ここでは、専用線 (HSD128Kbps) を介して2つの事業所 (本社、支店) のネットワークを接続する場合を例に説明します。

補足 「詳細設定」で設定する場合や基幹ネットワーク (大規模ネットワーク) に接続する場合は、応用編の「事業所 LAN どうしを専用線で接続する」(P.88) を参照してください。



通信条件

本社

- 専用線 (128Kbps) を使用する
- DHCP サーバ機能は使用しない
- アドレス変換は使用しない
- LAN 側のネットワークアドレス / ネットマスク : 192.168.1.0/24
- NetVehicle の IP アドレス : 192.168.1.1

支店

- LAN 側のネットワークアドレス / ネットマスク : 192.168.2.0/24
- NetVehicle の IP アドレス : 192.168.2.1

!! こんな事に気をつけて

文字入力フィールドには半角文字 (0 ~ 9, A ~ Z, a ~ z, および記号) だけを使用してください。ただし、空白文字、「 ” 」 「 < 」 「 > 」 「 & 」 「 % 」 は入力しないでください。入力した場合、ブラウザでの設定が不可能となります。

.....

本社の NetVehicle を設定する

1. **かんたん設定**でオフィスへの「専用線接続」をクリックします。
「かんたん設定（オフィスへ専用線接続）」ページが表示されます。

2. [必須設定] で以下の項目を指定します。

- NetVehicle の IP アドレス 192.168.1.1 (NetVehicle の LAN 側の IP アドレス)
- NetVehicle のネットマスク 24
- 相手ルータの IP アドレス 192.168.2.1 (接続先となる NetVehicle の IP アドレス)
- 相手ルータのネットマスク 24 (接続先となる NetVehicle のネットマスク)
- 使用する回線速度 128Kbps

【必須設定】	
NetVehicleのIPアドレス	192 .168 .1 .1
NetVehicleのネットマスク	24 (255.255.255.0)
相手ルータのIPアドレス	192 .168 .2 .1
相手ルータのネットマスク	24 (255.255.255.0)
使用する回線速度	<input type="radio"/> 64Kbps <input checked="" type="radio"/> 128Kbps

3. [オプション設定] で以下の項目を指定します。

- 接続ネットワーク名 kaisya (接続するネットワークの名称を半角英数字 8 文字以内で入力します。接続先を区別するため任意の名称を指定します。)
- DHCP サーバ機能 使用しない

【オプション設定】	
接続ネットワーク名	kaisya
DHCPサーバ機能	<input checked="" type="radio"/> 使用しない <input type="radio"/> 使用する DNSサーバ広報 <input type="text"/> <input type="text"/> <input type="text"/> <input type="text"/>
データ圧縮	<input checked="" type="checkbox"/> VJ

4. 設定が終了したら、[設定終了] ボタンをクリックします。
再起動後に、通信できる状態になります。

支店の NetVehicle を設定する

「本社の NetVehicle を設定する」を参考に、支店の NetVehicle を設定します。その際、特に指定のないものは、本社と同じ設定にします。

補足 設定が終わったら、[設定終了] ボタンをクリックします。

[必須設定]

- NetVehicle の IP アドレス 192.168.2.1 (NetVehicle の LAN 側の IP アドレス)
- NetVehicle のネットマスク 24
- 相手ルータの IP アドレス 192.168.1.1 (接続先となる NetVehicle の IP アドレス)
- 相手ルータのネットマスク 24 (接続先となる NetVehicle のネットマスク)
- 使用する回線速度 128Kbps

[オプション設定]

- 接続ネットワーク名 kaisya (接続するネットワークの名称)
- DHCP サーバ機能 使用しない

補足 設定した内容を巻末の設定メモに転記しておく、あとで確認が必要になったときに便利です。

省略値について

かんたん設定時に適用される主な省略値を示します。

: 変更可能、× : 変更不可

項目	適用される省略値	かんたん設定での設定変更
接続ネットワーク名	localnet	
DHCPサーバ機能	使用する	
・割り当て先頭アドレス	NetVehicleのIPアドレス、ネットマスクから求めたネットワークアドレス+2	
・割り当てアドレス数	32	
NAT機能	使用しない	×
かんたんフィルタ	使用しない	×
ダイナミックルーティング		
・RIP送信(LAN側)	送信しない	
・RIP受信(LAN側)	受信しない	
・RIP送信(WAN側)	送信しない	×
・RIP受信(WAN側)	受信しない	
スタティックルーティング		
・LAN側	なし	×
・WAN側	相手ルータのIPアドレス、ネットマスクを元にスタティックルートを設定する	
データ圧縮	VJ-Compression : 使用する	



「かんたん設定」で設定する (アナログ設定)

「かんたん設定」の「アナログ設定」では、NetVehicleのアナログポートに接続する接続機器の設定、およびナンバー・ディスプレイの使用の有無を設定できます。

ここでは、以下の条件を設定する場合を例に説明します。

- ・アナログポート 1 には、電話を接続する
- ・アナログポート 1 に接続した電話ではナンバー・ディスプレイを使用する
- ・アナログポート 2 には、なにも接続しない



電話以外のアナログ機器を接続する場合は、詳細設定で設定してください。

1.

かんたんメニューで「アナログ設定」をクリックします。

「かんたん設定 (アナログポート)」ページが表示されます。

2.

以下の項目を指定します。

- アナログポート 1 (接続機器)
電話
- アナログポート 1 (ナンバー・ディスプレイ)
使用する
- アナログポート 2 (接続機器)
なし

アナログポート1	接続機器	<input checked="" type="radio"/> 電話 <input type="radio"/> なし
	ナンバー・ディスプレイ	<input checked="" type="radio"/> 使用する <input type="radio"/> 使用しない
アナログポート2	接続機器	<input type="radio"/> 電話 <input checked="" type="radio"/> なし
	ナンバー・ディスプレイ	<input type="radio"/> 使用する <input checked="" type="radio"/> 使用しない

3.

[設定終了] ボタンをクリックします。

設定した内容が有効になります。



こんな事に気をつけて

- 「INS ナンバー・ディスプレイ」はNTT が提供するサービスです。利用の際はNTT との契約が必要です。
- アナログポートに接続したアナログ機器に発信者番号を表示させるには、本装置のアナログポートにナンバー・ディスプレイ対応のアナログ機器を接続し、アナログ機器のナンバー・ディスプレイ機能を「使用する」に設定する必要があります。
- アナログポート 2 に機器を接続しない場合は、必ず「接続機器」に「なし」を指定してください。ご購入時の状態では、アナログポート 1、2 共に「接続機器」は「電話」となっています。この場合、アナログポート 1 に接続された電話で通話中に電話がかかってくると、相手の方は呼び出し中のままとります。
- ナンバー・ディスプレイ対応のアナログ機器の機種によっては、発信者番号が正常に表示されない場合があります。
- 詳細設定後にかんたん設定 (アナログ設定) を行くと、詳細設定のアナログポート 1/2 情報で指定した「接続機器」と「通信前情報通知」の設定は無効となります。



電話機を使って設定する

NetVehicle のアナログポート (ポート 1、ポート 2) に接続したアナログ機器から設定できる項目を以下に示します。

- ・時計の設定
- ・IP アドレスの設定
- ・アナログ機能の設定
 - スタンバイモードの設定
 - 着信転送の設定
 - アナログポートの接続機器の設定
 - ナンバー・ディスプレイの設定
 - i・ナンバーの設定
 - 鳴り分け番号の動作モードの設定
- ・着信転送先の設定
- ・TEL メールの設定
- ・メールチェックの実行
- ・メール着信の消去
- ・留守状態の設定
- ・留守モードの設定



こんな事に気をつけて

データ通信中に電話機を利用して設定を変更するとデータ通信が切断されます。
ただし、「時計の設定」、「メールチェックの実行」、「メール着信の消去」の場合は切断されません。

.....

時計を設定する

電話機を使って NetVehicle の内部時計を設定する方法を説明します。時計の設定方法は、他にも WWW ブラウザで設定する方法があります。

1. 受話器を上げ、ツーンという音が聞こえることを確認します。
2. ***0*820+*** 日付 + 時刻 (yymmddHHMMSS) をダイヤルします。
例) 時刻を 1999 年 10 月 21 日午後 2 時 30 分 00 秒に設定する場合
***0*820*991021143000** をダイヤルします
 - yy 西暦の下 2 桁を指定します。00 ~ 36 の場合は西暦 2000 年以降とみなします。
 - mm 月を 01 ~ 12 までの数字で指定します。
 - dd 日付を 01 ~ 31 までの数字で指定します。
 - HH 時間を 00 ~ 23 までの数字で指定します。
 - MM 分を 00 ~ 59 までの数字で指定します。
 - SS 秒を 00 ~ 59 までの数字で指定します。
3. ピピットという音が 2 回とビジートーン (プープープーという話中の音) が聞こえます。



正常に設定できなかった場合は、ビジートーン (プープープーという話中の音) だけが聞こえます。

4. 受話器を置きます。

IP アドレスを設定する

NetVehicleのアナログポート（ポート1、ポート2）に接続したアナログ機器からIPアドレスの設定を行います。

!! こんな事に気をつけて

- NetVehicleのIPアドレスの変更を行うとLAN間通信やISDNでのデータ通信ができなくなる場合があります。
- DHCPサーバ機能を利用する場合には、WWWブラウザから設定を変更してください。
- DHCPサーバ機能を利用している場合は、NetVehicleのIPアドレスの変更は行わないようにしてください。IPアドレスを変更すると、DHCPサーバ機能は利用できません。

1. 受話器を上げ、ツーンという音が聞こえることを確認します。

2. *0*810 + * IPアドレス + ネットマスク + ブロードキャストアドレスをダイヤルします。

IPアドレス、ネットマスク、ブロードキャストアドレスの数字の区切りに*を使います。ブロードキャストアドレスは、指定するブロードキャストアドレスに対応する数値を以下の表から選択します。

選択値	ブロードキャストアドレスの設定
0	0.0.0.0
1	255.255.255.255
2	IPアドレス/ネットマスクから求められるネットワークアドレス+オール0
3	IPアドレス/ネットマスクから求められるネットワークアドレス+オール1

例) IPアドレスを「192.168.2.1」、ネットマスクを「24」、ブロードキャストアドレスを「3(ネットワークアドレス+オール1)」に設定する場合

*0*810*192*168*2*1*24*3をダイヤルします。

3. ピピッという音が2回とビジートーン（ブーブーブーという話中の音）が聞こえます。

補足 正常に設定できなかった場合は、ビジートーン（ブーブーブーという話中の音）だけが聞こえます。

4. 受話器を置きます。



ブロードキャストアドレス

ブロードキャストとは、LANに接続するすべての端末に同報発信することで、無駄なトラフィックを軽減させるために使用します。例えば、ネットワーク全体に同じデータを同時に送信する場合、送り先の端末分のパケットを送信する必要がありますが、ブロードキャストアドレスを指定するとパケットを1個送信するだけでネットワーク全体に送信することが可能です。ブロードキャストには、あて先アドレスとして特定のアドレスを使います。接続するネットワークがどのアドレスをブロードキャストとして運用しているかによって、ブロードキャストアドレスの設定を切り替える必要があります。

アナログ機能を設定する

アナログポートに接続したアナログ機器から、以下のアナログ機能の設定を行えます。

- スタンバイモードの設定（通常モード / スタンバイモード）
- 着信転送の設定（しない / する / 疑似着信転送）
- 接続機器の設定（なし / 電話 / モデム / FAX / FAX（無鳴動強制着信 / 無鳴動識別着信 / キャッチホン着信））
- ナンバー・ディスプレイの設定（使用しない / 使用する（モード1） / 使用する（モード2））
- i・ナンバーの設定（使用する / 使用しない）
- 鳴り分け番号の動作モードの設定（ポート1のみ着信 / ポート2のみ着信 / 両ポート着信 / 着信拒否）

1. 受話器を上げ、ツーンという音が聞こえることを確認します。

2. ダイヤル操作で設定を変更します。

✳️0✳️に続けて操作番号をダイヤルします。

機能		操作番号
スタンバイモード	通常モード	8001
	スタンバイモード	8002
着信転送	しない	6001
	する	6002
	疑似着信転送	6003
接続機器の設定	なし	40P1
	電話	40P2
	モデム	40P3
	FAX	40P4
	FAX（無鳴動強制着信）	40P5
	FAX（無鳴動識別着信）	40P6
	FAX（キャッチホン着信）	40P7
ナンバー・ディスプレイ	使用しない	41P1
	使用する（モード1）	41P2
	使用する（モード2）	41P3
i・ナンバーの設定	使用しない	2201
	使用する	2202
鳴り分け番号の動作モード	ポート1のみ着信	22i1
	ポート2のみ着信	22i2
	両ポート着信	22i3
	着信拒否	22i4

Pには、設定を変更するアナログポートのポート番号（1または2）を入れます。

iには、鳴り分け番号1～3の番号（1、2または3）を入れます。

例) ポート2の接続機器を「なし」にする場合

✳️0✳️4021をダイヤルします。

3. ピピッという音とビジートーン（プープープーという話中の音）が聞こえます。

- 補足** ピピッという音の鳴る回数は設定した機能によって異なります（操作で入力した最後の数字の回数です）。
例）「接続機器」の設定を「なし」に設定した場合、ピピッ（1回）プープープー
正常に設定できなかった場合は、ビジートーン（プープープーという話中の音）だけが聞こえます。

4. 受話器を置きます。

着信転送先の設定を行う

アナログポートに接続したアナログ機器から、着信転送および疑似着信転送の転送先の設定を行えます。



応用編 「着信転送の設定を行う」(P.210)、「疑似着信転送を使う」(P.204)

1. 受話器を上げ、ツーという音が聞こえることを確認します。

2. ダイヤル操作で設定を変更します。

0に続けて操作番号 + 転送先電話番号をダイヤルします。

機能	操作番号
契約者回線番号の転送先	610
ポート1のダイヤルインの転送先	611
ポート2のダイヤルインの転送先	612
鳴り分け番号1の転送先	613
鳴り分け番号2の転送先	614
鳴り分け番号3の転送先	615

例) 契約者回線番号を「03-1111-2222」に着信転送する設定を行う場合

***0*6100311112222** をダイヤルします。

3. ピピッという音とビジートーン（プープープーという話中の音）が聞こえます。

補足 ピピッという音の鳴る回数は設定した機能によって異なります。

- ・契約者回線番号の転送先を設定した場合 : 1回
- ・ポート1のダイヤルイン番号の転送先を設定した場合 : 2回
- ・ポート2のダイヤルイン番号の転送先を設定した場合 : 3回
- ・鳴り分け番号1の転送先を設定した場合 : 4回
- ・鳴り分け番号2の転送先を設定した場合 : 5回
- ・鳴り分け番号3の転送先を設定した場合 : 6回

正常に設定できなかった場合は、ビジートーン（プープープーという話中の音）だけが聞こえます。

4. 受話器を置きます。

TELメールの設定を行う

アナログポートに接続したアナログ機器から、TELメールの設定を行えます。



応用編「TELメール機能」(P.180)

1. 受話器を上げ、ツーンという音が聞こえることを確認します。
2. ダイヤル操作で設定を変更します。

＊0＊に続けて操作番号をダイヤルします。

機能		操作番号
TELメール機能の設定	使用しない	2101
	使用する	2102

3. ピピッという音とビジートーン（プープープーという話中の音）が聞こえます。



ピピッという音の鳴る回数は設定した機能によって異なります（操作で入力した最後の数字の回数です）。正常に設定できなかった場合は、ビジートーン（プープープーという話中の音）だけが聞こえます。

4. 受話器を置きます。

メールチェックを実行する

アナログポートに接続したアナログ機器から、メールチェックを実行できます。



応用編「メールチェック機能」(P.170)

1. 受話器を上げ、ツーンという音が聞こえることを確認します。
2. **＊0＊8300**をダイヤルします。
3. ピピッという音が2回とビジートーン（プープープーという話中の音）が聞こえます。



正常に設定できなかった場合は、ビジートーン（プープープーという話中の音）だけが聞こえます。

4. 受話器を置きます。

メール着信を消去する

アナログポートに接続したアナログ機器から、メール着信を消去できます。

1. 受話器を上げ、ツーンという音が聞こえることを確認します。
2. ***0*8500**をダイヤルします。
3. ピピットという音が2回とビジートーン（ブーブーブーという話中の音）が聞こえます。
 (補足) 正常に設定できなかった場合は、ビジートーン（ブーブーブーという話中の音）だけが聞こえます。
4. 受話器を置きます。

留守状態の設定を行う

アナログポートに接続したアナログ機器から、留守確認機能の留守状態の設定を行えます。

 応用編「留守状態を確認する（無課金）」(P.251)

1. 受話器を上げ、ツーンという音が聞こえることを確認します。
2. ダイヤル操作で設定を変更します。
0に続けて操作番号をダイヤルします。

機能		操作番号
留守状態の設定	在宅	2001
	留守	2002

3. ピピットという音とビジートーン（ブーブーブーという話中の音）が聞こえます。
 (補足) ピピットという音の鳴る回数は設定した機能によって異なります（操作で入力した最後の数字の回数です）。正常に設定できなかった場合は、ビジートーン（ブーブーブーという話中の音）だけが聞こえます。
4. 受話器を置きます。

留守モードの設定を行う

アナログポートに接続したアナログ機器から、留守モードの設定を行えます。



応用編「留守モードの動作を設定する」(P.187)

1. 受話器を上げ、ツーンという音が聞こえることを確認します。
2. ダイヤル操作で設定を変更します。

※0※に続けて操作番号をダイヤルします。

機能		操作番号
留守モードの設定	解除	8401
	実行	8402

3. ピピッという音とビジートーン（プープープーという話中の音）が聞こえます。



ピピッという音の鳴る回数は設定した機能によって異なります（操作で入力した最後の数字の回数です）。
正常に設定できなかった場合は、ビジートーン（プープープーという話中の音）だけが聞こえます。

4. 受話器を置きます。



利用料金に関するご注意

この章では、
NetVehicleをご使用になっている際、ISDN回線の回線料金が必要以上に課金されている場合の原因調査方法と対処方法について説明します。

回線料金がおかしいと思ったら	90
超過課金の見分け方	90
超過課金が発生した原因を調べる	90
課金情報を確認する	94



回線料金がおかしいと思ったら

超過課金の見分け方

超過課金とは、利用者が意図しない回線接続や回線使用が長期的に続き、その結果として必要以上の回線料金が課金されることを言います。これは異常課金と呼ぶこともあります。

この超過課金が発生する原因は2つあります。

- (1) 回線未接続状態でLANに接続したパソコンなどから利用者の意図しないデータが回線に流れ、その結果回線が接続することが頻発する場合。
- (2) 回線を接続したあとにLANに接続されたパソコンなどから利用者の意図しないデータが定期的に発信され、回線が長時間接続されたままの状態になる場合。

超過課金が発生しているかどうかは、課金状況と利用状況とを照らし合わせることで分かります。この課金情報で表示されている回線接続していた時間が利用時間よりも極端に長い場合には、超過課金が発生している可能性があります。



「課金情報を確認する」(P.94)

超過課金が発生した原因を調べる

ここでは、超過課金が発生する代表的な事例をあげ、それぞれその調査方法と対処方法について説明します。

WAN 側に RIP パケットが流れている場合

【現象】

LAN 側のパソコンの通信が終了したにもかかわらず、長時間回線が自動切断されない。

【原因】

WAN 側接続相手 (例えばプロバイダのルータ) がダイナミックルーティングを使用し、NetVehicle に経路情報 (RIP パケット) を送信してくる場合に、通信がないにもかかわらず回線が接続されたままになることがあります。

【調査方法】


- まず LAN 側端末が回線を使用した通信を行っていないことを確認します。
- もしもパソコンが通信をしているかが判断できない場合には、それらのパソコンを電源 OFF します。
- この状態で NetVehicle の表示ランプを監視します。ここで B1 または B2 ランプが一定間隔 (通常は 30 秒ごと) で点滅していた場合には、経路情報などの何らかのデータが接続相手から送られてきていることとなります。
- さらに上記ランプが点滅する度に IP 統計情報を確認します。表示された IP 統計情報の中の udp XXX datagrams received の部分の数字が確認する度に増加していれば原因は経路情報 (RIP) 受信によるものと考えられます。


【対処方法】

IP フィルタリング機能を使って経路情報 (RIP) を破棄するように以下の項目を設定してください。

- | | |
|-------------------|----------|
| ■ 動作 | 遮断 |
| ■ プロトコル | udp |
| ■ 送信元情報 (IP アドレス) | なにも設定しない |
| ■ 送信元情報 (アドレスマスク) | なにも設定しない |
| ■ 送信元情報 (ポート番号) | なにも設定しない |
| ■ 宛先情報 (IP アドレス) | なにも設定しない |
| ■ 宛先情報 (アドレスマスク) | なにも設定しない |
| ■ 宛先情報 (ポート番号) | 520 |
| ■ TCP 接続要求 | 対象外 |

これにより、接続相手から経路情報（RIP）が送出されてきても無通信監視時間（初期設定値は60秒）を経過すると回線は自動的に切断されるようになります。

 上記原因以外にもNetVehicleの設定でWAN側にダイナミックルーティング機能を使用する設定になっていることが原因である場合も考えられます。これは、「ルータ設定」-「相手情報」-「ネットワーク情報」-「ダイナミックルーティング」の設定で、RIP送信の項目が「送信しない」になっていることを確認してください。

 IPフィルタリング機能の設定 応用編 「IPフィルタリング機能を使う」(P.106)
IP統計情報の確認 応用編 「IP統計情報を見る」(P.262)

パソコンからの自動送信パケット

【現象】

LAN側のパソコンなどからの通信がないにもかかわらず、いつのまにかNetVehicleからの発信により回線接続してしまう。

【原因】

Windows® 95/98/Me/2000/WindowsNT®のパソコンは、利用者の意図とは無関係に（利用者が通信している意識がないにもかかわらず）自動的にパケットを回線側に送出してしまう場合があります。

【調査方法】

- 利用者が通信していないこと（WWWブラウザや電子メールなど使用していないこと）を確認します。
- この状態で回線の発信が起きている場合には、表示メニューの回線ログを参照して発信の契機となった事象を確認します。
- 「発信ログ IPパケットの転送が発生しました。」の場合には、パソコンが回線側にパケットを送信しています。【対処方法1】
- 「発信ログ DNS要求が発生しました。」の場合には、パソコンがNetVehicleのProxyDNS機能を利用しようとしてDNS要求を送信しています。【対処方法2】

【対処方法1】

IPフィルタリング機能を使ってNetBIOS over TCPの情報を回線側に流さないように設定します。

 IPフィルタリング機能の設定 応用編 「IPフィルタリング機能を使う」(P.106)

【対処方法2】


URLフィルタ機能を使ってWindowsのワークグループ名のアクセスを禁止します。この場合にはアクセスを禁止するドメイン名に「<ワークグループ名>*」を指定してください。

 URLフィルタ機能の設定 応用編 「特定のURLへのアクセスを禁止する（URLフィルタ機能）」(P.164)

【対処方法3】

パソコンが送信するDNSパケットの問い合わせタイプ（QTYPE）がA（1）、PTR（12）以外の場合、DNS問い合わせタイプフィルタ機能を使って、特定の問い合わせタイプのパケットを破棄することができます。DNSパケットの問い合わせタイプ（QTYPE）は、NetVehicleのシステムログ情報に以下の情報が記録されていることから確認できます。

「proxyns : QNAME [<QTYPE>]:<QNAME> from <IPアドレス> to <ネットワーク名>」

 DNS問い合わせタイプフィルタの設定 応用編 「DNS問い合わせタイプフィルタ機能」(P.131)

デフォルトルートどうして接続している場合

【現象】

パソコン上のアプリケーション（WWWブラウザや電子メールなど）が異常終了し、数分から数十分間回線が接続されたままになる。

【原因】

自側および相手側 NetVehicle の両方でデフォルトルートの設定がされていることが原因です。

【調査方法】

両者のデフォルトルートの設定内容を確認してください。

【対処方法】

どちらかの NetVehicle の設定からデフォルトルートの設定を外してください。



デフォルトルートの設定 応用編 「事業所 LAN どうしを ISDN で接続する」(P.73)

テレホーダイ機能の設定を誤った場合

【現象】

パソコンなど LAN 側端末の通信が終了したにもかかわらず、長時間回線が自動切断されない。

【原因】

テレホーダイ機能の設定ミスによるものです。

【調査方法】

- 表示ランプの B1 または B2 ランプを監視してください。このランプが点滅せずに、緑色の点灯状態が続いていることを確認します。これはデータの送受信がなく、また電話などアナログ機器による通信もないのに回線が接続され続けている状態であることを意味します。
- 無通信監視タイマの設定に誤りがないかを確認してください。これは、「かんたん設定」 - 「オプション設定」 - 「無通信監視タイマ」で確認できます。この無通信監視タイマが 0 や極端に大きな値になっていないことを確かめてください。

【対処方法】

テレホーダイの時間帯を正しく設定し直します。



テレホーダイの時間帯の設定 応用編 「テレホーダイ機能を使う」(P.257)

スケジュール機能の設定を誤った場合

【現象】

スケジュール機能にてテレホーダイ時間帯以外は発信抑止しているにもかかわらず、発信してしまう。

【原因】

スケジュール機能の設定誤りが原因です。

【調査方法】

- スケジュール機能の設定を確認してください。ここで予約時刻、終了時刻が正しく設定されているかを確かめてください。
- さらに内部時計の時刻設定も確認します。

【対処方法】

- 上記スケジュール機能および内部時計の時刻設定をそれぞれ正しく設定し直してください。



応用編 「スケジュール機能を使う」(P.184)、「時計を設定する」(P.58, P.82)

LAN 側のパソコンを移設した場合

【現象】

他の LAN に接続してあったパソコンなどを NetVehicle の LAN に移設したら、頻繁に回線発信が行われるようになった。または回線が切断されなくなってしまった。

【原因】

そのパソコンが以前接続されていた LAN 環境で運用されていたサービスやアプリケーションが WAN 環境にはふさわしくないものであることが原因です。

【調査方法】

問題のパソコンが立ち上がっているときと電源が OFF されているときとで、上記現象の発生の有無が変わることを確認します。

【対処方法】

詳細な原因は、問題となるサービスやアプリケーションに依存するため対応方法はさまざまです。特定のサーバや特定のサービスへのアクセスが原因の場合、IP フィルタリング機能を使用して無意味な発信を抑制します。またスケジューリング機能を使用することで防止できる場合もあります。いずれの場合にも回線ログ情報を確認して発信の契機となったサービスやアプリケーションを特定するか、もしくはそのパソコンの以前の利用者にサービス内容やアプリケーションの設定内容を確認するなどして解決します。



回線ログ情報の確認 応用編 「回線ログ情報で運用状況を確認する」(P.264)

NetVehicle を移設した場合

【現象】

他の環境に接続していた NetVehicle を移設した、または NetVehicle が関係するネットワークの一部あるいは全部が変更になったところ、回線発信が頻発するようになった。または回線が切断されなくなった。

【原因】

NetVehicle の設定が新たな環境にふさわしくないものであることが原因です。

【調査方法】

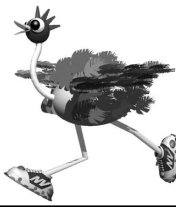
特に必要ありません。

【対処方法】

NetVehicle の設定を一度ご購入時の状態に戻したあと、新たに設定をし直してください。



「ご購入時の状態に戻すには」(P.106)



課金情報を確認する

NetVehicle の電源を入れてから現在までの、ISDN 回線に対する課金情報を確認することができます。

1. NetVehicle のトップページで、画面上部の [表示] アイコンをクリックします。
表示メニューが表示されます。

2. 表示メニューで「課金情報」をクリックします。
データ通信課金情報、接続先別データ通信課金情報、アナログポート課金情報、マルチ TA 課金情報が表示されます。

3. 以下の項目を確認します。

【データ通信課金情報】

- 通信総時間 データ通信の通信時間の累計です。
- 課金合計金額 データ通信の通信料金の累計です。
- 最長通信 データ通信の過去の記録において、1回の通信で最長の時間、通信料金、接続相手先です。
- 最高課金 データ通信の過去の記録において、1回の通信で最高金額、通信時間、接続相手先です。
- 最終接続 データ通信において、最新の通信での通信時間、通信料金、接続相手先です。

【接続先別データ通信課金情報】

接続先ごとの通信時間の累計および通信料金の累計が表示されます。

【マルチ TA 課金情報】

- 通信総時間 マルチ TA 通信の通信時間の累計です。
- 課金合計金額 マルチ TA 通信の通信料金の累計です。

データ通信課金情報クリア [データ通信課金情報クリア] ボタンをクリックすると、現在保持している上記 3 つの情報をすべてクリアします。

【アナログポート課金情報】

- 最長通信 アナログ通信の過去の記録において、1回の通信で最長の時間、通信料金、相手先電話番号です。
- 最高課金 アナログ通信の過去の記録において、1回の通信で最高金額、通信時間、相手先電話番号です。
- 最終接続 アナログ通信において、最新の通信での通信時間、通信料金、相手先電話番号です。
- 合計 アナログ通信の通信時間と通信料金の累計です。

アナログポート課金情報クリア [アナログポート課金情報クリア] ボタンをクリックすると、現在保持しているアナログポート課金情報をすべてクリアします。

全ての課金情報クリア [全ての課金情報クリア] ボタンをクリックすると、現在保持している課金情報をすべてクリアします。

【データ通信課金情報】

通信総時間	0000.00:00:00	
課金合計金額	0 円	
最長通信	ネットワーク名	-
	接続先名	-
	時間	0000.00:00:00
	金額	0 円
最高課金	ネットワーク名	-
	接続先名	-
	時間	0000.00:00:00
	金額	0 円
最終接続	ネットワーク名	-
	接続先名	-
	時間	0000.00:00:00
	金額	0 円

接続先別データ通信課金情報			
ネットワーク名	接続先名	時間	金額
TEST2	TEST2	0000.00:00:00	0円

マルチTA課金情報	
通信総時間	0000.00:00:00
課金合計金額	0 円

データ通信課金情報クリア

【アナログポート課金情報】

		電話番号	時間	金額
ポート1	最長通信	-	0000.00:00:00	0円
	最高課金	-	0000.00:00:00	0円
	最終接続	-	0000.00:00:00	0円
	合計		0000.00:00:00	0円
ポート2	最長通信	-	0000.00:00:00	0円
	最高課金	-	0000.00:00:00	0円
	最終接続	-	0000.00:00:00	0円
	合計		0000.00:00:00	0円
トータル	最長通信	-	0000.00:00:00	0円
	最高課金	-	0000.00:00:00	0円
	最終接続	-	0000.00:00:00	0円
	合計		0000.00:00:00	0円

アナログポート課金情報クリア

全ての課金情報クリア

通信課金情報は、他通信事業者との網間接続使用ユーザにとっても正しい課金値とはなりません。また通信時間は、網からトーン/アナウンスしている時間を含みます。アナログポート課金情報のトータルはポート1とポート2の合計とは異なる場合があります。(例: 疑似着信転送時の課金情報はポートを特定できないため、トータルのみ課金情報が反映されます。)



こんな事に気をつけて

- 本書の表記で使われる通信料金とは、INS ネット 64 基本サービスの「料金情報通知」をもとに、NetVehicle のソフトウェアが算出した値です。算出される値は、お客様の契約や回線利用状況により異なりますので、請求金額とは必ずしも一致しません。
例えば以下のような場合があります。
 - INS テレホーダイ利用時
 - NTT DoCoMo 以外の自動車電話・携帯電話と通話した場合
 - PHS と通話した場合 (PIAFS によるデータ通信も含む)
- 本装置の電源を切ると、課金情報はすべてクリアされます。

.....



困ったときには

この章では、
通信ができなくなった場合や、NetVehicle が故障した場合の
対処方法を説明します。

通信ができない場合には	98
起動時の動作に関するトラブル	98
NetVehicle 設定時のトラブル	99
回線への接続に関するトラブル	100
データ通信に関するトラブル	103
アナログ機器に関するトラブル	105
その他のトラブル	105
ご購入時の状態に戻すには	106



通信ができない場合には

通信ができない場合、さまざまな原因が考えられます。まず、以下を参考に NetVehicle の動作状況を確認してみてください。



回線ログやエラー番号からトラブルの原因を探る

表示メニューの「回線ログ」ページに表示された内容やメンテナンスメニューの「エラーログ情報」ページに表示されたエラー番号から、エラーの原因をある程度特定できます。

回線ログ情報やエラーログ情報ページのプリントアウトを保管しておくことをお勧めします。

警告

- ・決してご自身では修理を行わないでください。
- ・NetVehicle が故障した場合は、「NetVehicle サポートセンター」に連絡の上、メンテナンスを受けてください。

起動時の動作に関するトラブル

NetVehicle 起動時のトラブルには、以下のようなものがあります。

POWER ランプがつかない

【原因】 電源ケーブルがコンセントに正しく接続されていない。

【対処】 電源ケーブルをコンセントに正しく接続してください。

【原因】 NetVehicle の電源スイッチが入っていない。

【対処】 NetVehicle の電源スイッチが「|」側へ押されているか確認してください。

電源を入れてしばらくしても CHECK ランプが消灯しない

【原因】 本体に異常が発生しました。

【対処】 「NetVehicle サポートセンター」へ連絡してください。

ISDN 回線につないで電源を入れたら、B1/B2 のランプが橙色で点滅している

【原因】 ISDN 回線ケーブルがきちんと差し込まれていない。

【対処】 ISDN 回線ケーブルをきちんと差し込んでください。

【原因】 ISDN 回線の極性が反転している。

【対処】 NetVehicle 本体の電源を切り、ディップスイッチの設定で極性を変更して、再度電源を入れてください。

【原因】 ISDN 回線で同期外れが発生している。

【対処】 NTT に調査を依頼してください。

【原因】 回線契約（専用線）と NetVehicle の設定が間違っている。

【対処】 NetVehicle の設定を回線契約に合わせて正しく行ってください。

NetVehicle 設定時のトラブル

ブラウザでマニュアルどおりのURLを指定したがNetVehicleのトップページが表示されない

【原因】 接続に誤りがある。または、10BASE-Tケーブルが断線している。

【対処】 接続したHUBポートに該当するHUB LEDが点灯しているかを確認してください。点灯していない場合には正しく接続されていないか、ケーブルが断線している可能性があります。パソコンとNetVehicleに10BASE-Tケーブルがきちんと差し込んであることを確認し、それでもHUB LEDが点灯しない場合には別の10BASE-Tケーブルに交換してみてください。

【原因】 パソコンのIPアドレスやネットマスクが間違っている。

【対処】 ・パソコンの設定でIPアドレスやネットマスクを設定している場合には、NetVehicleと通信できるIPアドレスが設定されているかどうかを確認してください。NetVehicleのIPアドレスやネットマスクを変更していない場合には、パソコンには以下の範囲で設定を行う必要があります。

IPアドレス : 192.168.1.2 ~ 192.168.1.254

ネットマスク : 255.255.255.0

- ・NetVehicleのDHCPサーバ機能を利用している場合には、パソコンを再起動してください。
- ・Windows® 98の場合は、「プライベートIPアドレス自動割り当て」機構により、DHCPサーバから自動取得する設定にしている場合でも、169.254.XX.XXというIPアドレスが設定される場合があります。この場合はIPアドレスを固定で割り当てても通信できないことが多いため、ネットワークドライバとTCP/IPを入れ直してください。

補足 パソコン側のIP設定は、winipcfgコマンド(Windows® 95/98/Meの場合)やipconfigコマンド(Windows® 2000/WindowsNT®の場合)で確認できます。

【原因】 パソコンとTAでインターネットに接続したときの設定が残っている。

【対処】 LANインタフェースのIPアドレスを再割り当てするため、パソコンを再起動してください。

【原因】 WWWブラウザの設定が間違っている。

【対処】 ・WWWブラウザ(Microsoft Internet Explorer 5.5)の場合、[ツール] [インターネットオプション] [接続]において、インターネットオプション画面のダイヤルアップの設定で「ダイヤルしない」が選択されていることを確認してください。「通常の接続でダイヤルする」が選択されているとWWWブラウザを起動するたびにモデムやTAからインターネットへ接続しようとしてNetVehicleと通信できない可能性があります。

- ・WWWブラウザの設定でProxyサーバの設定が有効になっている可能性があります。[ツール] [インターネットオプション] [接続] [LANの設定]において、プロキシサーバの欄で「プロキシサーバを使用する」のチェックを外し、Proxyサーバを使用しない状態にしてください。また、Proxyサーバを使用する場合は、[プロキシの設定]において例外の欄にNetVehicleのIPアドレス(NetVehicleのIPアドレスを変更していない場合は192.168.1.1)を追加してください。

【原因】 パソコンのARPエントリの値がおかしくなっている。

【対処】 NetVehicleと同じIPアドレスを持つ機器と通信した直後に、パソコンの電源を落とさずそのままNetVehicleへ接続変更を行った場合には通信できません。しばらく待つか、パソコンを再起動してください。

【原因】 NetVehicleと同じIPアドレスを持つ機器が接続されている。

【対処】 IPアドレスが重複している機器がLAN上に存在すると、正しく通信できません。NetVehicleから設定を行うパソコン以外を接続している10BASE-Tケーブルを外し、パソコンを再起動してください。

【原因】 NetVehicle の IP アドレスが変更されている。

【対処】 変更後の NetVehicle の IP アドレスを指定してください。

【原因】 パソコンの IP アドレスを変更していない。

【対処】 NetVehicle の IP アドレスを変更した場合、必ずパソコン側の IP アドレスもそれに合わせて変更します。

NetVehicle の DHCP サーバ機能を利用している場合：パソコンを再起動してください。

NetVehicle の DHCP サーバ機能を利用していない場合：

パソコンの IP アドレスを NetVehicle と直接通信可能なアドレスに変更してください。また、ネットマスクを NetVehicle に設定した値と同じ値に設定してください。このとき、DNS サーバの IP アドレスも忘れずに入力してください。

ブラウザの [戻る] ボタン、またはエラー画面の [1 つ前に戻る] ボタンで戻ったあと、[更新] ボタンをクリックした場合、入力したパスワードが削除された

【原因】 ブラウザの仕様です。

【対処】 ご使用のブラウザによっては、画面を移動するとパスワード情報（入力データが「*」で表示されるテキストボックス）が削除されます。この場合は、パスワード情報を再入力してください。

変更した NetVehicle の IP アドレスがわからなくなった

NetVehicle に設定した管理者パスワードがわからなくなった

【対処】 NetVehicle をご購入時の状態に戻してください。こうすることで管理者パスワードを削除し、IP アドレスを「192.168.1.1」に戻すことができます。それまでに設定した内容はすべて消えてしまいますので、最初から設定をやり直してください。



「ご購入時の状態に戻すには」(P.106)

回線への接続に関するトラブル

NetVehicle で回線に接続する際のトラブルには、以下のようなものがあります。

● 回線に接続できないときには、まず表示メニューで「回線ログ情報」を選択して、エラーの原因を確認してください。

・「回線ログ情報」では原因が判別できなかった場合は、以下のチェック項目を確認してください。

ISDN で相手先につながらない (B1/B2 ランプがまったく点灯しない)

このような場合は、まず表示メニューで「回線ログ情報」をクリックして、エラーの原因を確認してください。ログの内容および ISDN 理由表示番号から原因を特定することができます。

【原因】 接続先が話し中である。

【対処】 時間を置いてから接続をやり直してください。

【原因】 接続先の電話番号、サブアドレスの設定に誤りがある。

【対処】 接続先の電話番号、サブアドレスを正しく設定してください。

● 詳細設定で設定してある場合は、「接続先情報設定」で設定を変更します。

【原因】 接続先から拒否されている。

【対処】 接続先の管理者に問い合わせてください。

【原因】 モジュラジャックの極性が反転している。

【対処】 モジュラジャックの極性が逆転している可能性があります。ISDN U スイッチの設定を切り替えてください。

- 【原因】 課金制限値、または接続時間制限値を超えている。
- 【対処】 課金情報を確認し、設定した制限値を超えていないかどうかを確認してください。初期値として「金額：3000円」が設定されています。設定を変更するか、課金情報をクリアしてください。課金情報のクリアは、初期値として「毎週金曜日の0:00」が設定されています。
- 【原因】 スケジュール情報の月間/週間予約の動作に発信抑止を設定している場合、予約時間/終了時間、またはNetVehicleの時刻が正しく設定されていない。
- 【対処】 発信抑止の予約時間/終了時間、またはNetVehicleの時刻を正しく設定してください。
- 【原因】 発信が連続して失敗した場合、3分間に2回を超える再発信を行おうとすると、NetVehicleが自動発信を抑止する。
- 【対処】 回線ログの情報から発信失敗の原因を確認してください。また、接続先情報の設定を確認し、誤りがあった場合は正しく設定し直してください。
- 【原因】 認証エラーなどの発信失敗が30回連続して発生したため、NetVehicleが自動発信を抑止している。
- 【対処】 回線ログの情報から発信失敗の原因を確認してください。また、接続先情報の設定内容を確認し、誤りがあった場合は正しく設定し直してください。接続先情報の設定内容を変更して設定反映するか、または装置を再起動すると自動発信の抑止状態は解除されます。

ISDNで相手先につながらない(B1/B2 LEDは一時は点灯するが、すぐ消灯する)

PPPネゴシエーションで切断されている可能性があります。表示メニューの「回線ログ」およびメンテナンスメニューの「PPPフレームトレース」で原因を特定することができます。

- 【原因】 認証に失敗した。
- 【対処】 送信する認証ID、認証パスワードを正しく設定してください。
- 【原因】 PPPネゴシエーションに失敗した。
- 【対処】 接続先に適合するように設定を変更してください。

補足 PPPネゴシエーションの結果は「回線ログ情報」に、動作に関する情報は「PPPフレームトレース情報」に記載されます。

ISDNで相手先につながらない(B1/B2ランプは点灯しているが、通信ができない)

- 【原因】 パソコンのルーティング情報の設定に誤りがある。
- 【対処】 パソコンのルーティング情報を正しく設定してください。
- 【原因】 パソコンのDNSサーバアドレスの設定に誤りがある。
- 【対処】 DHCPを利用していない場合には、以下の設定を行ってください。
 NetVehicleのProxyDNSを利用する場合：
 DNSサーバIPアドレスにNetVehicleのIPアドレスを設定してください。
 NetVehicleのProxyDNSを利用しない場合：
 正しいDNSサーバIPアドレスを設定してください。
- 【原因】 NetVehicleのルーティング情報の設定に誤りがある。
- 【対処】 NetVehicleの「ダイナミックルーティング情報」、「スタティックルーティング情報」を正しく設定してください。
- 【原因】 接続先がDNSサーバアドレスの通知機能を持っていない。
- 【対処】 かんたん設定(インターネットへ)の場合は、プロバイダから通知されたDNSサーバアドレスを指定してください。
 詳細設定の場合は、接続先情報設定にDNSサーバアドレスを指定してください。
- 【原因】 IPフィルタによって遮断されている。
- 【対処】 IPフィルタの設定を見直してください。

HSDで相手先につながらない

【原因】 NetVehicle の設定に誤りがある。

【対処】 ・「回線情報設定」で、正しい回線を選択しているかどうかを確認してください。
・「LAN 情報設定」および「ネットワーク情報設定」で、正しい IP アドレス、ルーティング情報を設定しているかどうかを確認してください。
・「接続先情報設定」で、正しい DNS サーバを設定しているかどうかを確認してください。

【原因】 パソコンの設定に誤りがある。

【対処】 「ISDN で相手先につながらない (B1/B2 LED は点灯しているが、通信ができない)」場合を参考にして、正しい設定を行ってください。

【原因】 HSD の回線自体に異常がある。

【対処】 NTT に調査を依頼してください。

回線がつながりっぱなしになっている

【原因】 接続先から定期的にデータを受信している。

【対処】 接続先から RIP、ICMP、Keep Alive などのパケットが送信されていないか確認してください。

【原因】 「LAN 情報設定」および「ネットワーク情報設定」の設定に誤りがある。

【対処】 ・「LAN 情報設定」および「ネットワーク情報設定」で、RIP 送信しない / RIP 受信しない、に設定を変更してください。
・「LAN 情報設定」および「ネットワーク情報設定」で、IP アドレス、ルーティング情報設定に誤りがないかを確認してください。

【原因】 ネットワーク上のコンピュータが通信を行っている。

【対処】 コンピュータが通信していないかどうか、またアプリケーションが定期的に通信を行う設定になっていないかどうかを確認してください。

【原因】 テレホーダイ機能を使用している

【対処】 テレホーダイ機能を停止してください。

【原因】 回線接続中にパソコンやワークステーションが誤動作した。

【対処】 NetVehicle の電源を切って、回線を切断してください。

WindowsNT® 4.0 でネットワークにログインするたびに回線が勝手につながってしまう

【原因】 Remote Access Service (RAS) 機能の設定が原因です。

【対処】 以下の手順で設定を変更してください。

コントロールパネルで [サービス] アイコンをダブルクリックする。

一覧から「Remote Access Autodial Manager」を選択し、[停止] ボタンをクリックする。

[スタートアップ] をクリックし、「手動」か「無効」を選択する。

Windows® 95/98 で 15 分に 1 回ずつ回線が勝手につながってしまう

【原因】 Windows® 95/98 が使用している通信プロトコル「NetBIOS over TCP/IP」が原因の場合があります。

【対処】 IP フィルタリング機能を使って、ポート番号 137 ~ 139 でのデータ通信を遮断するか、以下の手順で Windows® 95/98 の設定を変更してください。

コントロールパネルで [ネットワーク] アイコンをダブルクリックする。

TCP/IP のプロパティ画面で [バインド] タブを表示させる。

「Microsoft ネットワーク ...」のチェックマークをクリックして、空欄にする。

[OK] ボタンをクリックして、ウィンドウを閉じる。

画面の指示に従って、パソコンを再起動する。

Windows® 95からWindows® 98にOSをアップグレードしたら、Internet ExplorerでWWWページが閲覧できなくなった

Internet Explorerの設定が「モデムを使用してインターネットに接続」になっている可能性があります。以下の手順で設定を変更してください。

Internet Explorerのメニューから [表示] をクリックする。

[インターネットオプション] をクリックする。

[接続] タグをクリックする。

接続の設定を「LANを使用してインターネットに接続」に変更し、[OK] ボタンをクリックして、ウィンドウを閉じる。

Windows®のアクティブデスクトップを使用すると、時々回線が自動的につながってしまう

アクティブデスクトップのInternet Explorerチャンネルバーの中のサイトを「購読」する設定になっているなどの原因が考えられます。この場合は、以下の手順で設定を変更してください。

Internet Explorerのメニューから [お気に入り] をクリックする。

[購読の管理] をクリックする。

選択されているチャンネルを削除する。

データ通信に関するトラブル

NetVehicleでデータ通信を行う際のトラブルには、以下のようなものがあります。

回線はつながるが、データ通信ができない

【原因】 IPフィルタリング、ルーティング情報 (NetVehicle / 相手) または NAT の設定が間違っている。

【対処】 ・IPフィルタリングの設定やNATの設定をご利用のネットワーク環境や目的に合わせて、設定をやり直してみてください。

・設定をやり直しても、通信できない場合は、「NetVehicleサポートセンター」へ連絡してください。

回線は接続されてPingの応答は正常だが、WWWブラウザや電子メールは通信できない

【原因】 DNS の設定が間違っている。

【対処】 本装置のDHCPサーバおよびProxyDNSを使用するか、パソコン側でDNSサーバアドレスの設定を正しく行ってください。

回線は接続されるが「このサーバに対するDNS項目がありません」などメッセージが表示されてブラウザの表示が止まってしまう

【原因】 DHCPサーバ機能を利用している場合、NetVehicleの設定終了直後は、パソコン側にDNSアドレス情報が含まれていません。例えば、「製品情報 (telecom.fujitsu.com/jp/products/nv/) 」アイコンをクリックしてもホスト名「 telecom.fujitsu.com/jp/products/nv/ 」のIPアドレスを取り出せず、このようなメッセージが表示されてしまいます。

【対処】 パソコンを再起動して、DHCP (DNSサーバのIPアドレス) の最新情報をパソコン側に確実に反映させてください。

【原因】 DHCPサーバ機能を利用していない場合、DNSサーバのIPアドレスを手入力する必要があります。

【対処】 マニュアルに記載されている情報 (IPアドレス / ネットマスク / ゲートウェイ) に加え、DNSサーバのIPアドレスを設定してください。

詳細設定でIPアドレスを変更し再起動したらまったくつながらなくなった

【原因】 DHCPの設定が古い。

【対処】 かんたん設定の場合、IPアドレス変更と連動してDHCPの割り当て先頭IPアドレスが書き変わりますが、詳細設定の場合は連動しないため、個別に設定を変更する必要があります。書き変えない場合、以下の状態になります。

(例) NetVehicleのIPアドレスを「192.168.1.1」から「172.32.100.1」に変更した場合

	[変更前]		[変更後]	
	IPアドレス	DHCP先頭IPアドレス	IPアドレス	DHCP先頭IPアドレス
かんたん設定	192.168.1.1	192.168.1.2	172.32.100.1	172.32.100.2
詳細設定	192.168.1.1	192.168.1.2	172.32.100.1	192.168.1.2

ブラウザを立ち上げると勝手に回線が接続されてしまう

【原因】 ブラウザ起動時にインターネット上のページを表示するよう指定している。

【対処】 ブラウザ起動時に表示されるページに何も指定しないか、ローカルディスク上のファイルを指定してください。

「かんたん設定」のあと、疎通確認のためにpingを実行したが相手からの応答がない(発信もされない)

【原因】 「かんたん設定」で設定した際、「かんたんフィルタ」がかけられたためです。「かんたんフィルタ」では、「回線が切断されている時はICMP(ping)を通さない」設定になっています。

【対処】 pingを利用する場合は、IPフィルタリングの設定で、ICMPをフィルタリング対象から外してください。

通信相手への経路が複数ある場合に、最短の経路が選択されない

【原因】 以下の条件に一致する場合、ダイナミックルーティングによる経路選択が正確に処理できないことがありますすべて。

- ・NetVehicleに隣接するルータが複数ある。
- ・これらのルータの先のネットワークがメッシュ構成になっている。
- ・1つのホストに対して、これらのルータのうち、2つ以上から到達可能となっている。

【対処】 該当するインタフェースでのダイナミックルーティングの使用を中止し、スタティックルーティングを使用して最適な経路を設定してください。

本装置のDHCPサーバ機能を使用している環境で、「詳細設定」のLAN情報設定などの設定を変更し、「設定反映」したあと、通信できなくなった

【原因】 パソコンに変更前のIPアドレスの経路情報が残っている。

【対処】 一部のUNIX系OSでDHCPクライアントとして動作している場合、パソコンのIPアドレスを変更しても古い経路情報が残っており、正しく通信できない場合があります。この場合、パソコンを再起動して最新の情報をパソコンへ確実に反映させるか、またはIPアドレスを固定設定で使用してください。

フレッツ・ISDNを使用している環境で、回線はつながるが、一部のホームページが表示できない

【原因】 フレッツ・ISDNを使用している場合、接続地域やプロバイダによってはフレッツ・ADSLと同じ設備を経由している可能性があります。その場合、フラグメントを禁止してICMPを遮断している一部のWEBサイトを表示できないことがあります。

【対処】 本装置のMSS書き換え機能を使用してWEBサーバとの間でパケット分割が起きないようにすることで解決する場合があります。書き換えサイズを1414バイトに設定してください。

アナログ機器に関するトラブル

NetVehicleにつないだアナログ機器を利用する際に発生する主なトラブルとその対処方法としては、以下のようなものがあります。

アナログ機器で発信・着信できない

【原因】 NetVehicleの電源が入っていない。

【対処】 電源スイッチが「|」側へ押されていることを確認してください。

【原因】 停電中である。

【対処】 停電が復旧するまでお待ちください。

【原因】 LANに高い負担がかかっており、装置内部でアナログポートの制御ができなくなっている。

【対処】 装置前面にあるLANランプが消灯に近い状態のときはLANに対して高い負荷がかかっている状態です。この場合、LAN上での通信を一旦停止し、アナログ機器が使用できることを確認してください。

【原因】 接続に誤りがある。

【対処】 NetVehicleのアナログポートとアナログ機器のモジュラケーブルの接続を確認してください。

【原因】 アナログポートの設定に誤りがある。

【対処】 「アナログポート情報」で、着信条件を確認してください。

【原因】 1つのアナログポートに2台以上のアナログ機器を接続している。

【対処】 1つのアナログポートにはアナログ機器を1台だけ接続してください。

【原因】 NetVehicleが対応していない電話機を使用している。

【対処】 ・トーン式（プッシュ式）の電話機を使用していることを確認してください。

・電話機のトーン/パルス切り替えスイッチが「トーン」または「PB」に設定されているかを確認してください。

NetVehicleに接続された電話機に電話しても呼び出し音は聞こえるが、誰も電話に出ない

【原因】 電話機をつないでいない方のアナログポートに着信している。

【対処】 空いているアナログポートの設定を「使用しない」に変更してください。「アナログポート情報」（空いているアナログポートを選択）で「接続機器」を「なし」に選択したあと、[設定反映]をクリックしてください。

【原因】 グローバル着信しないに設定されている。

【対処】 「アナログポート情報」で「グローバル着信」を「する」に変更してください。変更後、[設定反映]をクリックしてください。

アナログポートにモデム経由でつないでいる電話が使えない

【対処】 1つのNetVehicleのアナログポートにはアナログ機器を1台だけ接続してください。

その他のトラブル

そのほか、以下のようなトラブルがあります。

データ通信はほとんどしていないはずなのに、通信料金の額が高い

【対処】 ・「回線ログ情報」と「システムログ情報」を確認してください。

・Windows®(TCP上のNetBIOS)環境のネットワークでは、セキュリティ上の問題と、超過課金を抑えるために、ポート番号137～139の外向きの転送経路をふさいでおく必要があります。必要に応じて「IPフィルタリング」の設定を行ってください。



ご購入時の状態に戻すには

NetVehicleを誤って設定した場合やトラブルが発生した場合には、NetVehicleをご購入時の状態に戻すことができます。

!! こんな事に気をつけて

ご購入時の状態に戻すと、それまでの設定内容がすべて失われます。構成定義情報の退避、または設定内容をメモしておきましょう。

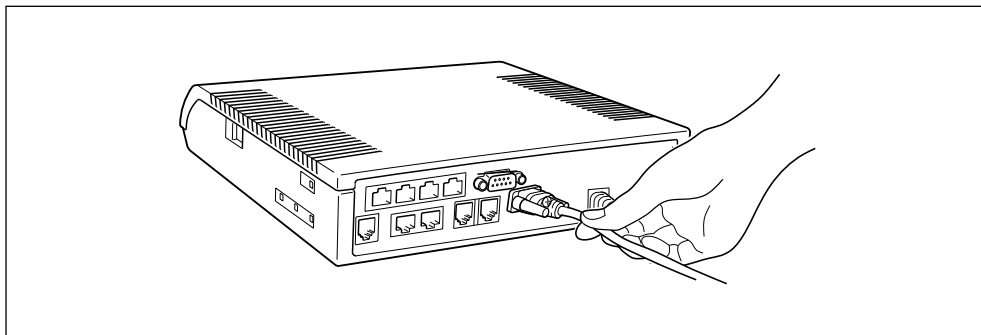
「構成定義情報を退避する / 復元する」応用編 (P.271)

用意するもの

- RS232Cケーブル (クロス、NetVehicleに接続する側がメス型9ピンのD-SUBコネクタ)
- ターミナルソフト (Windows® 95/98 や WindowsNT® 4.0 に標準で装備されている「HyperTerminal」など)

NetVehicle とパソコンをRS232C ケーブルで接続する

NetVehicle とパソコンを接続します。



NetVehicle をご購入時の状態に戻す

1. コンピュータでターミナルソフトを起動します。
2. 通信条件を以下のように設定します。

スタート Bit	データ Bit	パリティ Bit	ストップ Bit	同期方式	通信速度	フロー制御
1	8	なし	1	非同期	9600	Xon/Xoff

通信条件の設定方法については、ターミナルソフトのマニュアルを参照してください。

3. [Return] キーまたは [Enter] キーを押します。
4. 画面に「>」と表示されたことを確認します。

画面に「>」が表示されない場合は、通信条件の「フロー制御」を「なし」または「Xon/Xoff」にしてみてください。

5. キーボードから logon と入力して、[Return] キーまたは [Enter] キーを押します。
6. 画面に「 # 」と表示されたことを確認します。
7. キーボードから reset clear と入力して、[Return] キーまたは [Enter] キーを押します。
NetVehicle がご購入時の状態で起動します。

```
> logon  
# reset clear (下線部入力)
```




付 録

この章では、
バックアップ用電池の入れ方などの補足事項を説明します。

バックアップ用電池について	110
電池に関するご注意	110
電池をセットする	111
停電時の動作について	112
スイッチ設定例	113
NetVehicle の DSU を使用して他の ISDN 機器をつなぐ ...	113
NetVehicle を既設の DSU に接続する	115
ダイヤル操作早見表	117
NTT との契約が必要な機能	119
添付 CD-ROM の内容について	120
仕様	121
ハードウェア仕様	121
ソフトウェア仕様	122
コンソールポート仕様	124
設定内容をメモする	125
索引	126



バックアップ用電池について

NetVehicle には、バックアップ用の電池をセットできます。

停電などで NetVehicle への電源供給が止まると、バックアップ用電池を使った動作に切り替わります。

電池に関するご注意

下記のことを必ず守ってください。電池の使い方を間違えますと、液もれや装置の破損、破壊がおこり、装置の故障やけがの原因となります。

⚠警告


- ・電池の⊕・⊖を正しく入れてください。⊕・⊖を間違えると電池が破損および破裂、液もれするおそれがあります。
- ・電池は、幼児の手の届かないところに置いてください。万一飲み込んだ場合には、直ちに医師に相談してください。
- ・電池をショートさせたり、分解、加熱、火に入れるなどしないでください。アルカリ性溶液がもれて目に入ったり、発熱、破裂の原因となります。
- ・アルカリ性溶液が衣服に付着した場合は、きれいな水で洗い流してください。万一目に入ったり、皮膚に付着した場合は、きれいな水で洗ったあと、医師に相談してください。
- ・電池が液もれを起こした場合、もれた液を絶対にさわったり、なめたりしないでください。

⚠注意

電池について

- ・本装置に使用する乾電池には、必ず単3のアルカリ乾電池（LR6）をご使用ください。
- ・古い電池、種類の違う電池、異なるメーカーの電池を新しい電池と混ぜて使わないでください。
- ・電池に直接ハンダ付けをしないでください。
- ・使い切った電池はすぐに装置から取り外してください。
- ・電池を保管する場合は、直射日光、高温、多湿の場所を避けてください。
- ・落下などによって変形した電池を使用しないでください。

電池交換について

- ・電池を交換する場合は、必ず電源スイッチを「」側にして、ケーブル類（電源ケーブル、10BASE-T ケーブル、ISDN 回線ケーブル、モジュラケーブル、RS232C ケーブル）をすべて取り外してから作業を行ってください。
- ・電池を交換する場合は、装置底面を上にして、机の上など安定した場所に置いて作業してください。装置を立てたり持ち上げて作業すると、電池ホルダが飛び出したり、装置が落下するなどして、破損やけがの原因になります。
- ・必ずすべての電池を新しいものと交換してください。
- ・電池を装置に装着したまま停電がない場合でも、1年に1度の割合で新しい電池と交換してください。
- ・停電発生後は、新しい乾電池と交換することをお勧めします。
- ・本装置を長期間使用しない場合は、電池を外して保管してください。

電池をセットする

バックアップ用電池は、単 3 アルカリ乾電池を 8 本使用します。市販のものを別途ご購入ください。

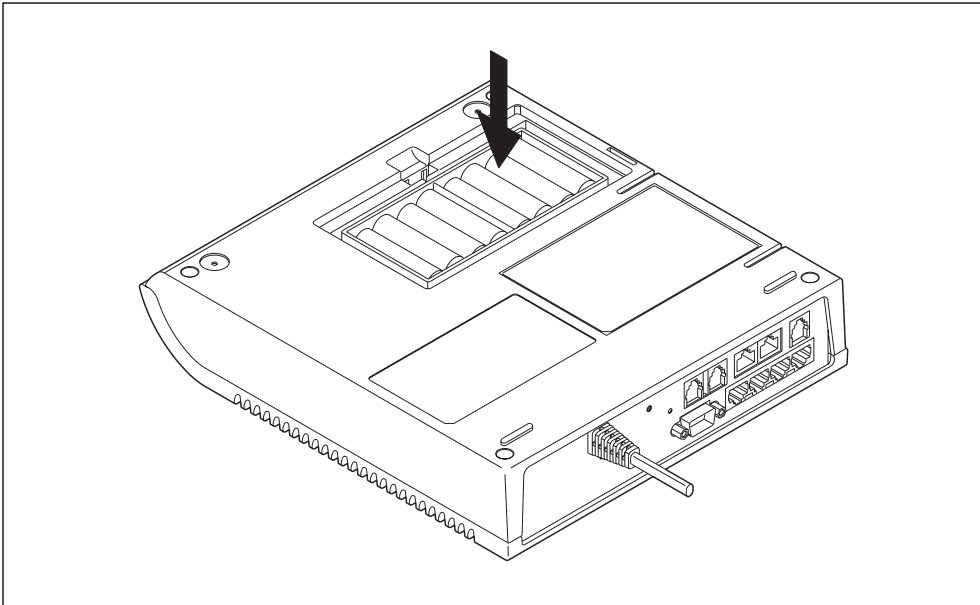
1. NetVehicle の電源を切ります。
2. NetVehicle につないでいるケーブルをすべて取り外します。
3. NetVehicle の底面を上にして、机の上などの安定した場所に置きます。



こんな事に気をつけて・・
NetVehicle を持ち上げたままで作業しないでください。

・・

4. 電池ボックスのフタを取り外します。
5. 表示に従って、⊕と⊖を間違えないように電池を入れます。



⚠警告

⊕と⊖は正しく装着してください。⊕と⊖を間違えると電池の破損や破壊を招き、NetVehicle の破損やけがの原因になります。

6. 電池ボックスのフタを閉めます。



電池を長持ちさせるには

停電時以外は、電池を取り外しておくことをお勧めします。入れっぱなしにしている状態よりも、電池が長持ちします。

■ 停電時の動作について

バックアップ用電池を利用すると、停電時にアナログポート(TEL1)につないだ電話機がご使用になれます。

バックアップ用電池で動作中は、NetVehicleのPOWERランプが緑色で点滅(点灯約0.5秒、消灯約2.5秒)します。POWERランプ以外は消灯します。操作パネルのボタンは使用できません。



こんな事に気をつけて

- バックアップ用電池で動作中は、アナログポート(TEL2)、10BASE-Tポートにつないだ機器は使用できません。
- アナログポート(TEL2)で通話中に停電しても、その通話が終了するまでは使用できます。

.....



スイッチ設定例

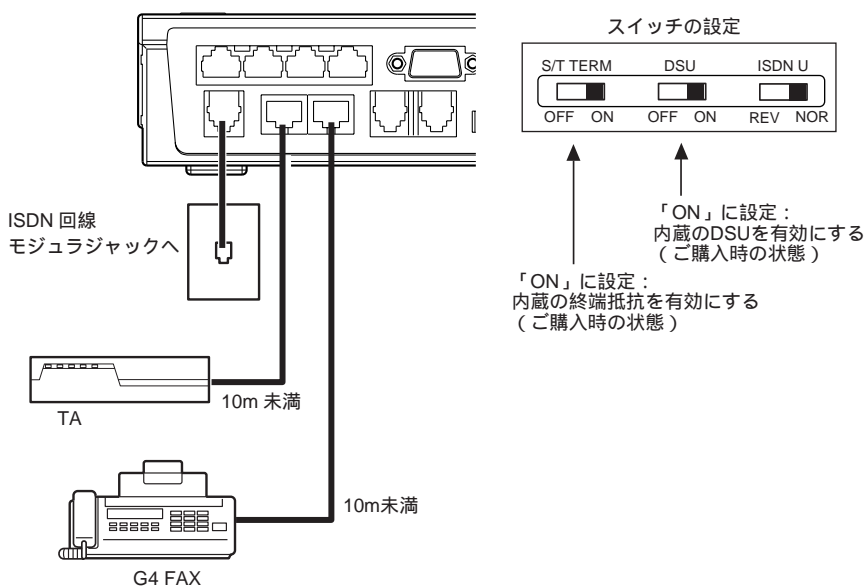
デジタル電話機やG4FAXなど、他のISDN機器をNetVehicleのDSUにつないだり、既設のDSUにNetVehicleをつなぐときは、NetVehicle側面のスイッチの設定を変更する必要があります。

NetVehicleのDSUを使用して他のISDN機器をつなぐ

NetVehicleのISDN S/TポートからISDN機器までのケーブルの長さによって、スイッチの設定が異なります。使用する環境を確認した上で、必要な設定を行ってください。

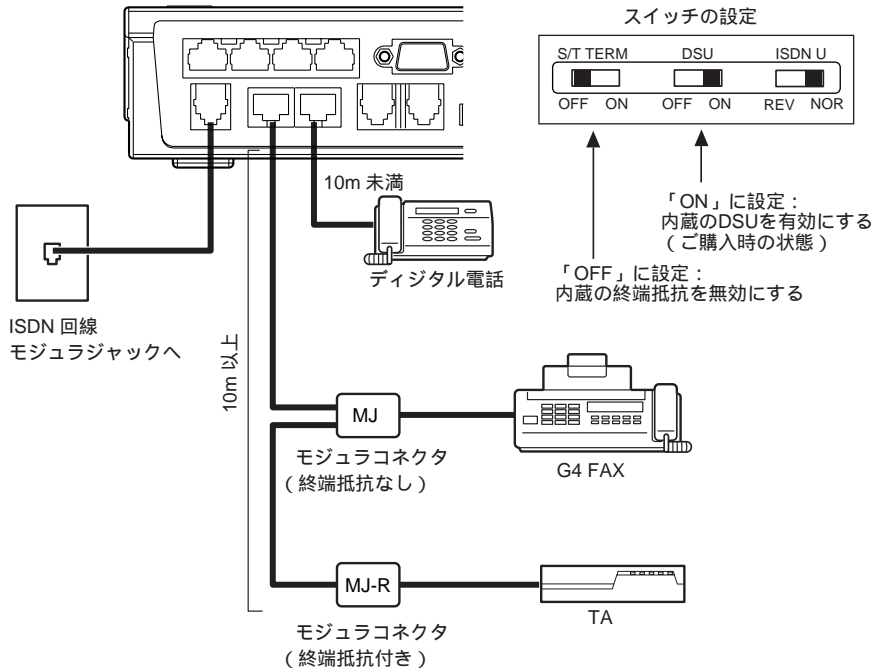
ISDN機器を10m未満の長さのケーブルでつなぐ場合

スイッチの設定は、ご購入時の設定のまま変更する必要はありません。



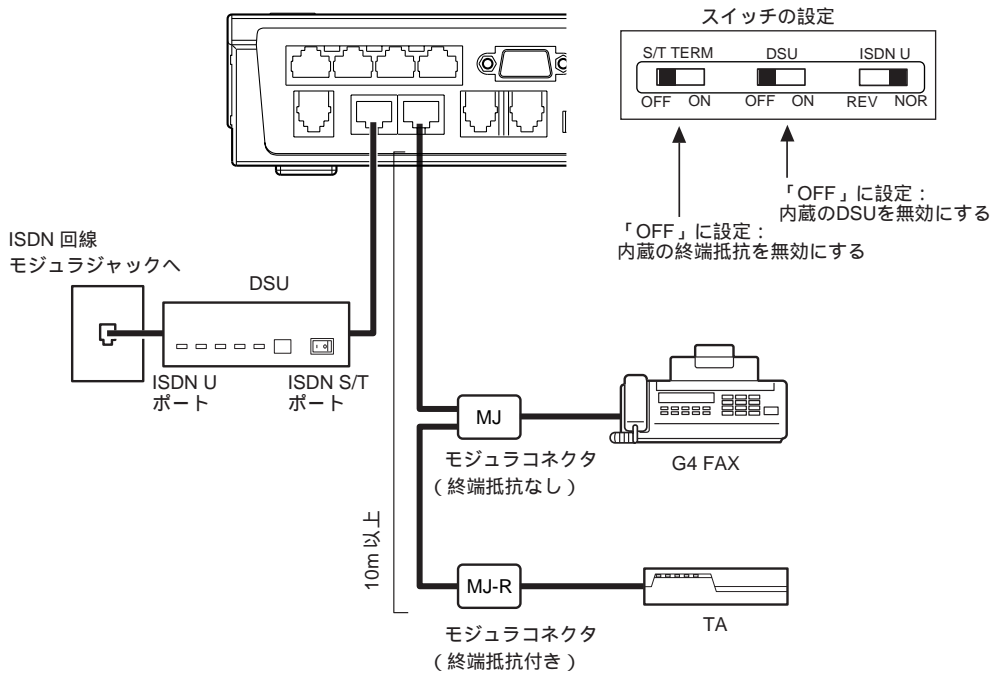
他の ISDN 機器をバス接続する場合

下図のようにバス配線し、最後尾の機器までのケーブル長が 10m を超えるときは NetVehicle の終端抵抗を無効とし、バス配線上の最後尾に位置するモジュラコネクタに終端抵抗を備えてください。スイッチの設定を、右下のように変更してください。



他の ISDN 機器をバス接続する場合

下図のようにバス配線し、最後尾の機器までのケーブル長が10mを超えるときは、NetVehicleの終端抵抗を無効とし、バス配線上の最後尾に位置するモジュラコネクタに終端抵抗を備えてください。スイッチの設定を、右下のように変更してください。



- !! こんな事に気をつけて
- バス配線上の最後尾に位置するモジュラコネクタに有効となる終端抵抗を備えてください。
 - スイッチの設定を上記のように変更した場合、DSUにつないでない方のNetVehicleのISDN S/Tポートは上図のようなバス配線を必ず行ってください。
-



ダイヤル操作早見表

よく使うアナログ機能のダイヤルで行う操作の一覧です。

項 目		操 作	
かけ方・受け方	外線電話をかける	受話器を上げる	相手電話番号 話をする
	リダイヤルする	受話器を上げる	*8 話をする
	サブアドレスを使う	受話器を上げる	相手電話番号 * サブアドレス 話をする
	電話を受ける	リング音が鳴る	受話器を上げる 話をする
内線通話・内線転送	内線相手と話す	受話器を上げる	*0 01 または 02 話をする
	内線転送する	外線通話中 フッキング	*0 01 または 02 話をする 受話器を置く
フレックスホン	キャッチホン	Aと外線通話中 フッキング	Bと話をする
	三者通話	Aと外線通話中 フッキング2回	Bの電話番号 Bと話をする 3人で話をする
	通信中転送	Aと外線通話中 フッキング	Bの電話番号 Bと話をする 受話器を置く AとBで話をする
疑似迷惑電話お断り	通話中の相手を登録する	外線通話中	*9# 受話器を置く
発信者番号通知の選択	契約者回線番号	受話器を上げる	*70 相手電話番号 話をする
	ポート1ダイヤルイン番号	受話器を上げる	*71 相手電話番号 話をする
	ポート2ダイヤルイン番号	受話器を上げる	*72 相手電話番号 話をする
	鳴り分け番号1	受話器を上げる	*73 相手電話番号 話をする
	鳴り分け番号2	受話器を上げる	*74 相手電話番号 話をする
	鳴り分け番号3	受話器を上げる	*75 相手電話番号 話をする
アナログ機能の設定	i・ナンバーの設定	受話器を上げる	*0*220N 受話器を置く N 使用しない：1、使用する：2
	鳴り分け番号の動作モード	受話器を上げる	*0*22iN 受話器を置く i 鳴り分け番号1～3の数字 N ポート1のみ着信：1、ポート2のみ着信：2、両ポート着信：3、着信拒否：4

項 目		操 作	
アナログ機能の設定	ポート接続機器の設定	受話器を上げる *0*40PIN 受話器を置く P ポート番号1または2 N ない：1、電話：2、モデム：3、FAX：4、FAX無鳴動強制着信：5、FAX無鳴動識別着信：6、FAXキャッチホン着信：7	
	ナンバー・ディスプレイ機能の設定	受話器を上げる *0*41PIN 受話器を置く P ポート番号1または2 N 使用しない：1、使用する（モード1）：2、使用する（モード2）：3	
	着信転送機能の設定	受話器を上げる *0*600N 受話器を置く N 使用しない：1、着信転送：2、疑似着信転送：3	
	スタンバイモードの設定	受話器を上げる *0*800N 受話器を置く N 通常モードにする：1、スタンバイモードにする：2	
	スタンバイモードにする	受話器を上げる *5 受話器を置く	
	通常モードにする	受話器を上げる *6 受話器を置く	
着信転送先の設定	契約者回線番号の転送	受話器を上げる *0*610 転送先電話番号 受話器を置く	
	ポート1ダイヤルインの転送	受話器を上げる *0*611 転送先電話番号 受話器を置く	
	ポート2ダイヤルインの転送	受話器を上げる *0*612 転送先電話番号 受話器を置く	
	鳴り分け番号1の転送	受話器を上げる *0*613 転送先電話番号 受話器を置く	
	鳴り分け番号2の転送	受話器を上げる *0*614 転送先電話番号 受話器を置く	
	鳴り分け番号3の転送	受話器を上げる *0*615 転送先電話番号 受話器を置く	
メールの設定	TELメールを使用しない	受話器を上げる *0*2101 受話器を置く	
	TELメールを使用する	受話器を上げる *0*2102 受話器を置く	
	メールチェックの実行	受話器を上げる *0*8300 受話器を置く	
	メール着信を消去する	受話器を上げる *0*8500 受話器を置く	
留守状態の設定	在宅	受話器を上げる *0*2001 受話器を置く	
	留守	受話器を上げる *0*2002 受話器を置く	
留守モードの設定	解除	受話器を上げる *0*8401 受話器を置く	
	実行	受話器を上げる *0*8402 受話器を置く	



NTT との契約が必要な機能

NetVehicleの機能を利用するために必要なNTTとの契約の一覧です。

NetVehicleの機能	ISDN契約内容および付加サービス	サービス内容
発信者番号通知 ボイスワープ NetVehicleどうしのコールバック	発信者番号通知（通常通知）	発信者の電話番号を相手に通知します。
メール着信通知 （@nifty（InfoWeb）） オンラインサポート	ユーザ間情報通知	通信開始時と通信終了時にメッセージを送受信できます。
BOD キャッチホン 三者通話 通信中転送 着信転送	通信中着信通知	Bチャンネルが2つとも使用中の場合に、3つめの着信を知らせます。
識別着信 疑似迷惑電話お断り 発信者番号表示 （ナンバー・ディスプレイ、 キャッチホンディスプレイ）	INSナンバー・ディスプレイ	発信者の電話番号を表示します。
キャッチホン	INSキャッチホン	通話中に着信があったときに、通話中の相手を保留にできます。
三者通話	三者通話	通話中に第三者に電話をかけて、三者間で通話できます。
通信中転送	通信中転送	通話中の電話を第三者に転送できます。
着信転送	着信転送	着信した電話を応答する前に第三者へ転送できます。
ボイスワープ	INSボイスワープまたは INSボイスワープ・セレクト	高機能な着信転送サービスです。
ダイヤルイン / グローバル着信	ダイヤルイン	電話番号を追加し、電話機ごとに鳴り分けができます。
i・ナンバー着信	i・ナンバー	電話番号を追加し、電話機ごとに鳴り分けができます。
モデムダイヤルイン アナログダイヤルイン	ダイヤルインまたは i・ナンバー	電話番号を追加し、電話機ごとに鳴り分けができます。



添付 CD-ROM の内容について

製品に添付されている CD-ROM の内容の一覧を示します。

CD-ROM 中の README ファイルには大切な情報が記載されていますので、必ずお読みください。

下記ソフトウェアをご使用になる場合は、各ソフトウェアの使用許諾事項をお読みになり、記載されている内容に同意の上、お客様の責任においてご使用ください。

また、使用によって発生する損失やデータの損失については富士通株式会社では一切責任を負いかねます。

Windows 版

- NetVehicle-S20 取扱説明書 基本編
- NetVehicle-S20 取扱説明書 応用編
- NetVehicle-S20 コマンドリファレンス
- Microsoft Internet Explorer 5.5
- Adobe Acrobat Reader 4.0

Macintosh 版

- NetVehicle-S20 取扱説明書 基本編
- NetVehicle-S20 取扱説明書 応用編
- NetVehicle-S20 コマンドリファレンス
- Microsoft Internet Explorer 5.0
- Adobe Acrobat Reader 4.0



仕 様

ハードウェア仕様

装置型名	LR50NVS20		
インターフェイス	ISDN (U)	規格	JT-G.961 (U点インタフェース)
		ポート数	1ポート
		コネクタ	6ピン・モジュラジャック (RJ11)
		DSU	内蔵
		その他	極性反転可能、DSU切離し可能
	ISDN (S/T)	規格	OTU-T 1.430 (S/T点インタフェース)
		ポート数	2ポート
		回線速度	Bチャンネル：64Kビット/秒および128Kビット/秒、32Kビット/秒 (PIAFS通信) (PIAFS通信の場合 32Kビット/秒および64ビット/秒) Dチャンネル：16Kビット/秒
		適用回線	INSネット64 および デジタル専用線
		コネクタ	8ピン・モジュラジャック (RJ45)
	LAN	規格	IEEE802.3 (10BASE-Tインタフェース)
		ポート数	4ポート
		通信速度	10Mビット/秒
		コネクタ	8ピン・モジュラジャック (RJ45)
	アナログ	2線式アナログインタフェース	
		ポート数	2ポート
		コネクタ	6ピン・モジュラジャック (RJ11)
		給電電圧	-48V
	コンソール	RS232Cインタフェース	
		ポート数	1ポート
通信速度		9600ビット/秒	
コネクタ		9ピン・DSUB	
電源/周波数	AC100V (50/60Hz)		
消費電力	10		
外形寸法	228mm (W) × 247mm (D) × 50mm (H) (突起部を除く)		
重量	1.3kg (乾電池を除く)		
温度/湿度	温度：5～35		
	湿度：10～90%RH		
適応規格	VCCI Class-B		
停電対応	TEL1ポートにつないだ電話で通話可能		

ソフトウェア仕様

データ通信に関する仕様

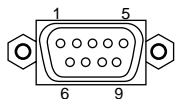
機能/分類	詳細
ルーティング対象プロトコル	IP
ルーティングプロトコル	スタティック、RIP、RIP2 (VLSM対応)
WANプロトコル	PPP、MP (BAP、BACP)
データ圧縮	VJ TCPヘッダ圧縮
セキュリティ	PAP/CHAP (最大32件) 管理者パスワード IPフィルタ : アドレス/ポート/IN/OUT/発信 (最大32)
設定手段	WWWブラウザ : かんたん設定/詳細設定
ロギング	回線ログ、課金情報、PPPフレームトレース、システムログ
回線接続先	登録可能数: 最大16箇所 同時接続 : 2箇所
回線接続/切断契機	自動、または手動
アドレス変換機能	マルチNAT
コールバック	CBCP方式、無課金方式
PIAFS対応	発信/着信可能
接続相手識別	発信者番号通知による識別、認証IDによる識別
不特定相手着信	あり
簡単/便利機能	<p>テレホーダイ対応 マルチダイヤル機能 (3箇所) DHCPサーバ機能 (最大32台) - DHCPスタティック機能 (IPアドレス固定)</p> <p>ProxyDNS機能 - DNSサーバ自動切り替え機能 - DNSサーバアドレスの自動取得機能 (RFC1877対応) - DNSサーバ機能</p> <p>URLフィルタ機能 Proxy ARP 時刻機能: 手動設定、またはTIMEプロトコル/SNTPによる取得 マルチルーティング機能: ソースアドレス単位、ポート単位、課金単位の混在設定可能</p> <p>最適切断タイマ 課金制御機能: 接続禁止時間設定 超過課金アラーム (システムログ出力)</p> <p>かんたんフィルタ リモートパワーオン機能 (Wake up on LAN対応機器の遠隔起動) Eメールエージェント機能: メールチェック、リモートメールチェック、メール転送、TELメール転送、メール着信通知</p> <p>留守モード機能 スケジュール機能 オンラインサポート機能 ネットワークゲーム対応 ワンタイムパスワード対応: 手動回線接続による</p>
レベルアップ	Webワンタッチ/FTPサーバ機能による

アナログ機能に関する仕様

機能 / 分類	詳細	備考
発着信	ナンバー・ディスプレイ	
	キャッチホン・ディスプレイ	
	ダイヤルイン	
	i・ナンバー	3番号対応
	グローバル着信	
	サブアドレス	
	FAX無鳴動着信	識別・強制を選択可能
	識別着信（相手番号）	相手ごとにポート優先、ポート指定、拒否を設定可能
	識別着信（着信番号）	
	発信規制	10件まで登録可能
	リング音選択可	3種類から選択可能
	発信者番号通知	
	発信者番号選択	
	優先ポート着信	
	発着信専用選択可	
	ダイヤル桁間タイマ	
	リバースパルス送出	
	留守状態確認（無課金）	
	疑似迷惑電話おことわり	
モデムダイヤルイン		
アナログダイヤルイン		
フレックスホン対応	キャッチホン / 三者通話 / 通信中転送 / 着信転送	自動切り替え可能
疑似フレックスホン	キャッチホン / 三者通話 / 通信中転送 / 着信転送	保留音あり、自動切り替え可能
INSボイスワープ対応		
内線機能	内線通話	
	内線転送	
補助機能	発着信記録	不在時にも相手電話番号記録
	受話音量調整	3段階に設定可能
	フッキング時間選択可	3段階に設定可能
	話中着信音キャンセル	
	迷惑電話登録	



コンソールポート仕様



コネクタ形状はD-SUB 9ピン - オス
ケーブルはクロス

ピン番号	信号名	方 向	内 容
1	CD	入力	キャリア検出
2	RD	入力	受信データ
3	TD	出力	送信データ
4	ER	出力	データ端末レディ
5	GND	-	グラウンド
6	DR	入力	データセットレディ
7	RS	出力	送信要求
8	CS	入力	送信可
9	CI	入力	呼び出し通知



設定内容をメモする

かんたん設定で設定した情報を忘れないように、ここにメモしておきましょう。

インターネットへISDN接続 オフィスへISDN接続	インターネットへフレッツ・ISDN接続 オフィスへ専用線接続	インターネットへ専用線接続	
接続先の電話番号			
ユーザ認証ID (発信)			
ユーザ認証パスワード (発信)			
ユーザ認証ID (着信)			
ユーザ認証パスワード (着信)			
NetVehicle の IP アドレス (ご購入時の設定は 192.168.1.1)			
NetVehicle の ネットマスク (ご購入時の設定は 255.255.255.0)			
相手ルータの IP アドレス (ご購入時の設定は 192.168.2.1)			
相手ルータの ネットマスク (ご購入時の設定は 255.255.255.0)			
使用する回線速度	64Kbps	128Kbps	
DNS サーバ	自動取得		
DHCP サーバ機能	使用する	使用しない	
	DNS サーバ広報		
接続先の電話番号 2			
接続先の電話番号 3			
無通信監視タイマ			
課金単位時間 (ご購入時の設定は 0 秒)			
接続ネットワーク名			
接続先名			
ドメイン名			
アドレス変換	使用しない	マルチ NAT	
	グローバルアドレス アドレス個数	個	
MP	使用する (手動)	使用する (自動)	使用しない
テレホーダイ	使用する (手動)	使用する (自動)	使用しない
かんたんフィルタ	使用する	使用しない	
データ圧縮	VJ		



索 引

英数字

10BASE-T ケーブル	22, 50
10BASE-T ポート	23, 24, 50
B1/B2 ランプ	23
BOD	29
CD-ROM	22
CHECK ランプ	23
DION (NEWEB)	31
DNS サーバ	30
DSU	24, 113
DSU スイッチ	25
G4FAX	113
HUB PORT	23
HUB PORT4 スイッチ	25
INS ネット 64	28
ipconfig	56, 99
IP アドレス	42
IP アドレスの設定	53, 83
ISDN S/T ポート	24
ISDN U ポート	24, 40
ISDN U スイッチ	25
ISDN 回線ケーブル	22, 25, 35, 40
ISDN 回線の接続	35
LAN カード	42
LAN の構築 (既存)	52
LAN の構築 (新規)	50
LAN ポート	42
LAN ランプ	23
MAC アドレス	56
Microsoft Internet Explorer	47
NAT	31
NetBIOS	105
Netscape Navigator	47
NetVehicle サポートページ	64, 68, 72
NTT	119
OCN エコノミー	31, 72
ODN エコノミー	31
POWER ランプ	23, 112
Proxy (プロキシ) サーバ機能	47
S/T TERM スイッチ	25
TCP/IP	42
Windows® 95	47
Windows® 98	45, 47
Windows® Me	47

winipcfg	56, 99
WWW ブラウザ	47, 56

あ

アナログ機器の接続	36
アナログ設定	57
アナログポート	23, 36, 38, 112
アナログポート (TEL1、TEL2).....	24
インターネットサービスプロバイダ	30
エラーログ情報	98
オンラインサポート	29

か

課金情報	94
かんたん設定	57
かんたん操作	57
かんたんフィルタ	61, 63, 104
かんたんメニュー	57
グローバルアドレス	72
警告表示	27
コールバック機能	29
構成定義クリア処理	106

さ

仕様	121
詳細設定	57
スイッチの設定	26
スタンバイモード	23
製造ラベル	27
設定内容のメモ	125
接続先	30
専用線 IP 接続	30
専用線の接続	40
操作メニュー	57
ソフトウェア仕様	122

た

ターミナルアダプタ	24, 115
ダイヤル操作	117
端末型ダイヤルアップ接続	30
通信中着信通知サービス	29
停電モード	23
電源ケーブル	22
電源スイッチ	25
電池ボックス	27, 111
時刻設定	58, 82

な

ネットマスク	42
ネットワーク型ダイヤルアップ接続	30

は

ハードウェア仕様	121
パスワード	30
バックアップ用電池	110
発信者番号通知サービス	29
表示メニュー	57
表示ランプ	23
ファームウェアの更新	14
プライベートアドレス	72
フレックスホン	29
フレッツ・ISDN.....	66
ブロードキャストアドレス	83
プロバイダ	30

ま

マルチ NAT	31, 72
マルチダイヤル	61
無課金コールバック	29
メール着信通知サービス	18, 29
メンテナンスメニュー	57
モジュラケーブル	24, 36

や

ユーザ間情報通知サービス	29
ユーザ認証 ID	30, 61
ユーザ認証パスワード	30

ら

リセット	106
リダイヤル	38
ログインパスワード	57

NetVehicle-S20 取扱説明書 基本編

P3NK-E162-04

発行日 2002年8月

発行責任 富士通株式会社

Printed in Japan

- ・本書の一部または全部を無断で他に転載しないよう、お願いいたします。
 - ・本書は、改善のために予告なしに変更することがあります。
 - ・本書に記載されたデータの使用に起因する第三者の特許権、その他の権利、損害については、当社はその責を負いません。
 - ・落丁、乱丁本は、お取り替えいたします。
-